

平成19年度 新規採択一覧(1/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191111001	3	1111	エスノグラフィー調査にもとづく豪雨災害対応プロセスの体系化と適切な対応行動学習のための自治体職員・住民向け研修プログラムの構築	富士常葉大学大学院環境防災研究科	教授	重川 希志依	静岡県	豪雨災害時に自治体職員、住民が適切な対応行動をとれない原因の1つは、初めて経験する災害において、その後の展開に対し見通しをたてられないことにある。そこで、被災経験のある自治体を対象として、エスノグラフィー調査を実施し、経験者の視点から見た豪雨災害対応プロセスの全体像を体系化する。それに基づき、豪雨災害時に自治体職員、住民の取るべき行動、ノウハウを整理した研修用教材と有効な研修プログラムを検討する。
191111002	2	1111	高空間分解能リアルタイム洪水予測モデルへの大規模フィルタリングシステムの導入と中小河川水位予測への展開	京都大学大学院工学研究科都市環境工業専攻	准教授	立川 康人	京都府	高空間分解能リアルタイム洪水予測モデルに大規模フィルタリングシステムを導入し、多地点での実時間水位・流量観測情報を時々刻々作用させて、モデル状態量の同化・初期値化を実現する。これにより実時間洪水予測の格段の精度向上を図る。さらに水文観測システムの不十分な中小河川流域を念頭に置き、任意の流域地点における水位・流量の実時間予測情報の提供を目指す。淀川流域(枚方上流域7, 630km2を対象流域とする)。
191112001	3	1112	渇水被害軽減のための河川水利用の有効な管理手法に関する事例的研究	独立行政法人・国立高等専門学校機構新居浜高専	校長	鈴木 幸一	愛媛県	四国最大の都市松山市は慢性的な水不足に悩まされていて、平成6年には1日5時間給水(19時間断水)が2ヶ月間続き市民生活に深刻な打撃を与えた。極度の渇水被害を軽減することを目的として、水源としている重信川の伏流水と支川石手川のダム水の利用を適切に管理する手法を開発する。すなわち、現在のダム貯水量・地下水位および今後の予測降雨量の下で、水資源の温存を考えた最適取水量の決定法を検討する。
191151001	3	1151	外来植物による河川敷の藪化、樹林化への管理手法の開発	埼玉大学大学院理工学研究科	教授	佐々木 寧	埼玉県	近年の緊急課題である河川の藪化・樹林化には、ハリエンジュ、アレチウリなど外来生物が関わっており、治水、環境上双方で問題が深刻である。生態学、河川水理の専門家が協同してその生態遷移方向、立地要因の解明と、樹林化のモデル化、シミュレーションによって有効で具体的河川管理手法を提案する。研究では他河川での研究者知見の集大成と、研究の一端に市民団体を加え、長期的な管理に河川管理者と連携する体勢を構築する。
191151002	3	1151	河川堤防の安全照査のための浸透・越流時の河川堤防の大変形解析法とその応用	京都大学大学院工学研究科	教授	岡 二三生	京都府	水に起因する災害を防止するための水と地盤のマルチフィジックス解析手法、具体的には粒子法に基づき豪雨による高水位時や越流時の堤防盛土の挙動の大変形のマルチフィジックスの解析法を確立し、堤防の安全性照査法を高度化するとともに、経済的で有効な対策とモニタリング方法を合理的に評価、提案することである。
191211001	1	1211	河床間隙水域の3次元水・物質フローモニタリング手法の実用化とその評価法の構築	北海道大学大学院農学研究院	助手	山田 浩之	北海道	高感度圧力センサーを用いた多点継続観測によって、間隙水域の水フローの時空間的モニタリング手法の実用化とその観測結果に基づいた水・物質フローの評価法の構築を目的とする。実際にこの方法をフィールドに適用し、従来の方法と比較することでこの方法の有効性と適用限界を検討する。さらに、実際に得られた観測・解析結果を用いて間隙水域の水文化学的機能についても検討する。
191211002	1	1211	新たな総合流域管理に向けた、マングローブ樹林帯における物質循環の解明	東京大学大学院新領域創成科学研究科	専任講師	鯉淵 幸生	千葉県	マングローブはその独自の形態により、河川流動を変え土砂堆積量を増やし、河川管理のみならず、サンゴ礁などの沿岸生態系に大きく影響を与える。本研究では河川形態の異なるマングローブ河川で比較調査を行い、マングローブが物質循環において果たす機能を定量化し、新たな総合河川管理手法へと活かす具体策を提案する。これにより、物質循環や河川の生態環境も含んだ、適切な総合流域管理が可能になる。
191211003	1	1211	市民参加による水循環モニタリングシステムの開発	(社)雨水貯留浸透技術協会	会長	高橋 裕	東京都	全国の河川流域の水循環マスタープランに基づく水循環再生を実行していくため、市民参加による水循環モニタリング手法の開発を行う。水質、水量、生物、雨水浸透施設の状況、緑地・農地の状況などについて簡便なモニタリング法の事例調査を行い、マニュアルの作成と体制を検討する。そして、モニタリング情報を流域住民が共有できるデータベースを開発するとともに、市民モニター育成講座の検討を行い、その試行実施を図る。
191211004	1	1211	ダム湖底に堆積した腐植酸鉄の生成機構と有効利用に関する調査研究	株式会社エコ・グリーン	代表取締役社長	堀家 茂一	東京都	H18年度「ダムに堆積した腐植酸鉄の有効利用に関する研究調査」の中間報告によると、ダム湖底には有効物質が大量に沈殿、生成、堆積している可能性が高いことが認められた。ひき続き、ダム底部に堆積した腐植酸鉄中の腐植酸鉄の分析、ダム上下流の河川水の水質調査、ダム後背地の植生土壌調査を行い腐植酸鉄の物質収支を調査して、その生成機構を明らかにし、ダム堆積物の有効利用技術開発に資する基礎資料を得るものである。

平成19年度 新規採択一覧(2/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191211005	1	1211	環境低負荷・資源循環型汚濁河川水の浄化に関する研究	東京農工大学大学院共生科学技術研究院	教授	細見 正明	東京都	これまで休耕田(人工湿地)で栽培した飼料イネにより、河川水からの窒素除去能力を評価し、ヨシ原とほぼ同様の浄化能力を認めた。しかしながら、常に湛水状態である人工湿地では温暖化ガスであるCH4の大量発生が懸念され、また硝化脱窒反応によるN2Oの放出も無視できない。そこで本研究では、田面水位の調節により土壌中の酸化還元電位を制御して、温暖化ガスの放出量を最小化した資源循環型の河川水浄化手法を提案する。
191211006	1	1211	都市河川における化学物質トレーサーを用いた目的別生活排水の短時間変動特性	東京大学大学院工学系研究科	研究員	真名垣 聡	東京都	生活排水を構成する洗濯、台所、風呂、トイレ排水の寄与率が都市河川においてどの程度日変動するのかが推定することを目的とする。各排水に特異的に含まれる化学物質をトレーサーとして用いて都市河川中における日変動を明らかにし、人の一日の生活サイクルと関連付けて議論する。さらにトレーサーの結果と一般水質指標を同時に評価することで各生活排水と水質指標との関連性を評価することを目指す。
191211007	1	1211	河川水中のフッ素化アルキル化合物の汚染源解析に関する研究	横浜国立大学大学院環境情報研究院	教授	益永 茂樹	神奈川県	フッ素化アルキル化合物(PFAC)は人や生物に広く残留し、新規汚染物質として注目されているが、汚染原因等は未解明である。申請者は河川水中PFAC濃度の河川流量による変化が、PFACの種類に依存することを見つけた。本研究では、地理情報システム(GIS)を利用した流域の状況とPFACの濃度や組成との関係、およびPFAC組成の違いに着目した発生源解析を通して、PFACの汚染原因と流入経路の解明を目指す。
191211008	1	1211	RFID技術を用いた落葉動態計測システムの開発	山梨大学大学院医学工学総合研究部	助教授	石平 博	山梨県	水源地の森林域から溪流・河川へと供給される落葉態有機物の量的・質的特性の把握を目的とし、RFID技術を用いた落葉動態観測システムを開発する。本システムでは、樹木の葉に対してデータ通信機能を有する「ICタグ」を貼付し、樹木からの落下、林床上の移動、溪流への供給までの落葉の移動を個葉レベルで追跡することにより、森林域から溪流・河川への落葉排出過程の把握を可能にする。
191211009	1	1211	流域呼吸による陸上有機物の代謝速度の推定	山梨大学大学院医学工学総合研究部	准教授	岩田 智也	山梨県	河川における陸上有機物の代謝を流域スケールで推定する。富士川水系全域の呼吸(有機物分解)速度をETS活性と溶存酸素の広域モニタリング及びGIS解析から推定する。さらに、CO2の炭素安定同位体から各河川の呼吸に占める外来性有機物の寄与率を求め、陸上有機物の流域代謝速度を推定する。これにより水系の有機物分解能を評価するとともに、どのような河川で分解速度が変化しているか、人間活動との対応関係を考察する。
191211010	1	1211	河川近傍に立地する産廃処分場群から排出される浸出液の、河川水質および生態系に与える影響とこれを制御する研究	新潟大学工学部	教授	高橋 敬雄	新潟県	産廃処分場浸出液が、①河川を汚染し、②魚種と魚数の激減など生態系の変化を引き起こしているとの声が各地で上がっているが、関係が証明できず、対策が放置されている例が多い。本研究では、新潟県内に調査地区を設け、1.浸出液中の化学成分とその特性を明らかにし、2.化学成分の生態影響をバイオアッセイによって明らかにし、3.浸出液の浄化法と、新たな「廃棄物区分法」と「処分場の構造」を提案する。
191211011	1	1211	河川水のシリカと流域内土地利用	岐阜大学応用生物科学部	助教授	平松 研	岐阜県	ダムにより海域へのケイ藻類の必須栄養塩であるシリカ供給が減少しているとの報告が1994年にNatureに掲載されると、シリカは海域のプランクトン変動のキーストーン物質ではないかと考えられるようになってきた。陸域におけるシリカの欠損は河川中の停滞性水域のみでなく、流域の土地利用に影響されていると考えられるが、検討は十分になされていない。本研究では現地調査を通じて、それらの影響を明らかにする。
191211012	1	1211	琵琶湖流入主要河川(野洲川、日野川)の降雨時を含めた汚濁負荷量の詳細把握	滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター総合解析部門	副部門長	大久保 卓也	滋賀県	琵琶湖の水質保全対策を考えるためには、琵琶湖集水域における物質循環、特に水、窒素、リン、有機物の動態把握が重要である。しかし、降雨時に琵琶湖に流入する物質(汚濁負荷量)の把握が不十分であり、今後の湖沼水質保全対策を考える上でその定量的把握が必要とされている。そこで、本研究では、琵琶湖流入主要河川において、濁度計、自動採水器等の自動観測機器を駆使し、降雨時を含めた詳細な汚濁負荷量把握調査を行う。
191211013	1	1211	残留性有機フッ素化合物PFOS・PFOAおよびその前駆物質の循環経路調査と対策の検討	京都大学大学院地球環境学堂環境親和技術学廊環境調和型産業論分野	准教授	田中 周平	京都府	琵琶湖・淀川水系および諸施設(下水処理場、主要工場等)での水質・水量調査により、発ガン性が疑われる残留性有機フッ素化合物PFOS・PFOAおよびその前駆物質の分布および挙動を把握し、水道水を通したヒトへの曝露経路を明らかにする。特に排出実態調査および環境中での挙動調査結果に水質水量モデルの技術を適用し、流域における有機フッ素化合物類の循環経路の把握、効率的な対策シナリオの検討を推し進める。

平成19年度 新規採択一覧(3/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191211014	1	1211	統合的湖沼流域管理に向けた阿蘇海・天橋立流域水環境モデルの構築	京都大学大学院研究科付属流域圏総合環境質研究センター	助教授	清水 芳久	滋賀県	阿蘇海・天橋立流域における汚染状況およびその対策を考える上で流域全体を考慮した水質保全事業の政策立案が行われたことはなかった。本事業では統合的湖沼流域管理へ向けて、様々な水質保全事業の影響を予測し、比較検討することのできる水質影響評価モデルの構築を目的とする。水文・水質に関わる情報を地理情報システム(GIS)等を利用して整備し、現況把握と将来予測が可能な阿蘇海・天橋立流域水環境モデルを構築する。
191211015	1	1211	空気注入によるダム堆積土砂の効率的排砂手法の開発	京都大学防災研究所	准教授	堤 大三	岐阜県	流砂系における総合的土砂管理を実践する上で、堰堤内の堆積土砂を効率的かつ環境に配慮した形で排出することは必要不可欠な課題である。本研究では、堆積土砂層に空気を強制注入し、気泡の浮上に伴って土砂を流動化させ、効率的に排砂を行う手法の開発を目指す。この手法では、堆積土砂の面的な排砂を可能とするだけでなく、堆積土砂層の嫌氣的雰囲気改善、排砂による渓流水の溶存酸素濃度の低下を防ぐ効果も期待できる。
191211016	1	1211	河川水中で見出される医薬品の底質汚染の実態と生物影響に関する研究	京都大学大学院工学研究科付属流域圏総合環境質研究センター	教授	田中 宏明	滋賀県	わが国の河川から多くの医薬品が検出され、水生生物に影響を与えている可能性がある。そこで本研究は、異なる汚染レベルの河川地点で底質での医薬品の汚染実態を調査し、河川に生息する生物に与える影響を評価することを目的とする。このため、底質の医薬品分析方法を検討し、底質の医薬品存在濃度を実態調査し、底質の粒子成分及び間隙水間の分配状況を把握し、底質に生息する水生生物に与える初期リスク評価をおこなう。
191211017	1	1211	生活関連汚染化学物質の河川中動態モデルの作成	徳島大学総合科学部	准教授	山本 裕史	徳島県	河川環境中の生態系へ影響を及ぼす可能性がある医薬品や化粧品、界面活性剤を含めた生活関連汚染化学物質を対象に、下水処理場や浄化槽を経た汚濁負荷の算出、ならびに実験室内で生分解や光分解、低質や懸濁物質への吸着実験を実施する。そのデータをもとに汚濁負荷が多いと考えられる琵琶湖・淀川水系と下水道未普及の徳島市近郊河川を対象に水文データを組み入れて対象物質の消長を予測し、実際の分析結果により校正をおこなう。
191211018	1	1211	製紙スラッジの農業用資材としての有効利用に関する研究開発	愛媛大学大学院連合農学研究科	教授	福元 康文	愛媛県	高知県の町は昔から製紙産業が盛んで、仁淀川の底部には製紙スラッジが大量に堆積している。さらに仁淀川支流の相生川からは現在でも大量のスラッジが流れ込み、水質汚濁を助長している。浄化対策としてスラッジの回収が講じられているが、回収後のスラッジはドロドロとゲル化しており廃棄処理は困難を極めている。そこで、製紙スラッジがセルロース主体である特性を生かし、農地に還元可能な農業用資材としての研究開発を行う。
191211019	1	1211	自然営力を活用した非点源汚濁負荷流出量の効率的削減手法の確立に関する研究	長崎大学工学部	教授	野口 正人	長崎県	栄養塩等の物質が健全な状態で河川流域内を移動・循環することを目指し、昨年度に引き続いて本明川下流の河川整備区間、並びに、長崎市西部下水処理場のヨシ植栽水路で水質観測を実施し、自然営力が水質浄化効率に及ぼす影響を明らかにする。併せて、閉鎖性水域に流入する非点源汚濁負荷流出量を効率的に削減する施設とその配置計画を含めた流域水質管理手法を提案する。
191211020	1	1211	巨大な水資源である富士山湧水系の統合地球科学研究	静岡大学理学部	教授	加藤 憲二	静岡県	柿田川湧水群を代表とする富士山湧水は、量の莫大さにおいて群を抜く地下水である。予備的微生物研究から、この水に含まれる細菌数は非常に少なく、地下水資源として極めて有用であることが示唆された。富士山塊が貯蔵する地下水資源の有効活用に向けて、滞留時間の推定から地下水の挙動を、また地層と水の相互作用による化学成分の変化、およびこれに反応する微生物の生態を明らかにする。
191212001	1	1212	霞ヶ浦湖底窪地内の水質観測とその流動予測	筑波大学大学院システム情報工学研究科	助教授	武若 聡	茨城県	霞ヶ浦湖底には周辺よりも数m深い窪地が沿岸にあるが、水温、DO、水質等は不明である。霞ヶ浦導水事業では成層が発達する夏季に低温河川水を放流する。この時、窪地内水塊が押出され水質変化が生じる恐れがある。窪地の水温、DO分布等を観測し、また、底質、湖水の採取調査を行う。観測結果を基に流動解析を行い、導水が窪地内の水塊を押し出す可能性を検討する。成果は、窪地内の水質状況の把握、導水事業の環境評価に資する。
191212002	1	1212	河川汽水域における底泥の堆積・圧密・強度発現過程と地形変化に関する調査研究	首都大学東京都市環境学部	准教授	横山 勝英	東京都	強混合型の河川汽水域では底泥が浸食・堆積を繰り返して地形を維持しており、本研究では堆積過程に着目する。まず底泥の温度鉛直分布を調査解析して堆積速度と圧密状態を推定する。次に流速・底面剪断応力の変化とSS輸送・巻き上げ量を調査解析する。さらに、沈降実験塔において水圧変動条件における底泥の圧密・強度発現過程を調べる。以上からSSの供給過程、底泥の堆積・圧密過程、それらが地形変化に及ぼす影響を解明する。

平成19年度 新規採択一覧(4/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191212003	1	1212	二次流と水際移動を考慮した、新しい準構造格子による蛇行河川流の数値解析法の開発と、長区間の河道における洪水予測への応用	千葉工業大学工学部建築都市環境学科	助教	吉田 圭介	千葉県	近年の河道計画では、常時の河川環境を配慮しつつ、洪水時の大出水を安全に流下させるような、柔軟な河道形状の設計が望まれる。そこで、本研究では不規則に長区間屈曲した河道における洪水挙動を長期間に渡って適切に予測するための新たな計算法を開発する。計算モデルでは、河道内の二次流と河岸移動境界を考慮した新たな手法を提案する。モデルの検証として、洪水流の航空写真解析と室内実験を行い、計算法の適用性を検証する。
191212004	1	1212	光レーダー法による諏訪湖アオコ動態の遠隔実時間計測と水質管理への適応	信州大学工学部	教授	斉藤 保典	長野県	河川水質の遠隔・実時間計測と評価を行う。レーザ分光手法とレーダー技術を組み合わせた、光レーダー手法を提案して用いる。光レーダー計測装置を諏訪湖釜口水門付近に設置し、天竜川に流出する水質を観測する。特に、諏訪湖水質で問題視されているアオコの動態を、アオコ内に含まれるフィコシアニンの濃度計測結果を基に評価する。実時間計測の特徴を活かした、水質変化に迅速に対応可能な管理体制構築へ向けた指針書を作成する。
191212005	1	1212	次世代超音波流速計の開発と感潮河川の流量観測に関する研究	広島大学大学院工学研究科	准教授	川西 澄	広島県	近年の河川管理に対する国民のニーズに応えるための喫緊の課題の一つである安全・確実な流量観測の一助とするため、水中雑音の影響を大幅に低減した次世代超音波流速計を開発し、広幅感潮河川の流量観測への適用性を検討する。特に、河川整備上必要とされているにもかかわらず、潮汐による流況の変化が激しく、従来の方法では測定が困難である太田川放水路の分派流量を長期間連続的に測定することを旨とする。
191212006	1	1212	多雨地域における1世紀雨量データベースに基づく豪雨発生確率の解析	山口大学農学部	教授	山本 晴彦	山口県	気象庁では1976年からアメダスを導入して気象データのデジタル管理を行っている。アメダス以前の観測値はデジタル化がされず、現在までの30年間のアメダスデータのみで「観測開始からの極値」等を算出している。本研究では、多雨地域における雨量観測開始からアメダス開始までの区間観測所等での雨量データを収集・整理・入力し、1世紀雨量データベースを構築して豪雨発生確率を解析し、頻発する水災害の防止に貢献する。
191212007	1	1212	河川石かごの水理・環境機能に関する研究	愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻	講師	門田 章宏	愛媛県	愛媛県を流れる河川急流部を対象に、透過型水制である河川石かご水制群の調査・資料収集を行い、規模や配置を変化させた実験により周辺の流速および局所河床変動状態を計測。三次元流・局所洗掘の数値計算を行い、水制の水刃効果や土砂制御機能を検討する。また、石かごに付着する微生物膜の形成・剥離過程に着目し、流れや水位変化による剥離の影響と生物膜付着による水質浄化機能について可視化手法を用い実験的に検討する。
191213001	1	1213	河川堤防に既設されている強震計網の計測結果を有効利用した堤防の質的評価の試み	群馬大学工学部	助手	松本 健作	群馬県	地震災害の究明のために、国土交通省によって全国の主要河川堤防に強震計が設置されている。膨大なデータの蓄積が為されている一方で、そのデータが十分に有効活用されているとは言い難い状況にある。本研究は、この既設の強震計の計測結果を利用して、昨今、国土交通省で盛んに試みられている河川堤防の質的評価に資するための堤体の健全性の診断システムの構築を試みるものである。
191213002	1	1213	人工衛星3次元リモートセンシングを用いた豪雨に伴う土砂災害のハザードマップ・復旧支援マップ作成技術の開発	東京大学大学院工学系研究科	教授	六川 修一	東京都	広域、多発的な豪雨土砂災害対策の手段として、人工衛星リモートセンシングを用いた『土砂災害のハザードマップ・復旧支援マップ作成技術』の開発を行う。具体的には、①高解像度衛星画像を用いた広域・高精度・迅速な3次元地形データの作成技術、②流域全体の3次元地形解析に基づく豪雨に伴う土砂災害発生予測のハザードマップ作成技術、③網羅的な土砂量推定に基づく災害発生時の復旧計画支援マップ作成技術を開発する。
191213003	1	1213	ハザードマップ作成に窮する広域ゼロメートル市街地における住民協働型対策検討方式の標準化	東京大学大学院工学系研究科	助手	加藤 孝明	東京都	広域ゼロメートル市街地では、ハザードマップ作成が困難である。避難所を近隣に確保できないことが理由である。高台の公共施設を避難場所とする従来手法の限界は空き羅漢である。この問題に対しては内発的な問題意識を醸成し、住民が主体となって対策を検討していく必要がある。GISとWS技術を核とするリスクコミュニケーションと対策検討を行った上で、NPOや町会等の非専門家集団でも実践できるようマニュアルを作成する。
191213004	1	1213	FMラジオを用いた防災情報伝達システムの開発と効果的な運用に関する研究	高知工業高等専門学校	助教授	岡田 将治	高知県	浸水被害の減災対策として、災害時に有効な情報取得ツールとなるFMラジオを活用し、雨量、河川水位等のローカルな防災情報や避難情報を「いつでも、誰にでも」入手可能にする低コスト防災情報伝達システムを開発する。さらに、浸水被害が多発する四万十川川登地区において長期運用実験を行い、ワークショップの開催、住民への聞き取り調査等からその効果的な活用法について考察する。

平成19年度 新規採択一覧(5/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191213005	1	1213	土砂災害警戒避難支援のための斜面動態モニタリング手法の高度化に関する研究	高知大学農学部	教授	笹原 克夫	高知県	現在土砂災害に対する警戒避難支援のための斜面崩壊発生時刻の予測は降雨量及び強度を用いて行われているが、この方法は地域単位での予測は可能でも、個々の斜面単位での予測が不可能である。本研究では、個々の斜面の土質や地形条件を考慮できる、土質力学に基づいた「降雨浸透に伴う斜面せん断変形モデル」の改良を行い、斜面の動態観測データを用いた崩壊発生時刻の予測手法の高度化を図る。
191213006	1	1213	近世から現代に至る佐賀平野の流域治水に関する基礎的研究	佐賀大学理工学部都市工学科	助教授	大串 浩一郎	佐賀県	佐賀平野においては、藩政時代より嘉瀬川を中心として流域対応の治水システムが存在した。その一部は、既に岸原らによって明らかにされているが、その水理学的あるいは定量的評価は十分ではない。過去とは多くの点で条件が異なる今日において、この治水システムの利活用の可能性を探り、さらにその治水思想を今後将来の我が国の治水に役立てることを目的として、本研究では佐賀平野の流域治水に関する基礎的研究を実施する。
191214001	1	1214	富栄養物質除去に関する省エネルギー型先端水処理技術調査	財団法人造水促進センター	理事長	藤村 宏幸	東京都	湖沼や内湾の富栄養化の原因となる物質の省エネルギー型除去技術として、包括生物固定化担体法、無機凝集剤生物処理併用法、嫌気微生物による脱窒法などの技術について、実用化へ向けた取り組みの現状を調査し、この技術の実用化と普及を促進して、水環境の改善と、省エネルギー化によるCO2排出量削減に貢献する。
191214002	1	1214	扇状地における地下水流動への河川水の空間的影響を表現するための指標	岐阜大学工学部	助教授	神谷 浩二	岐阜県	地下水を有効活用する社会的ニーズに対し、広域的な地下水流動機構を解明して地下水を管理する手法の構築が望まれる。本事業は、地下水流動機構の解明に寄与すべく、扇状地河川からの地下水への流動機構を評価・表現することが目的である。既に扇状地で実施している多深度での地下水流速調査などに加えて、河川水・地下水の同位体分析などを新規に実施することによって、河川からの地下水への空間的な流動経路や涵養量を分析する。
191214003	1	1214	淀川流域の流下に伴うノロウイルスの分布と水中ノロウイルスのオゾンによる不活化	摂南大学薬学部	教授	中室 克彦	大阪府	ノロウイルスは、患者の糞便から下水を経由して河川に流れ込み海に至り、二枚貝等にウイルスが蓄積されるといわれている。そのため、下水処理場放流水中のノロウイルスを検出し、河川を流下し、海に流入するまでのノロウイルスの分布・挙動を把握することはノロウイルス感染症防止対策に有用である。また、水中ノロウイルスの殺菌・不活化効果を酸化力の強いオゾンの有用性を証明する。
191214004	1	1214	「健全な水循環」の下での公水(河川水等)と私水(地下水等)の統合的管理制度の検討	島根大学大学院法務研究科	教授	磯村 篤範	滋賀県	地下水はこれまで河川とは様々な点で異なる取り扱いを受けてきた。双方の社会的役割を反映し、また、水管理法が存在していない中、地下水の個別の課題に対応して法を制度化してきている。しかし、地球温暖化の中で水保全の課題がこれまで以上に重要になると同時に、都市活性化や様々な地下水利用も求められてきている。そこで比較法的アプローチ等も活かしながら、地下水管理法・河川法との連続性等を検討する。
191214005	1	1214	河川・沿岸域における窒素負荷低減のためアナモックス処理法の最適化	広島大学大学院工学研究科	助手	金田一 智規	広島県	排水中から効果的に窒素除去を行う方法としてアナモックス細菌を用いた処理法が注目されている。申請者はこのアナモックス細菌の培養に成功しており、実験室レベルでの処理速度は世界一を達成している。しかしながら、アナモックス細菌を装置内に高活性のまま保持することは難しく、実用化のネックになっている。本申請ではアナモックス細菌を用いた処理法の安定化技術およびアナモックス細菌の高活性維持技術の確立を目指す。
191215001	1	1215	河川景観要素に対する魚類群集構造の応答に関する研究	北海道大学農学部	博士後期課程2年	永山 滋也	北海道	河川生態系の保全に関する調査・研究を行うとき、特定種ではなく生物群集を対象とすること、局所ではなく流域を対象とすることが重要であるが、その両者を満たす知見はほとんどない。本研究はセグメント毎に異なる魚類群集にとって重要な生息場(河川景観要素)もしくは生息場のセットを明らかにするとともに、魚類群集保全に関わる環境評価手法として本研究手法の有効性を検証するものである。
191215002	1	1215	降海型ブラウントラウトの移動生態の解明に関する研究	北海道大学	助教授	宮下 和士	北海道	本事業は、在来魚種を脅かす外来性魚類ブラウントラウトの分布拡散抑制に役立つ生態情報収集を目的とし、本種降海型個体の道南河川内及び河川間での行動生態を超音波発信器・受信機を用いてモニタリングするものである。また、モニタリング結果に基づき、本種の行動生態を定量的に把握し具体的駆除方法の開発を行うことで、本種の分布拡散抑制に貢献することを目指すものである。

平成19年度 新規採択一覧(6/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191215003	1	1215	標津川再生事業地における貝類・魚類群集の生物間相互作用と生息環境の復元に関する研究	北海道大学大学院水産科学院	博士後期課程2年	栗原 善宏	北海道	北方域の河川生態系の重要な構成種であるカワシンジュガイ科貝類とその宿主サケ科魚類について、当該生物群集の生物間相互作用および生息環境条件を解明し、自然再生のモデルケースとして行われている標津川蛇行復元事業地に当該生物群集とその共生関係を再生するための復元モデルを構築する。さらに、試験的に再蛇行化されている流路の河川環境を評価・モニタリングし、今後の再蛇行化事業の具体的な復元目標と改善案を検討する。
191215004	1	1215	河畔林における種子供給プロセスの解明と管理技術の構築	東北大学農学研究科	教授	清和 研二	宮城県	河川を中心とした地域生態系の維持のために健全な河畔林を創出することを目的とし、河畔林構成樹木の種子供給およびそれに関わる要因(種特生・種子ソースの分布・周囲の土地利用・河道内構造物の有無・気象および水文条件)を現地調査とGISの利用により明らかにする。ここから得られた知見から、十分な種子供給と自然に近い更新プロセスを実現する河川・河畔林管理方法を提案する。
191215005	1	1215	霞ヶ浦で大量繁殖している特定外来生物‘チャネルキャットフィッシュ’が底生動物群集の現存量に及ぼす影響に関する研究	茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター	准教授	中里 亮治	茨城県	霞ヶ浦で大量繁殖している特定外来生物チャネルキャットフィッシュがユスリカ幼虫などの底生動物群集の現存量に及ぼす影響を明らかにするために、イサザ・ゴロ曳き漁・張網漁による魚類の定量採集を実施し、サイズ組成や胃内容物の季節変化を調べる。同時に霞ヶ浦全域および北浦の3定点で底生動物やプランクトンなどの定量調査を実施する。また底生動物の種類や密度に応じた当該魚種による選択的捕食の有無を調べる飼育実験を行う。
191215006	1	1215	抽水植物の環境変化に及ぼす効果の評価と河川における適切な管理のための指針の作成	埼玉大学	教授	浅枝 隆	埼玉県	これまで混雑が生じていた、河川における抽水植物群落の取り扱いについて、土壌への酸素供給能、流下浮遊物や枯死有機物および栄養塩の群落内捕捉・堆積能、また、群落内の有機質土壌の安定性、さらにこれらが河川水質に与える影響、流水に対する抵抗や河道内での偏流効果などについて、既存の研究と補充観測結果から定量的に評価し、河川において抽水植物群落の適切な導入、再生、管理を可能にするための指針を作成する。
191215007	1	1215	希少植物の種子供給源としての河川氾濫原堆積物の評価	金沢大学能登学舎	教務補佐員	伊藤 浩二	福井県	氾濫原堆積物中には低湿地に生育する希少植物の植生復元に役立つ種子が相当量含まれているとの報告がある。しかし、氾濫原などの場所に種子が多く分布しているのかの詳細は不明で、そのことが種子の利用を妨げている。本研究では堆積物中の種子量と組成の空間的な変化を現地調査と撒き出し実験により明らかにし、その結果から種子の空間分布に影響する環境条件を推定する。これにより植生復元における種子の利用可能性を考察する。
191215008	1	1215	ウナギを指標とする河川環境評価法の確立	東京大学海洋研究所	博士課程二年	横内 一樹	東京都	河川生態系とそれが形成する河川景観を保全するために必要な評価指標の基礎を得ることを目的として、河川生態系において最上位に位置するウナギの河川内の分布と移動を採集による分布調査とバイオロギング技術を用いた行動実験および生息環境履歴を反映する耳石微量元素の分析によって明らかにし、河川測量と生息域の河川形態や植生調査から、ウナギの分布様式と生息条件を考察し、ウナギを指標とした河川整備指針を提案する。
191215009	1	1215	ヨシ原の利用・管理が植物の種多様性維持におよぼす効果の研究	東京大学農学生命科学研究科	助手	西廣 淳	東京都	河川や湖沼の沿岸のヨシ原は、絶滅危惧種を含む多様な湿生植物の生育場所である。その多様性の維持には、ヨシ刈や野焼きなどの利用・管理が重要な役割を果たしてきたと考えられているが、その植物生態学的な実態やメカニズムは明らかにされていない。本研究では、保全上重要な植物が残されている湖岸ヨシ原をフィールドに、多様な環境要因とともに利用・管理の影響を明らかにし、保全に資するヨシ原管理手法の指針を提案する。
191215010	1	1215	河口・海岸域における生物生息環境の総合化研究	社団法人国際海洋科学技術協会	会長代行	堀田 健治	神奈川県	河口・海岸域は生物生息環境として最も重要な場所であり、また産業、市民活動の活発な場でもある。この公共的地域の防災、社会活動を配慮した生物環境変動を総合的に検討し、環境再生、公共利用に役立てる方策を考え、方向を示すこととする。
191215011	1	1215	都市河川におけるケイ酸の動態と河床付着生物群集の形成過程の評価	東京大学大学院工学系研究科	助手	春日 郁朗	東京都	窒素やリンに加え、河川水中のケイ酸の動態が、河床や沿岸域のケイ藻の生態に重要であることが指摘され始めている。河川水中のケイ酸は主にケイ酸として存在し、通常は地下水などの自然由来であるが、都市河川では下水処理水や道路排水などからの寄与も無視できない。本研究では、都市河川を対象として、人為的なケイ酸の負荷により、ケイ藻をはじめとする河床付着生物群集がどのような影響を受けるのかを評価する。

平成19年度 新規採択一覧(7/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191215012	1	1215	ハイパースペクトルリモートセンシングによる外来植物シナダレスズメガヤの広域モニタリング技術	東京大学大学院農学生命科学研究科	特任助手	石井 潤	東京都	近年多くの外来植物が河川に侵入し、生態系・景観など自然環境への影響が拡大している。本研究では、影響が著しく対策の緊急性の高いシナダレスズメガヤの管理を目標に、カワノギクなど保全上重要な種の保全対策が実施されている鬼怒川をモデルとして、高分解像度を有するハイパースペクトル画像を取得して、広域(20km程度の範囲)の分布を評価する実用的な技術を開発する。
191215013	1	1215	アダプティブマネジメントによる流路変更河川の再自然化―「掘抜き水源」「水制」による瀬淵構造の保全・復元―	富士常葉大学附属環境防災研究所	所長	水野 隆徳	静岡県	浜名湖をその一部に持つ都田川では流路変更に伴う大規模な改修が実施され、豊かさを誇っていた生物相を保全するために、カメ穴などの多様な自然構造を担保・復元する必要がある。そこで、「掘抜き水源」による旧川保全部の源流化、「水制」による瀬淵構造等の復元を提案、施工、効果検証というアダプティブマネジメントにより、この過程と成果を河川再自然化の有効な方法として調査研究する。
191215014	1	1215	多自然川づくりに資する河川性魚類の棲み場所改変効果の検証	名古屋大学	教授	辻本 哲郎	愛知県	河川性魚類が棲み場所である物理環境を改変する効果について、定量的に明らかにすることを目的とする。実際の河川を模擬した実験河川において、魚類を除去した操作区と標準区を設定し、そこでの河床状態変化を追跡調査することによりその効果を検証したうえで、調査で分かった河床改変効果の素過程を抽出し、室内実験水路において検証する。本成果は、人為だけに頼らない自然作用を考慮した川づくりの効率的実施に資する。
191215015	1	1215	河川敷における海外から侵入した植物の増殖を制御する生物間相互作用の解明	京大大学生態学研究センター	研究員(研究機関)	三浦 和美	滋賀県	河川敷では海外から侵入した植物が繁茂するため、河川の景観を損ねるだけでなく、河川敷に固有の稀少な動植物種の生息場所が消失するという問題が生じている。侵入植物の繁茂に関連する要因として、在来昆虫の寄主植物転換の遅さと、侵入植物の原産地に生息する昆虫による加害がないことが近年指摘されてきた。そこで、侵入植物が繁茂している河川敷における在来昆虫や原産地の昆虫による侵入植物の利用を抑える要因を解明する。
191215016	1	1215	大和川における絶滅危惧植物ヒキノカサの遺伝的多様性の解析と保全個体群のスクリーニング	大阪市立自然史博物館	学芸員	内貴 章世	大阪府	大和川に生育する絶滅危惧植物ヒキノカサについて、酵素多型分析を用いて集団間および集団内の遺伝的変異を推定し、遺伝的多様性を損なわない保全方法を検討する。とくに、高規格堤防改修計画の中では、移植保全が避けられない集団も存在する。遺伝的多様性維持の観点から、保全の重要度の高い集団や自生地保全が望ましい集団をスクリーニングし、やむを得ない移植については遺伝的変異が維持できる移植個体数を推定する。
191215017	1	1215	水生昆虫個体群の集団遺伝学マーカーの河川環境評価への応用	大阪府立大学理学部	助教授	加藤 幹男	大阪府	本事業は、生物種内の遺伝的多様性を河川環境の健全性指標として活用する方法を追究することを目的とする。このため源流から下流まで広く分布するカゲロウ類を対象に、全ゲノムからマイクロサテライトDNA多型領域を収集する。地域個体群の遺伝的構造の地域間差異や年次変動を分析し、河川環境と集団の移動・分散・隔離との関係を明らかにすることによって、生物種内の遺伝的多様性を担保する河川環境のあり方を考察する。
191215018	1	1215	日本の河川における外来水生植物の繁茂実態の解明と対策	神戸大学理学部	教授	角野 康郎	兵庫県	河川敷に生育する外来植物に対してはさまざまな取り組みが存在するのに対し、水域に生育する外来水生植物に関する調査・対策は遅れ、異常繁茂した水生植物に対し多額の費用を投入して個別的に応急の対策を取っているのが実情である。河川生態系に対する影響も不明な点が多い。当事業では、日本の河川における侵略的外来水生植物の分布実態とその影響を明らかにし、有効な河川管理に資することを目指して調査・研究を進める。
191215019	1	1215	ダムからの長期濁水・低温水による生態系への影響評価:奈良県大滝ダム下流のプランクトンと水質との関係の解明	和歌山大学システム工学部	教授	井伊 博行	和歌山県	ダム放流水由来の濁水や低温水は、下流の河川や海域の生態系へ大きな影響を与えると指摘されており、重要な研究課題である。本研究では、近畿地方整備局管轄の奈良県大滝ダムで、プランクトン、水質、水温、濁度を調べることによって、湛水前後の放流水による生態系への影響を、水質、低温水の観点から明らかにするものである。湛水前の昨年度からすでに共同で調査を開始しており、詳細な水質の分析を特に担当する。
191215020	1	1215	生活雑排水流入河川での医薬品および病原微生物汚染とその生態系への影響調査	広島大学薬学部	教務員	杉原 数美	広島県	公共下水道未整備地域を流れる中小河川では、いまだに一般家庭や医療施設などの排水が簡易浄化槽処理で流入している。これら排水には洗剤などの他、尿尿経由で排出される医薬品、病原微生物などの含有が考えられる。医薬品は生理活性が高く、微量の汚染でも多大な影響を及ぼすことが懸念されるが環境動態は調べられていない。本研究では、このような河川における医薬品類、病原微生物による汚染とその生態系への影響調査を行う。

平成19年度 新規採択一覧(8/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191215021	1	1215	室内実験による環境保全型ブロック等の護岸工法と自然河岸の魚類保全効果の定量的比較	山口大学大学院理工学研究科	教授	関根 雅彦	山口県	これまで理論的・実証的にその効果が検証されていなかった環境保全ブロックなどの人工護岸工法の魚類保全機能を、室内実験により自然河岸と比較することで、その効果を検討する。大型循環水路内で実スケールの植生系、木系、自然石系、カゴ系護岸模型や環境保全型ブロック模型を対向させ、水路に魚を放流して流速・水深・照度条件を変化させて魚の行動を観察し、その分布を相対的に比較することでその優劣を定量評価する
191215022	1	1215	希少種ヒナインドジョウの生息環境保全のための基礎的研究	愛媛大学大学院理工学研究科(理学系)	助教授	井上 幹生	愛媛県	都市近郊を流れる一級河川・重信川流域(愛媛県松山市)において、希少淡水魚ヒナインドジョウの生態に関する調査を行い、自然環境の保全に配慮した河川管理を行う上で重要な情報を得る。具体的には、本種の分布と環境要因との対応関係を解析することにより生息適地の環境条件を明らかにする。また、DNAマーカーを用いた集団構造の解析を行うことにより保全上重要となる河川区域の特定を試みる。
191215023	1	1215	流量変化に伴う物理環境変化が河川生態系に与える影響に関する研究	九州大学大学院工学研究院	助教授	矢野 真一郎	福岡県	筑後川上流の大山川では、上流の大山川ダムにおいて発電用取水の調整による維持流量の増量が行われている。本研究では、ダム操作による流量変動を受ける地点、流量が年間一定に保たれる地点、ならびに上流にダムが無く自然流況となる地点の3地点において、流速や水深などの物理環境、付着藻類、アユなどの魚類に関する比較調査を行い、流量変動がもたらす物理環境の変化が河川生態系に与える影響を評価する。
191215024	1	1215	河口干潟生態系の評価・モニタリングに有効な指標生物抽出技術及び群集比較法等の開発	自然環境定量評価研究会	会長	小野 勇一	福岡県	近年、流域開発や埋立等による周辺環境の変化が著しい北九州市の曾根干潟において、物理・科学的環境及び生態系の変化と要因、そのメカニズムを、今回実施する現況調査と平成7年度に行われた大規模環境調査のデータ等を用いて面的・時系列的に解析する。また、環境に変化がみられた区域において、その特徴を簡便かつ定量的に評価・モニタリングできる指標生物の抽出技術や群集比較法等の開発を行う。
191216001	1	1216	歴史的遺産・舟運水路の構造解析と活用(最上川中流部)	米沢中央高等学校	教諭	佐藤 五郎	山形県	およそ300~400年前に開削され、河川の歴史的遺産にもなっている舟運水路(2ヶ所)の立体構造を現地測量で明らかにし、過去の絵図とも比較して図面化するものである。このことにより遺産の記録を後世に残すだけでなく、新たな角度から河川を見直し多くの人に関心を持ってもらう。さらに最上川のフットパス計画や観光連携にも資するものである。今年度で調査完了し、一般向けの成果発表をする。
191216002	1	1216	利根川流域(埼玉平野)の治水と新田開発	利根川歴史研究会	会長	広尾 義彰	東京都	本調査研究では、平成17年度には中条堤上流側旧日向村・妻沼村の検地帳等の解読、平成18年度は同地域の備前渠及び水田開発の経緯等の調査研究を実施した。本年度(平成19年度)は最終年度として、中条堤および利根川本川堤防の江戸時代における整備経緯を確認するとともに、利根川の治水にとって中条堤のはたした役割と新田開発など地域開発の関係を考察研究する。
191216003	1	1216	河川・沿岸域における環境配慮型輸送システムと環境教育に関する検討	社団法人海洋産業研究会	会長	武井 俊文	東京都	河川・沿岸域を利用した防災支援を実施するためには、平時利用のあり方を検討すべきとの視点に立ち、静脈物流、さらに、環境負荷を低減する輸送システムを検討してきた。環境面への取り組みをさらに深め、新しい環境技術を取り入れた環境配慮型輸送システムについて検討を行うとともに、河川舟運活性化の観点から、それらのシステムを用いた河川・沿岸域を対象とする環境教育に関する検討を行う。
191216004	1	1216	沖積平野における縄文以来の河道と堤防形成過程に関する研究	沖積平野における縄文以来の堤防と河道の形成過程に関する研究会	代表	上林 好之	新潟県	河川は人文地理学から「自然公物」とされている。川田条里遺跡調査によると、縄文後期の水稻栽培に始まり、弥生後期の水田と水路整備、平安時代に条里型水田が出現し、先人が堤防と河道の整備に係った歴史が推察される。本研究は、土砂水理学、地質学等の専門家が上記考古資料を分析し、河川工学として、堤防と河道を含めた「河川」を定義し、社会科学・人文科学分野の研究を促し、河川の研究と行政の発展に寄与するものである。
191216005	1	1216	安倍川流域の地名・風土に関する研究	富士常葉大学環境防災学部風土工学研究所	教授	竹林 征三	埼玉県	安倍川は、日本の急流河川のシンボリックな存在であり、土砂災害と河川氾濫の代表的な河川である。源頭部は、大谷崩れであり、上流域は崩壊地名の宝庫である。下流域は、霞堤や二線堤が多く残る天井川で、薩摩土手の歴史を初めとして、堤防地名の宝庫である。その他、沿川には、白髭神社が多く分布し、水にまつわる特異な竜爪伝説や麻機伝説がある。地名に刻された風土からの伝言より、安倍川の流域河川の特性を調べてまとめた。

平成19年度 新規採択一覧(9/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191216006	1	1216	鴨川・高瀬川における眺望による景域形成に関する研究	京都大学大学院	助教授	川崎 雅史	京都府	本研究は、河川の水辺空間を地域と一体的に整備するための知恵を、水辺の視点場からの眺望を軸に提示するものである。京都の鴨川・高瀬川の河川端を対象として、水辺の場所が辿った空間的歴史を各種史料と現地におけるデザインサーベイから詳細に分析し、場所の基盤となるものの美観・眺望性と、流域における景観特性との、創発的な関係を構造的に把握するための研究である。
191216007	1	1216	サケ採捕に係る河川文化の調査	甲南大学文学部	教授	出口 晶子	京都府	サケ採捕事業の運営は、ヤナ場の設置、従事者の選定、漁法や漁期、産卵後のサケ利用方法等、各河川で異なる形態で行われ、それぞれの河川固有の文化を生み出している。本研究では北陸主要河川において、サケ採捕に係る河川文化、その歴史的経緯及び豪雨災害による影響に関して実地調査し、高齢化や過疎地域崩壊の時代に向けて、サケとの関係を考慮した川づくり、地域教育や河川文化継承に役立てるための資料としてとりまとめる。
191216008	1	1216	平成16年台風23号水害による兵庫県北部但馬地域の水損古文書の保全と活用に関する研究	神戸大学	教授	奥村 弘	兵庫県	本事業では、平成16年台風23号に伴う水害を被った兵庫県北部但馬地域における古文書(江戸時代～昭和初期)、具体的にはこれまで未調査であった豊岡市但東町大石家文書のうち水利関連史料の内容分析、および地元行政と連携した現地調査を行う。そこで得られた調査研究成果を地域住民への説明会によって還元し、河川をめぐる当該地域の歴史文化を活かした川づくりのあり方を地域住民とともに考え、提言する。
191216009	1	1216	西城川上流域の瀬淵景観と魚類相の調査による河川環境の評価	江の川水系漁撈文化研究会	代表者	黒田 明憲	広島県	昨年度、西城川下流域の瀬淵調査を行なったので、本年度は源流までの瀬淵調査を実施する。特に上流域は希少種のインドジョウ・アカザ・カジカや絶滅の危機にあるオオサンショウウオなどの生息する河川であるから、「瀬淵と暮らし」「魚類相の生息状況」を合わせて調査し、環境民俗学の立場から環境評価を行なう。調査はビデオ映像・写真・聞き書き等により記録し、環境保全、川づくり、まちづくりの資料として活用する。
191216010	1	1216	佐賀平野の低湿地帯における「流域治水」の発掘と復原に関する研究	佐賀大学低平地研究センター	研究推進員	岸原 信義	佐賀県	平成14、15、17年度の研究助成により、佐賀平野西部の祇園川から中央部の嘉瀬川、東部の巨勢川流域までの「流域治水」について研究を進めた。佐賀平野「流域治水」の核心をなすものが、放水路河川として開削されたこれ等諸河川による超過洪水の集中と分散システムにであることが明らかになってきた。今年度は佐賀平野で最も低湿である巨勢川と城原川との区域について従来と同じ研究手法を用いて研究し、「流域治水」研究を完成させる。
191217001	1	1217	水源地から考える水源地域活性化の可能性	名古屋市立大学大学院人間文化研究科	専任講師	浜本 篤史	愛知県	本研究では水源地域の人々と社会に焦点を当て、水源地域活性化の可能性を探る。具体的には、宮ヶ瀬ダム(神奈川県)、山王海ダム(岩手県)を中心とした事例研究により、資金、組織体制、担い手の意欲、地域アイデンティティ、森林管理、観光資源の存否、外部者の関わりといった観点から、水源地域活性化の成否パターンをモデル化する。その上で、地元関係者・事業者・下流住民との討論を通じて現実的な提言を行う。
191217002	1	1217	川づくり・街づくりにおける地域との連携に関する研究	東京大学大学院工学系研究科	教授	小池 俊雄	東京都	河川整備に対する地域住民間の合意形成に向けての示唆を得ることを目的として、一流域内の上下流等の多様な環境に暮らす地域住民に対し、自他地域に対するイメージ、知識、接触頻度等を問うアンケート調査、面接調査を行い、地域間イメージギャップ及び、物理的環境—イメージのギャップを明らかにする。この結果をふまえ、河川版の認知地図を作成し、イメージギャップ等の視覚化を行い、住民間合意形成に向けての考察を加える。
191217003	1	1217	「住民の効用」の視点での、環境用水創出とその利活用がもたらす「環境効率」に関する基礎研究	内外エンジニアリング株式会社	技師長	足立 考之	大阪府	環境用水創出とその利活用を「環境効率」の観点からみるとどうなるか。その環境効果を、客観性、透明性が高く、分かりやすい方法で捉えることとなり、住民の効用の向上につながる。本研究は、環境用水創出とその利活用がもたらす新たなインフラ機能とサービス機能を評価できる「環境効率指標」の検討及び「環境効率評価標準マトリクス」の作成をおこない、環境効率の概念を導入した、新たな事業評価モデル構築の可能性を検討する。
191217004	1	1217	河川整備計画「住民意見を聴く会」における中立的ファシリテータの効果分析	徳島大学	教授	山中 英生	徳島県	吉野川河川整備計画策定の「住民の意見を聴く会」では、ファシリテータとして専門家NPOが選出され、中立性を保障するための契約方式、行動規範、会のルール、意見への対応方式が試行されている。こうしたしくみがコミュニケーションに及ぼす効果を分析し、紛争的課題を含む計画策定にける中立的第三者による進行役の果たす役割とその効果を明確にする。

平成19年度 新規採択一覧(10/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
191219001	1	1219	河川学習施設が地域に果たす役割の検討～九州内15施設の比較による研究～	九州大学大学院工学府博士後期課程	学生	山下 奉海	福岡県	本研究は、北九州市の「水環境館」、宮崎市の「大淀川学習館」のような九州に点在する河川学習施設15箇所において聞き取り調査を行い、それぞれの施設が設置された経緯や特徴、地域性を理解し、河川学習施設に関する体系的な資料の作成を試みる。また幾つかの施設では、利用者に対してアンケートを行い、河川学習施設が流域の防災、環境、住民参加などの河川事業にどのような効果をもたらすのかを検証する。
191221001	2	1221	超節水育苗容器 KatsuraNurseryCase【KNC】により開発した、新栽培技術である無覆土マット芝の有効利用方法の研究	京都府立桂高等学校	教諭	片山 一平	京都府	2006年にWadian caseからヒントを得て、独自の超節水育苗容器Katsura Nursery Case【KNC】を開発した。そのCaseを用いて無覆土による植物の生産方法を開発した。これらは、土を使用しないので軽量であり生産や設置時に出る廃液の汚染を無くす画期的なものとなった。これらの開発したものを早急に実用化し普及させる為にも、安価で簡便な屋上緑化・室内緑化技術の開発をする必要がある。
191251001	1	1251	平成19年台風9号出水の調査と今後の河川維持管理のあり方に関する調査研究	京都大学防災研究所	教授(調査団長)	中川 一	京都府	本研究では、平成19年台風9号による関東地方各河川での出水が河道や河川構造物に与えた影響を調査し、構造物被災機構の解明を行うとともに、これまでの治水整備がもたらした効果を評価する。一方、樹林地対策や礫河原再生などの河川環境改善に向けた事業等についても官界の出水によるインパクトを通じてその効果評価を行う。そして、これらの検討にもとづき今後の河川維持管理に向けた有用な知見を見出しそのあり方を提言する。
192001001	1	2001	水辺の環境向上と利用者の利便向上を図る施設整備事業	下川原水辺環境をよくしよう会	会長	石川 祐策	岩手県	平成12年4月に本会を結成してから河川敷の除草、花壇の整備、小学生を対象とした水質調査、モクズガニの放流等のボランティア活動を実施してきましたが、平成18年3月に国土交通省の事業で「江刺北上川水辺の楽校」が整備されたことにより「水辺の楽校」付近に生息する野鳥、魚類の絵看板を設置し、水辺の環境向上と学習の利便向上を図ろうとするものです。
192001002	1	2001	すり鉢沼(切所沼)周辺の湿地再生による自然保護活動	利根町バードウォッチングクラブ	代表顧問	中山 正夫	茨城県	利根町に現存する切所沼(河川の氾濫の結果できた沼の総称:以前は町内に7つあったが今は「すり鉢沼」のみ)が、沼周辺の環境変化によってアン原が激減し、これまで沼やその周辺に生息していた動植物が存続の危機にある。そこで、すり鉢沼の近くに井戸を掘り、地下水を利用して沼周辺の湿地を回復させる。また、町内の小中学校や地域住民、自然保護団体にも協力を要請し、希少な動植物の保護活動や湿地再生計画に参加してもらう。
192001003	1	2001	境川・フェンスの色彩による河川景観づくりー景観のためのカラーコーディネートー	特定非営利活動法人境川緑のルネッサンス	理事長	石橋 正治	東京都	平成14年度より始めた河川清掃等の美化活動や保全活動に加え、17年度には財団の助成を得て、境川/河川敷の保全と活用を兼ねた「境川・鶴間せせらぎ広場」を完成させた。こうした活動実績を踏まえ、国土交通省の「新しい景観形成ガイド」に沿った「河川景観形成計画画書」を行政に提案すべく活動中。その一環として、行政団体によって色彩が異なるフェンスの色を、周辺の風景に調和した色彩に統一して川並の景観づくりを図る。
192001004	1	2001	ダム湖周辺の山林手入れ活動と山小屋づくり	小里川ダム里山教室	代表	山田 万左和	岐阜県	街から程近くにある瑞浪市郊外の小里川ダム湖には遊歩道があるが、遊歩道沿いの山林も各地にみられるように放置林の山林となっている。遊歩道には小里川にそそぐ小さな源流といえる小川がいくつも流れている。この地の山林を手入れをすれば水辺の環境にすぐれ、自然豊かな里山林になり、やがて訪れる人も多くなり地域の振興にも役立つことができる。このような主旨のもとにボランティア団体をたちあげて山林の手入れを始めている。
192001005	1	2001	庄内川における水上スポーツ活動の安全性の向上	庄内川ボート協議会	会長	坂東 芳行	愛知県	庄内川下流は、5大学1実業団のボート練習水域として、盛んに利用されている。また、これらボート団体では庄内川ボート協議会が組織され、親子ボート教室、アダプト事業が実施されている。さらに、船着場は地震災害時の緊急用船着場としての機能も期待されている。現在、船着場に照明灯がないため、これらの活動・機能が極めて制限されているので、夜間でも円滑に活動できるよう船着場にソーラー照明灯を設置する。
192001006	1	2001	学校内の水路を流れる水と日貫川(八戸川水系)とのつながりから、小学生とその保護者、地域住民の環境への関心を高めるとともに、自然を守ろうとする児童を育成する。	邑南町立日貫小学校	校長	本田 研治	島根県	小学校の校地内を流れる1本の水路に着目し、そこを流れる水の量や温度等を児童が継続的に観察することで、学校周辺を流れる水路や河川に関心をもたせていく。また、水の行方を観察し、水路の水が日貫川や八戸ダム、さらには1級河川につながることを外部講師や地域の協力も得て、保護者と共に学習していく。さらに、水流を利用した「動く模型」を校内に設置して、地域住民や子供たちに関心をもたせる取り組みを推進する。

平成19年度 新規採択一覧(11/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
192001007	1	2001	吉野川「隅瀬渡し跡」説明板製作設置事業	徳島市応神文化財保勝会	会長	庄野 和宏	徳島県	吉野川に残るかつての「渡し跡」の位置や歴史について、河川の利用者や地域住民に広く周知し、吉野川に親しみ郷土徳島の良さを知ってもらうために、隅瀬渡し跡の標柱(既設)の隣に、渡し跡の概要を紹介した説明板を設置したいと思います。
193111001	1	3111	ウォーターリバイバルプラン「親水塾・2007」	社会福祉法人中士幌福祉事業会	総合施設長	松浪 浩之	北海道	水気を嫌う畑作に由来する地域固有の水環境問題を解決するべく、法人は環境学習センター「遊～遊～村」を建設中です。そして40数年来、人も寄り付かない汚れた川になっていた地域の音更川に、畜産排泄物規制法の施行によって清流が戻ってきました。遊～遊～村と音更川を地域が抱える水問題を回路に結ぶことによって、子ども達と一緒に川の恵みを喜び地域が抱える水環境問題にチャレンジする。
193111002	1	3111	みんなで再生しよう！茨戸川のカワセミやエゾアカガエルの営巣ビオトープを	NPO法人カラカネイトンボを守る会	理事長	田屋 勉	北海道	茨戸川は河川改修前の石狩川で、現在は流れも無く水質が悪化し、地元住民からもその対策が求められている。本活動はかつて石狩川が育んできた自然が再生されるよう、大人ばかりでなく高校生や小中学生と一緒に、草で覆われてしまったカワセミの営巣場所となる土の崖や、カエルが産卵しても成体になるまでに干上がってしまう湿地帯を再生し、カワセミやエゾアカガエルの繁殖場所のビオトープ造りを行っているというものである。
193111003	1	3111	もっと！川で遊び隊！学び隊！～川遊び達人への道～	特定非営利活動法人帯広NPO28サポートセンター	理事長	千葉 養子	北海道	十勝は河川環境の優れた地域である。しかし、それゆえにその環境を自分たちの手で守り伝えていくという意識が育まれにくい環境でもある。それは河川敷のゴミ問題等をみても明らかである。そこで河川を含む自然環境の複雑さを遊びから学び取り、自分たちでそれらを守るようとする意識を育むために、様々な自然体験・環境学習をシリーズで行う。またそれらの経験をもとにワークショップを行い、子どもたち自らその大切さを発信する。
193111004	1	3111	水辺の体験環境学習及び指導者育成交流事業	特定非営利活動法人しりべつリバーネット	理事長	牧野 純二	北海道	尻別川流域において小中学生を対象に、総合的かつ多面的な水辺の環境、河川の機能等についてカヌーやイカダ、河畔での野外活動、水辺の環境保護活動等を通じて実践的に学習できるプログラムの実施による啓蒙・教育と共に、次世代の親水学習指導者育成のため講習・研究・情報交換・交流カリキュラムを併せて実施する。
193111005	1	3111	北海道地域水辺での体験活動中間支援による活動促進及び、水辺の体験活動人材育成事業	北海道エールセンター全道運営協議会	会長	田丸 典彦	北海道	北海道は水辺体験を行う環境として恵まれているため、多くの個人・団体がそれに興味・関心を持っている。しかし、実際に活動を行うまでに至らないケースも少なくない。それは主に人材の不足、資機材不足、活動プログラムの不足などが原因として挙げられる。そこでそのような個人・団体と協働し、人材・資機材・活動プログラムのコーディネートや、水辺で活躍する人材の育成を行うことで、北海道の水辺での体験活動等の促進を図る。
193111006	1	3111	岩木川子ども自然体験学習会	NPO法人岩木山自然学校	理事長	高田 敏幸	青森県	岩木川流域の子ども達を中心に、ヨシ原の環境学習、川の魚調べ、川と津軽の文化学習、川の清掃活動等、岩木川での自然体験や環境学習を通じ、岩木川の環境、自然、文化の学びと、参加者や地域との交流、参加者自信の「生きる力」を育み、より良いふるさと作り(地域づくり)に貢献できる子ども達の育成として「岩木川子ども自然体験学習会」を開催します。
193111007	1	3111	馬淵川水辺の楽校を中心とした川の愛護活動・環境学習・自然体験活動と指導者育成	特定非営利活動法人水辺の楽校まべち	理事長	池田 光則	青森県	「馬淵川水辺の楽校」ピチャピチャランド周辺の小学生生徒と地域住民を対象に生物調査(四季)Eポート体験・川の環境講座、地域の洪水、源流探索などを実施する。体験したことを学校や地域で発表会を開催し、自分たちの学んだことを各方面に発信し、河川環境を守ることの大切さを伝える。さらに、川の指導者育成講座を開催し、保護者や先生などを対象とした指導者の育成を図る。
193111008	1	3111	学習交流館を利用した住民参画型河川情報Mapと情報掲示板の活用	KappaClub関工(岩手県立一関工業高等学校)	校長	藤代 隆治	岩手県	地域のみんまで川を見つめることで、川の環境を守り美しい川づくりを目指します。製作した河川情報マップの有効利用のために、情報掲示板の運用を本格的に実施します。北上川学習交流館での体験プログラム実施や、広く一関市市民に活用してもらえるように市広報への掲示、釣具店や水辺プラザへの配布を行い、水防災や川環境の情報ツールとして運用していきます。今後の広報活動も含めてワークショップへも積極的に参加していきます

平成19年度 新規採択一覧(12/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193111009	1	3111	東北の大河「北上川」をフィールドに青少年の「生きる力」を育む	特定非営利活動法人北上川流域連携交流会	理事長	吉田 幸助	岩手県	東北の大河「北上川」をフィールドとした自然体験活動・生活体験を通じて、青少年の「生きる力」を育む。上流(盛岡市)から河口(石巻市北上町)まで、約200kmを13泊14日かけてゴムボートで下ることにより、自然の優しさや厳しさを体験し、自己の主体性と仲間との関わりを学ぶ。この経験は、人間形成において大きな体験となり、「仲間との協力関係」や「郷土を愛する心」を育むものとする。
193111010	1	3111	近世・近代期における土木遺構(出柵及び水制工)の現況基礎調査	石巻千石船の会	会長	辺見 清二	宮城県	近世・近代期に、北上川(宮城県側の北上川の一部26km及び34km)において、仙台藩ならびに明治政府内務省(宮城県)によって構築された河川土木遺構(出柵、水制工等)の現況を調査・記録し、これらが果たす機能と効果を考察。河川整備推進の一助とする。
193111011	1	3111	みんなでふれあえる「子吉川」をめざして	子吉川市民会議	会長	木谷 豊四	秋田県	花いっぱい活動並びにクリーンアップを実施し子吉川の美化活動を推進するとともに、子吉川の上流を探訪して川の歴史や水生生物の学習、緑のダム「ブナの森」などの自然観察を実施する。また、子吉川についての関心を高め、深めるために、小・中学校児童・生徒による研究発表会を開催し、研究の成果を地域の方々に発信する。
193111012	1	3111	指首野川の水質改善・水質調査による環境改善の啓発推進。また小・中・高の学校及び地域環境改善団体・自治会と連携した学習活動と文化活動などによる啓発の広報・発	山形県立新庄北高等学校	校長	鎌上 宏	山形県	新庄市内の本校校地に沿って流れる指首野川の環境を浄化するために本校科学部は水質調査を実施してきた。この度指首野川エリアの小中学校と地域の方々と協働しながら居住環境に目を向けさせて水質源の重要性を更に啓発すると共に、川辺でのコンサートやコスモスロード作り等の総合的な河川環境改善の取り組みを通して、地域住民一体となった蜚・カルガモの住める環境づくりを目指し広く啓発活動に取り組んでいく。
193111013	1	3111	鬼怒川の河川愛護及び自然再生活動	花と1万人の会	会長	飯島 順一	茨城県	花と1万人の会では、“自分達のふるさと鬼怒川に美しい自然を取り戻そう”と、鬼怒川河川敷の河川愛護・自然再生活動をはじめ、「ちょっと素敵なまちづくり」を合言葉に川を活かしたまちづくりの実践(花畑の整備・管理や年4回の定期的なイベント)等を行っております。主な活動としては、河川敷のゴミ拾いや除草等の維持管理のほか、河川利用者への河川愛護意識の啓発など幅広く行っています。
193111014	1	3111	子どもの水辺・小貝川リバースクール	NPO小貝川プロジェクト21	理事長	井草 雄太郎	茨城県	地域子ども教室推進事業を活用して子どもの水辺小貝川でカヌー、リバースクールなどを年間200日以上おこなってきたが、本年度でこの事業が終了し、小貝川・三次元プロジェクトの安定化を図る取手市の指定管理制度導入も20年度からなることが決定している。本事業は、同プロジェクトが自己資金で行うことが可能になる20年度までの1年間、プログラムの継続を図るために行う。
193111015	1	3111	「霞ヶ浦のプランクトン」写真と解説によるパンフレット発行	社団法人霞ヶ浦市民協会	理事長	堀越 昭	茨城県	「霞ヶ浦のプランクトン」パンフレットを、1年間にわたる月例の採集調査と顕微鏡写真撮影によって得られるデータと鮮明なカラー写真をもとに、分類法、採集法、写真撮影法に加えて平易な生態学的解説を付記し、編集・発行する。霞ヶ浦の水界生態系におけるプランクトンの位置付け、食物連鎖を通じた水質と物質循環の関係について、生徒・一般人が認識を深める上で類書が少なく、学校教育、社会教育の現場での活用が期待される。
193111016	1	3111	那珂川で楽しく安全に遊ぶための人材の活用・育成と上流から下流までの体験活動の実践	那珂川流域連携協議会	会長(那須烏山市長)	大谷 範雄	栃木県	那珂川流域きらめきビジョン(H18策定)実現のため、那珂川等で様々な活動をしている指導者を招き、その技術を伝承できる講座を開催し、担い手となる人材育成の推進と、那珂川流域人的ネットワークの構築を図る。また、流域市町が連携のもと川の駅等の交流拠点を活用しつつ、上流から下流までの川環境の違いを季節ごとに体験できるメニューを創設し、人と自然(山や川)の関わりや川の大切さを学習する機会を提供する。
193111017	1	3111	渡良瀬遊水地における環境学習(魚類)等の推進	財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団	専務理事	白井 勝二	栃木県	渡良瀬遊水地は豊かな自然環境を有し、多様な魚類が生息している。昔より漁業が盛んに行われており、独特な漁法が行われてきた。地域の伝統漁法などを児童に体験してもらうための方法や水環境の学習方法を確立することを目的とする。これにより人々と河川との関わりを深め、さらに特色ある環境学習の場を提供することで水環境への理解を深めることを目的として、渡良瀬遊水地における環境学習(魚類)を推進するものである。

平成19年度 新規採択一覧(13/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193111018	1	3111	「桐生川子どもの水辺」を含む桐生市内の川に学ぶ体験活動と指導者の育成	川づくりネットワークきりゅう	会長	小堀 順	群馬県	「桐生川水辺の楽校」、「松原橋水辺の楽校」で周辺の小中学生を対象とした、水生生物観察、魚釣り、鱒つかみなどの川遊びの体験イベントを開催し子供たちに川遊びを体験させる。イベントスタッフは会場の草刈りなどの整備や後かたづけを住民参加型の河川管理への動機付けとする。また、市民を対象とした行政の担当者と顧問である大学助教授による防災についての講演会を開催し広く市民に情報を発信する。
193111019	1	3111	全国水難事故多発地の事故防止啓蒙活動	特定非営利活動法人広域防災水難救助捜索支援機構	理事長	藤原 尚雄	埼玉県	川での自然体験活動が復活しつつある中、全国で水難事故は増える傾向にあります。事故の多発している場所が多く存在し、そこでは夏になると多くの人が川に親しんでいます。この活動では、そうした場所で川の危険の広報とその対策としてライフジャケットの着用を普及するため、ライフジャケットのレンタルをし実際に使ってもらいます。また、カヌー等により水面での啓蒙活動もします。
193111020	1	3111	川に学ぶ体験活動指導者養成活動の全国展開と水難事故防止へ向けた当事業の積極的広報	特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会	代表理事	藤吉 洋一郎	東京都	「川に学ぶ」社会の創造に向け、全国各地で子どもを楽しく安全に水辺へ誘える川の指導者講座や子ども水辺安全講座等を、開催希望の地域及び団体と協力して、全国各地で展開する。そして水難事故を減らすためにも、関係機関と連携を図り、当事業内容等を各種広報媒体へ積極的にアピールし、「川に学ぶ」体験活動及び指導者の存在が水辺シーンでは常に人々の評判になり知れ渡るよう、効果的な普及啓蒙活動を行う。
193111021	1	3111	水環境保全セミナー及び見学会の開催	社団法人日本の水をきれいにする会	会長	櫻井 新	東京都	河川の水質は改善されてきているが、湖沼等の閉鎖性水域の水質の改善は進んでいない。また、水環境は、水質のみならず水量・水辺植生・水生生物などを総体として保全し、健全な水環境を確保することが今重要な課題となっている。この一つとして、川や湖と日常的に深いかわりのある内水面漁業関係者を含む市民団体に対して、健全な水環境を保全するための基礎的なセミナーと先進的活動についての見学会を関西(予定)で実施する。
193111022	1	3111	国際的な河川環境の保全・再生をふまえた多自然川づくりを普及・推進するためのシンポジウム等の開催	多自然川づくりシンポジウム実行委員会	実行委員長	桑子 敏雄	東京都	全国の国土交通省の事務所・自治体および建設コンサルタント・施工業者、河川をフィールドとするNPO団体など川づくりの関係者を対象に、「多自然型川づくり」レビュー委員会の提言や国際的な河川環境の保全・再生の動きをふまえて、多自然川づくりの趣旨を広く周知するシンポジウムやワークショップを開催し、多自然川づくりの普及・推進を図る。ワークショップは、東京と九州で1回ずつ(計2回)、他に地域シンポジウムを予定。
193111023	1	3111	空堀川「子どもの水辺」の維持管理における生態系の創出と刈草の堆肥化研究	特定非営利活動法人空堀川に清流を取り戻す会	理事長	友保 邦弘	東京都	河川の管理では、ワンドを整備するとともに、河川敷の刈草は現場で堆肥化してCO2を押さえるべきであると従来から考えていました。幸いにも、平成19年度から「子どもの水辺」WAKUWAKUひろばの維持管理を東京都から請負うことになり、またワンドを掘ってもらえることになりました。そこで、この機会に従来からの考えである環境に優しい河川管理を実行したいと思い、これに必要な経費の一部の助成を申請します。
193111024	1	3111	「北区・子どもの水辺」における池の維持管理と調査体験活動の推進	北区水辺クラブ	代表	飯田 邦男	東京都	「北区・子どもの水辺」周辺の小学校の児童や地域住民を対象として、池の管理としてのかじり体験や、それに合わせた魚類や水草の調査を実施する。また、年間を通じた魚類・植物・水質調査を体験活動として行い、取得データを自然地の維持管理に役立てると共に、小冊子にとりまとめ、イベント参加者や地域住民に広く配布する。さらに、開園3周年イベントとして、活動成果を地域住民に対し発表する。
193111025	1	3111	「これからの多自然“いい川”づくり①ー計画・手法に関するシンポジウムinTokyoー」「これからの多自然“いい川”づくり②ーエクスカーション&シンポジウム	NPO法人自然環境復元協会	理事長	杉山 恵一	東京都	国交省の進める多自然川づくりに対する市民の積極的な参加や多様な連携の仕組みを構築すべく、河川の機能や生活とのかかわりについての展望や計画・手法の事例・研究成果を広く市民をはじめ学識者・実務家・行政官に伝える。川づくりの具体的手法は地域差があるため、第1回は東京都内にて多自然川づくり設計技術の全国の動向を把握し、第2回は北海道茂漁川にて、その後順次地方で開催していく。
193111026	1	3111	みんなで作る源流・滝・沢・谷風土絵地図ー首都圏の水源・湯西川ー	特定非営利活動法人風土工学デザイン研究所	理事長	田村 喜子	東京都	湯西川の源流の沢名、谷名、滝名等については、ほとんど知られていない。水の恩恵を受けている首都圏の住民に水源へ思いをさせていきたい。そのために源流の沢名、谷名、滝名の由来、源流の民話、伝説等を調べ風土資産絵地図を作成することとした。地元の猟師や木地師をはじめ山仕事を人々の英知を集めた源流マップを作成する。

平成19年度 新規採択一覧(14/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193111027	1	3111	「全国水がき交流会in2007」の開催～韓国の子どもと川体験～	特定非営利活動法人全国水環境交流会	代表理事	山道 省三	東京都	地域の川や水辺に関わる日常的な活動や、地域固有の水辺の自然や文化(遊び、行事、生業等)について、全国から学童を募集し、「全国水がき交流会」を開催する。川の基礎知識に加え、川の文化、釣りや川の生き物とのふれあう体験を現場での実践を通じ紹介することで、水ガキ養成を図りたい。今回は新たに韓国の学童との交流を促進する。
193111028	1	3111	河川流域における体験活動を促進するための地域コーディネーターの育成	NPO法人自然体験活動推進協議会	会長	奥島 孝康	東京都	河川流域地域は環境教育や自然体験等を展開する上でひとつのまとまりとして捉えやすい。河川流域における体験活動を促進するためには、行政を含む地域内の様々なセクターを結び、協働と連携を促すことができる“地域の核となる人材(地域コーディネーター)”が必要である。本事業ではモデル地域を設定し、その地域における地域連携のあり方や運営手法、“地域の核となる人材”に求められる資質やその育成方法等について検証を行う。
193111029	1	3111	海岸愛護推進事業(海岸愛護写真コンクール・グラビア・ポスター作成)	社団法人全国海岸協会	会長	脇 雅史	東京都	四方を海に囲まれたわが国で、海岸は、生活、レクリエーション等の場として、また、貴重な自然空間として、多種多様に活用されており、うるおいとやすらぎのある海岸への期待は、ますます高まっております。この自然空間を大切に守り育て、心の広がりを願って海岸美化運動を推進するほか、後世代の人々に喜ばれる美しく安全な海岸づくりをめざして、海岸愛護写真コンクールを実施し、海岸愛護ポスターを作成するものである。
193111030	1	3111	先人の知恵から学ぶ川の魅力～子どもたちがつくる「川のあるまちの設計図」～	社団法人日本ネイチャーゲーム協会	理事長	降旗 信一	東京都	持続可能な地域社会づくりの担い手となる子どもたちが、河川に関する先人の知恵・自然・歴史・文化などをテーマとした、地域ごとの特色を活かした体験活動(自然体験プログラム、地域の高齢者との交流、伝承あそび、伝統工芸体験など)を通して、河川の魅力を知る。また、子どもたち自身の考える河川を中心とした理想の地域社会「川のあるまちの設計図」の作成を通して、現代の子どもたちが捉えている「河川」へのイメージを探る。
193111031	1	3111	「春の小川」案内板プロジェクト～現実の「春の小川」をめぐる話題づくりと賑わいづくり	NPO法人渋谷川ルネッサンス	代表理事	尾田 栄章	東京都	昨年度の河川整備基金により開始した「春の小川」案内板プロジェクト。かつて唱歌「春の小川」が歌われた舞台である渋谷川支流の暗渠の上の立つ電柱に「春の小川はココです」と知らしめる広告を掲示した。現実の「春の小川」の空間が復活し、マスメディアも注目をはじめています。ケータイを使った情報発信やオリエンテーリングイベントの実施とともに、「賑わい」を現出し人をそこに集めることを目的に、2年目の展開を実施する。
193111032	1	3111	水辺・流域再生に関わる国際フォーラム	AsianRiverRestorationNetwork	運営会議委員長	玉井 信行	東京都	日本、中国及び韓国を中心とし、アジア諸国の河川・水辺環境に携わる個人、団体等が知識や経験を共有、交換できる機会と場を提供する活動を通じ、参加者相互の知識・技術の向上を図り、日本国内のより豊かな水環境再生に寄与する。日本国内で、中韓及びアジア諸国、欧州の有識者を交えた河川、水辺環境整備に関する公開討論を含む国際フォーラムを行い、今後の環境整備のあり方を考える機会と場を提供する。
193111033	1	3111	新川をもっと身近に！知る・感じる・体験する、えどがわまちなかプロジェクト	特定非営利活動法人えどがわエコセンター	理事長	岡島 成行	東京都	三方を海と川に囲まれた江戸川区の地域特性を活かし、新中川、江戸川に続き、19年度は「新川」を中心に事業を展開します。小学校や会員団体、町会・自治会、行政等との協働により、都市河川を利用した未来志向のプログラムを行い、河川のみみと有効利用についての情報や提案を発信していきます。また、ワークショップ等を開催し、区民相互や区民と行政との交流を深めるパイプ役として機能していきたいと考えています。
193111034	1	3111	「狛江水辺の楽校」における自然再生活動と環境学習の推進、及びDVDの制作配布	「狛江水辺の楽校」運営協議会	会長	横山 十四男	東京都	地域の幼・小・中学生を対象に、年間のべ1600名(平成18年度)をこす環境学習支援や自然体験の指導を行ってきた「狛江水辺の楽校」では、開校7年目を期にこれまで蓄積してきた環境学習の実践ノウハウをDVDに集約し、流域の小・中学校に無料配布。とくに児童の自然再生活動を授業に取り入れた体験的環境学習は、河川愛護の実践事例として注目を集めるものと思われる。
193111035	2	3111	源流文化発掘と熊野川源流絵図作成	特定非営利活動法人全国源流ネットワーク	代表	中村 文明	山梨県	全国の源流域は、自然の宝庫である。熊野川源流の本流や支流に刻まれた淵や滝、沢や尾根の地名やその由来には、日本人の自然観が色濃く反映している。こうした熊野川源流の歴史や文化を調査研究し、その成果を熊野川源流絵図にまとめ上げ、次代を担う子供たちに伝えていきたい。また、こうした成果を全国源流シンポジウムなどで普及する。源流域が高齢化しており、資源の調査、記録、保存は緊急性が高いといえる。

平成19年度 新規採択一覧(15/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193111036	1	3111	川の活動リーダー養成と子どもの自然体験普及活動	NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター	代表理事	村上 忠明	長野県	特に川での環境教育や自然体験の分野で活動を考えている学生や青年に、河川環境指導者としての資質を養うプログラムを提供する。さらに当NPOが主催する夏の子どもキャンプ(1000名が参加)に指導者として参加することで、キャンプに参加する子どもたちに高度な川の環境教育、安全教育を啓発する。さらに実践の場を得ることで、参加者にとっては広く社会に広める技術を身につけることができる。
193111037	1	3111	河畔林のニセアカシヤ駆除と川の木こり養成事業	特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議	理事長	福澤 浩	長野県	天竜川には、ニセアカシヤが繁茂しています。これらの駆除を沿川の住民や環境保全活動団体とも協働・連携し事前に利害関係者(特に養蜂関係者)や河川管理者との合意形成を天竜川ゆめ会議が行い、沿川の住民の方や森林組合や建設業者のボランティアや暖炉の愛好者も参加し伐採後の樹木は薪などとして活用してCO2削減にもつながります。本事業は、この活動を天竜川沿川で広めていく活動です。
193111038	1	3111	新・千曲川讃歌「そして信濃川へ」の創作及び演奏による自然の豊かさの啓蒙	合唱組曲「千曲川讃歌」制作公演実行委員会	実行委員長	塩沢 荘吉	長野県	本委員会では平成7年に河川整備基金の助成を受け、合唱組曲「千曲川讃歌」を創作し、以来長野オリンピック文化プログラムでの公演をはじめ、種々の音楽活動やシンポジウム等を通して、千曲川の素晴らしさを広めてきた。この活動は、当初から下流の信濃川への展開を目的としており、中越地震からの復興の兆しが見えた今日、長野、新潟2県の太い絆を新合唱曲創作・演奏で結び、川を通じた豊かな心の教育に資するものである。
193111039	1	3111	自ら汗をかく地域住民活動で、天竜川の水辺環境へ係わる活動事業	財団法人飯田市天竜川環境整備公社	理事長	牧野 光朗	長野県	飯田市天竜川治水対策事業が終了し5年。天竜川へ、親しみきっかけ作りの活動をつづけ、川辺を利用する様々な姿が、通年で見られるようになった。昨夏の天竜川岡谷、伊那市付近の洪水により河川環境が大きく変わり、河川環境整備へ地域住民の関心が高まるなか、大人から子供までが、河川環境美化、帰化植物除去などを、川体験の楽しみと組み合わせ、自ら汗をかく地域住民活動で、天竜川へのかかわりを深める。
193111040	1	3111	川に学ぶ体験活動全国大会in長良川	川に学ぶ体験活動全国大会in長良川実行委員会	実行委員長	柴田 甫彦	岐阜県	川に学ぶ体験活動全国大会は「川に学ぶ」社会の形成を目指し、川での活動を通して、人間性の回復や水資源の保全について認識を広げ、川での安全で楽しく学びのある活動を支援、推進することを目指し実施するものであります。
193111041	1	3111	安倍川源流部の大谷崩300年事業を理解してもらうための教材(副読本)づくり、セミナー開催	特定非営利活動法人水の国しずおかフォーラム	理事長	番場 公雄	静岡県	安倍川の源流部大谷崩(おおやくずれ)は1707年10月に発生した宝永地震で大崩壊が始まった。2007年は崩壊から300年を迎える。国土交通省静岡河川事務所は「崩れ文化」をテーマに大谷崩300年事業を展開する。この事業に合わせて源流部の役割などを主眼に、安倍川の魅力に関連した広範な知識・情報を提供し、「崩れ文化」という新しい視点を理解してもらうための教材(副読本)づくり、市民向けセミナーを開催する。
193111042	1	3111	富士山の水文化を世界に発信「富士山湧水マップ」環境教材の作成	特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	理事長	渡辺 豊博	静岡県	富士山周辺には数多くの湧水が点在している。しかし近年、湧水の減少や水質悪化の進行、開発による変化が進んでいる。そこで、平成18年度の助成成果を踏まえ、インターネットによる「富士山湧水マップ」を作成し、世界文化遺産登録を目指す富士山の水文化を世界に発信する。また、「富士山湧水発掘隊」を結成し、各地域の湧水を継続的に調査する体制を整備し、「富士山湧水マップ」の信頼度と更新機能を高める。
193111043	1	3111	庄内川上条河畔林の整備とその利活用	土岐川庄内川交流会みどりのまちづくりグループ	代表	高橋 勇夫	愛知県	今まで全く管理されていない河畔林を整備(クリーン作戦、草刈、水辺の散策路)し、周辺の小中学生を対象に水辺の体験学習、歩行ラリーや利活用としてドッグラン、自生のヤナギを利用して山藪の実験飼育を行い河畔林活用の新しい試みを行います。
193111044	1	3111	子どもと大人の堀川学習と探検	堀川とまちづくりを考える会	会長	浦野 三男	愛知県	由緒ある堀川の学習や花植え活動を続けてきたことにより関心を高めてきたが、より関心を拡大する目的で、小学生を船に乗せ、当会養成のガイドボランティアの説明で、上流から河口を探索し、色々な地点で川の水の水質調査や生態調査などを行う事業を上・下流の団体と連携して行う。名古屋開府四百周年の2010年にそなえ各団体と連携し、西区誕生百年の2008年のイベントとして堀川のすばらしさと産業遺産を再確認する

平成19年度 新規採択一覧(16/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193111045	1	3111	志段味ビオトープ整備・魅力発見行動志段味ビオトープで遊ぼう	土岐川・庄内川流域ネットワーク	会長	宮田 照由	愛知県	「名古屋エコシティ推進計画」に「水辺空間の拠点となる大規模なビオトープを形成」と位置づけられ、国土交通省が一部整備をした「志段味ビオトープ」は、「環境首都なごや」に残された「自然の豊かさ」を体感でき、自然観察や生態系を学習し、楽しむことができる貴重な水辺空間です。市民参加で整備を進め魅力を発見・啓発することで河川愛護や環境教育に寄与するとともに、市民参加の運営協議会(仮称)づくりをめざします。
193111046	1	3111	藤前干潟クリーン大作戦	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会	実行委員長	浅沼 秀夫	愛知県	国土交通省中部地方整備局が提起した「川と海のクリーン大作戦」の提起を受けて、実行委員会を組織する5市民団体と行政機関、地元自治会、企業、学生、流域住民との協働により、ラムサール条約登録地の藤前干潟と庄内川・新川河口域のゴミ拾い活動を継続実施する。あわせて、上下流の交流を進展させ、流域全体に呼びかけて「ゴミ問題を考える集い」を開催し、流域内でゴミ流失を抑止する啓発活動を推進する。
193111047	1	3111	五条川再生計画	NPO法人トンボと水辺環境研究所	理事長	川口 邦彦	愛知県	私達のNPOでは近在の学校20校以上の学校ビオトープを造り、それぞれをネットワークさせ、同時に環境教育に力をいれてきた。次なるステップは私達が人づくりしてきた学校と地域とを結ぶ段階に来ている。そこで近在で親しみがあり、絶滅危惧種等を含む生物が数多く残る五条川を生き物の住みやすい川、そして人が自然と触れあえる川にし、学校と地域、企業、自然を結んだ理想的な総合的環境教育をしていく。
193111048	1	3111	「全国主要閘門一斉調査」	日本の閘門を記録する会	会長	三浦 裕二	東京都	近年「舟運の復活」が脚光を浴びつつある。しかし、舟運に貢献した「閘門」に関する全国的な資料整理は行われていない。かつては地域社会に溶け込んで機能していた閘門は、舟運の衰退と共にその存在も忘れ去られ、同時に、川と地域社会との係わりも希薄になりつつある。そこで、全国の閘門調査を一刻も早く行い、各地の先人の川への知恵や想いを「閘門」を通じて記録し、川と地域との係わりを復活させる端緒とする。
193111049	1	3111	宮川流域の災害後調査体験事業	大杉谷自然学校	理事長代理校長	大西 かおり	三重県	宮川の流域に住む小学生児童を対象に、平成16年の台風災害で宮川が受けた被害の状況や生態系の回復について環境学習する機会を提供する。「宮川の子どものホタル調査」及び「宮川の魚調査」の年間2回の事業を1泊2日の宿泊型で実施する。夜間の川の調査体験も含み川の様々な側面の学習を取り入れる。また、流域の子どもたち同士、地域住民の関わりの機会を大事にし交流の機会を提供する。
193111050	1	3111	豪雨復興後の足羽川の体験型環境教育活動の充実に向けた人材育成事業	NPO法人自然体験共学センター	理事長	辻 一憲	福井県	平成16年7月に発生した福井豪雨によって壊滅的な被害を受けた足羽川本支流の河川の状況を踏まえ、環境教育と安全面を充実させた体験型環境教育プログラムを開発し、実践、検証を行う取り組みを通じて人材育成を図り、自然災害の被害を受けた河川に対するマイナスイメージをやわらげ、河川及び河川を取り囲む環境への関心を高める。
193111051	1	3111	山から海までの環境を考えた自然工法「粗朶沈床」見学会とセミナー開催	特定非営利活動法人エコプランふくい	理事長	土保 裕治	福井県	環境保全のため最近各地で少しずつ行われるようになった河川管理の自然工法のひとつ「粗朶沈床工法」を、広く一般市民をはじめ、建設業界・行政関連の人たちに理解してもらうためのセミナー、粗朶沈床現場見学、水生生物調査を実施し、地元の粗朶生産を検討する、粗朶山の育成と管理、人材育成のための粗朶山の視察とセミナー開催を行います。
193111052	1	3111	琵琶湖・瀬田川流域の自然環境保全活動事業	特定非営利活動法人瀬田川リパブレ隊	理事長	富岡 親憲	滋賀県	瀬田川流域の住民を対象に、琵琶湖・瀬田川の環境に関する学習と保全活動を行う。内容は、生物観察、生態系維持を目的にしたヨシ刈り・ヨシ群落の保全、外来魚駆除、水質調査、環境保全・治水に関するセミナーの開催、河川施設の見学会を実施する。さらに、活動成果を「リパブレ隊だより」として発行し、地域の住民に環境保全の必要性をアピールする。
193111053	1	3111	亀岡川キッズ探検隊「川ガキ大将復活プロジェクト2007」	財団法人亀岡市交流活動センター	理事長	森 貢	京都府	「川」をテーマに体験活動をイベント的に開催する。カヌー、シャワークライミング、川漁師、外来魚退治等14の体験プログラムにより川の楽しさを知るとともに川の大切さを再認識し、川の汚れやゴミの状況なども自分の目で見て感じ、身近な環境のことを知り、自然や命の大切さを実感することにより環境問題に取り組む人づくりを目指す。イベント的な開催により、多くの子どもや親子に「川」に触れる機会の提供として実施する。

平成19年度 新規採択一覧(17/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193111054	1	3111	大阪の河川環境を知る一子どもと教員のための体験・観察・実験教室	大阪府教育センター	所長	川村 幸治	大阪府	大阪の河川の環境教育を担う教員のリーダー及び推進校の育成を図るために、大阪府内の小・中・高等学校30校の教員(30名)と、約500名の児童生徒を対象に、特に実際の河川環境一水・土・大気・生き物、そして水利用や治水など人と生活の関係についてのフィールドワークを中心とした体験・観察・調査・実験・実習を行う。さらに、児童生徒の観察・調査結果の発表の場を設け、大阪府内の小・中・高等学校の経験の交流と共有化を図る。
193111055	1	3111	近木川流域連携と「川の分校」づくり、汽水ワンドづくりへの参画	近木川流域自然大学研究会	代表	橋本 夏次	大阪府	環境省のホームページに、過去10年間に大幅に水質改善された水域として近木川が紹介された。その内容は、12年続けてきた近木川市民フォーラムと環境学習などである。子どもの参画による川の分校づくりをさらに具体化する出前教室、河口で進められている汽水ワンドづくりへの参画で地域とつなぎ、流域の視点で、自然再生事業のモデルとなる活動を展開する。フォーラムをメイン事業として内外に情報提供する。
193111056	1	3111	狭山池ダムにおける河川愛護啓発活動	狭山池さくら満開委員会	会長	武田 博允	大阪府	河川愛護の精神を高めるため、建築家の安藤忠雄氏により啓発講演会をはじめ、桜の植樹や水質浄化として、筏を利用した食用植物施設の設置、カラス貝の養殖、流木として採取した竹木を利用した葦の植樹を行う。またチップ材を用いた桜の保水・堆肥にリサイクル活用や水質調査なども行う。これらの活動については、流域住民や他の環境団体にPRするなど活動を有機的に繋げ、市域にとどまらず、流域全体の市民活動を活性化させる。
193111057	1	3111	琵琶湖から学び、琵琶湖に還そう一流域が連携した琵琶湖の環境保全を目指して一	琵琶湖市民大学	代表	讃岐田 訓	兵庫県	琵琶湖の水を飲んでいる流域住民を対象に、琵琶湖の水質を知る水質調査実習、内湖の生態系を観察するカヌー講座、琵琶湖周辺で農漁業に携わる人々の生活を体験するワークショップを実施して、琵琶湖の豊かな自然と人との関わりを学ぶ。そこから琵琶湖を保全してゆくために目指すべき水利用や生活のあり方を検討し、流域住民に提唱してゆく。また、活動を通して流域住民間の交流を活発にし、環境リーダーや研究者の育成を図る。
193111058	1	3111	特別天然記念物オオサンショウウオの進む美しい水辺の森再生事業	晴れの国野生生物研究会	会長	谷 幸三	鳥取県	オオサンショウウオ棲息地において、良好な自然環境の残る河川域及びその背後地となる森林域を生態系保全区(ハンザキ・サンクチュアリー)として選定し、自然公園活用をはかるとともに、オオサンショウウオの生息地を見学するエコツアーなどの市民参加イベントを開催する。生物多様性が低下した区域については、溪畔林の復元などの自然再生活動を実施することで、地域住民が参加する清流環境再生の組織づくりを進める。
193111059	1	3111	斐伊川流域環境マップづくり	NPO法人しまね体験活動支援センター	理事長	青木 充之	島根県	河川環境学習の一環として、子ども達が河川の上流から河口までの流域全体で一斉に川の水質やゴミなどの環境調査を実施し、流域全体の河川環境マップを作成することにより河川環境保全活動のきっかけを作る。5年間続けてきた「神戸川流域環境マップづくり」の取り組みを拡大し斐伊川流域の2市3町で実施する。流域全体で川を捉えるように源流見学や河口の見学なども実施し、成果発表会で活動の質を高め流域全体に情報発信する。
193111060	1	3111	中海・宍道湖及び流入河川域における体験学習による自然環境調査事業	松江市	松江市長	松浦 正敬	島根県	中海・宍道湖は、平成17年11月にラムサール条約の登録湿地になった。これを契機とし、この両湖や湖に流入する河川やその周辺地域の自然環境調査を幅広い世代が参加できる体験学習事業として実施する。この調査を通じて川と人との関わりや水辺の大切さを再認識してもらうことにより、今後の環境保全活動につなげ、併せて、結果を流域の生き物マップとして作成し、広く情報発信する。また、環境学習の教材としても活用していく。
193111061	1	3111	こいつ子ふれあいの水辺の学校(水遊館)を中心とした体験環境学習	エコロジー研究会ひろしま	会長	久保 允誉	広島県	平成16年3月4日に己斐地区子どもの水辺推進協議会を発足し、16年8月にふれあいの水辺が完成した。名称を「こいつ子ふれあいの水辺」と称し、地域の活動や環境学習の場として利用促進して実践している。18年都市再生モデル調査で新己斐橋の橋脚に風景画・水辺の情報掲示板・魅力的な空間の創造として充実した水辺の学校として整備した、カヌー教室・ロケット教室・水質調査等体験環境学習を実践する。
193111062	1	3111	太田川の「学びと啓発」による「川と共生」の意識と態度の育成に資する事業	特定非営利活動(NPO)法人ひろしま生涯教育研究所	理事長	斎藤 清三	広島県	太田川の自然環境や水資源等を学ぶため多世代の住民参加の「太田川ふるさと講座」を上流域と下流域で実施し、併せて広く下流域の住民の応募を求めて太田川についての知識度を知る「太田川(通)」の認定試験を行い、認定を受けた(通)の啓発活動によって、「川との共生」への意識や生活態度を育成する。

平成19年度 新規採択一覧(18/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193111063	1	3111	雁木保存とシジミ漁による水辺文化の継承プロジェクト	特定非営利活動法人雁木組	理事長	氏原 睦子	広島県	広島6本の河川に残る約300ヶ所の雁木(階段護岸)を船着場として再活用する水上タクシーの運航から2年が経過した。水上タクシーの利用をきっかけとして注目を集めつつある「歴史的な雁木」や「しじみ漁」などの水辺の文化を、漁業者、行政、市民、NPOによる連携のもとに、地域の手で守り(シビックトラスト)、伝えていく事業である。
193111064	1	3111	「自然との共生」による人材育成、及び福祉コミュニティの推進	西栄会	顧問	田中 博	徳島県	子どもたち(不登校・いじめ体験・一般児童)及びその保護者を対象に「川の楽校」を開校、河川清掃及び四季折々の自然体験(鮎つり、生物調査、河川敷農地における農業体験、水防竹林の竹の再利用等)を通じ、川の自然や生物と向き合うことで、創造力・生命の尊さ・他者への思いやり・自然の法則を学び青少年の健全育成の推進及び、地域高齢者との交流(河川食物による食事会)を図り、河川環境を通じた福祉コミュニティの確立
193111065	1	3111	川の総合型スポーツクラブ設立推進と、自然体験活動による、人材育成及び水辺空間を活かしたまちづくり	特定非営利活動法人美馬体験交流会	理事長	田中 義美	徳島県	川の総合型スポーツクラブ設立推進により吉野川を川スポーツのメッカに育てるべく「四国三郎の郷・体験交流」を開催し、吉野川回廊めぐり(上流より、川流れ、カヌー、Eボートで水辺空間を巡る)及び各種自然体験活動を実施し体験したこと、自然との共生、河川環境、地球環境についてのシンポジウムを開催し、吉野川の素晴らしさを全国に発信し、同時に、中流域住民の交流の場として「にぎわい」を創出し中流域の活性化を図る。
193111066	1	3111	川の恵みを感じる吉野川フェスティバル事業	特定非営利活動法人新町川を守る会	理事長	中村 英雄	徳島県	日本3大河川の一つ四国三郎吉野川からもたらされる豊かな川の恵みについて、市民みんなで学ぶために、市民・行政・企業が一体となって取り組む河川の清掃活動、河川とのふれあいを通じた河川愛護活動、河川環境の向上を目的とした啓発イベントなどによる、水の恵みのフェスティバルを開催します。
193111067	1	3111	重信川河口及び周辺海岸における生態系の保全・再生活動	伊予農絶滅危惧海浜植物群保全プロジェクトチーム(愛媛県立伊予農業高等学校)	校長	石原 直満	愛媛県	重信川河口及び周辺海岸には、貴重な生態系がある。過去3年間、産業界、学校、行政、ボランティア団体、マスメディアが連携して、海浜植物の生態保全や海岸清掃ボランティア活動を行ってきた。今後、植生分布の変化や海浜地形、飛砂量、水質等の経年変化を継続調査しながら、河口域と周辺海岸における昆虫類、鳥類、魚類、甲殻類等の生態系を調査・保全し、外来種の進入等を含めた環境教育を地域社会と共に行う活動である。
193111068	1	3111	天然アユを増やすと決めた漁協のシンポジウム(天然アユの復活と河川利用との調整)開催	天然アユ保全ネットワーク	会長	谷口 順彦	高知県	利水やダム建設はわれわれの生活を維持するために必要なものではあるが、これまでは環境保全や内水面漁業とは、とすれば「対立の」構図が形成されてきた。本事業では、清流のシンボルである天然アユの保全とダムや利水の問題を調整し、協調するための具体的な仕組みづくりについて漁協、釣り人、研究者、市民団体、行政が話し合うシンポジウムを開催。また、シンポジウムの記録集をつくり全国の河川で活用できるようにする。
193111069	1	3111	ドジョウやゲンゴロウから身近な水辺を考える～「魚部」を通じた市民啓発	福岡県立北九州高等学校魚部(ぎょぶ)	校長	岩元 豊司	福岡県	魚部の高校生が水生生物の現状調査を行い、その成果を市民啓発の形で伝えて生物保護や水辺保全に生かしていく。その具体的な取り組みとして、地域で夏に企画展を開催するほか、琵琶湖博物館でも展示をして全国にも発信する。また、企画展では、同様な取り組みをする全国の高校生を招き、活動発表を通じた交流会も開催する。さらに、水生昆虫では、専門的立場の方々も交えて、福岡県内での調査結果をまとめた冊子の刊行にも取り組む
193111070	1	3111	RAC九州「川を知り・川に親しみ・自然と安全を学ぶ」教室の推進と指導者の養成	特定非営利活動法人西日本環境ネットワーク	理事長	村崎 詩園	福岡県	平成17年度から実施してきた、RAC地域子ども教室参加団体を中心とした九州6河川(川内川、大淀川、白川、緑川、遠賀川、紫川)が連携して、それぞれの河川の特徴を生かした子どもの水辺教室を推進していく。プログラムは、小中学生を対象に、水辺の生き物教室、カヌー体験、水環境プログラム、川流れ、川の文化・歴史探索会、水辺の安全講習会を実施する。また、川の指導者養成講習会を開催して各流域に指導者を育成する。
193111071	1	3111	「嘉瀬川杯・遣唐使船レース」の開催	嘉瀬川杯遣唐使船レース推進協議会	会長	陣内 孝雄	佐賀県	中国の高僧「鑑真」の佐賀県嘉瀬津上陸にちなみ、その歴史文化を後世に伝えていくために、一級河川嘉瀬川で遣唐使船型競漕用和船(12隻)によるレースを開催し、これにより地域間の交流や河川愛護・思想普及を語る。

平成19年度 新規採択一覧(19/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193111072	1	3111	子どもの水辺体験の推進と川の指導者の養成	さが水ものがたり館	館長	金子 信二	佐賀県	江戸時代初期に成富兵庫により造られた、日本最古級の治水・利水施設「石井樋」で、失われてきた河川とのかかわり、水辺の賑わいを再生することを目的としたイベントを開催する。子どもたちの体験を中心とし、水環境や水生生物の調査、ボート、魚とり、工作などの体験を実施する。イベント結果などを館内でPRする。また、佐賀県内の市民団体などに、川での安全等のスキルを身につけた指導者を養成するための講習会を開催する。
193111073	1	3111	「山国川発～中津干潟行中津ん水物語」水環境情報発信プロジェクト	特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会	理事長	足利 由紀子	大分県	中津干潟は、国内トップレベルの自然環境から近年注目を集めている。また、瀬戸内海の漁業資源を支える場としても重要視されつつある。この干潟を支えるという意味で重要な山国川であるが、ひとつの水の繋がりにして「川と海」を見つめ、水系全体を保全するという動きは始まったばかりである。この豊かで壮大な「水の世界」を文化や漁業、自然環境など多様な面から再発見し、情報発信することにより、水文化の発展と保全を目指す。
193111074	1	3111	市民と行政の連携で、大野川流域の川づくりの将来のあり方を模索する(人材育成、子供の学習の場・情報の蓄積・整備・発信の場等の継続的仕組みづくり)また19年度は	大野川流域懇談会	会長	川野 田實夫	大分県	大野川では流域の市民団体と学識経験者、河川管理者と日常的な連携がなされており、夫々の立場から協働して川づくりを行っている。連携した川づくりの仕組みを確立し、流域の多分野にわたる情報を蓄積し広く発信していくことで、流域の川づくりに寄与する。5ヵ年計画の2年目は、支流を重点に、流域各地での人材育成、子供世代の河川意識の向上のための啓発等を考えている。又、第1回アジア太平洋水サミット参加事業を実施する。
193111075	1	3111	子どもや障害者のための環境学習五ヶ瀬川流域リバースクール・清掃活動及び指導者研修	特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校	理事長	杉田 英治	宮崎県	五ヶ瀬川流域内でリバースクール・カヌー体験を行い、川遊びの楽しさ、川から見る新しい町の魅力を再発見し、同時に河原及び河川内のゴミ拾いを行い「川を綺麗にしよう！」という精神を育む。障害を持つ方が自らの力で、またはインストラクターのサポートのもと自由気ままに自然と触れ合う機会を提供する。同時に指導者研修を行い、川での基本的なレスキュー法を学ぶことで、川の危険を知り、川での事故を未然に防ぐ。
193111076	1	3111	カッパも棲める川づくり「がぐれんすづくり」プロジェクト(宮崎・大淀川)	「がぐれんすづくり」プロジェクト	代表	日高 正照	宮崎県	都城市街近くを流れる大淀川はコンクリート護岸と芝草の開放的な堤防が広がる。萩原・梅北川合流部は遊水地的な川辺が残り、見られる動植物の種類も多い。ここに昔の川遊びと風景を体験できる空間を再構築する。現在は魚類・鳥類・植生調査などの実施と「がぐれんす川の生き物地図」を計画中。子どもの水辺の利用者に開放し、水辺の自然・歴史・文化の再発見で都市生活の潤いの場を作る。
193111077	1	3111	リュウキュウアユの保全と地域づくり	奄美多自然型川づくり実行委員会	代表委員	四宮 明彦	鹿児島県	リュウキュウアユは琉球列島固有の亜種であるが、沖縄島ではすでに絶滅し、野生個体群は奄美大島にのみ生息する。奄美大島においても個体数減少のため、2004年に鹿児島県の条例で捕獲禁止になった。このため、リュウキュウアユの個体数を復活できる川づくりを目指す。その目的達成のために、流域全体の保全計画を住民・行政・研究者・技術者が連携して策定し、それを実行する。
193121001	1	3121	後志利別川にて、川を知り、川から学ぶ総合学習活動	今金町立今金小学校	校長	渡辺 勝博	北海道	4年生が学習する総合学習の中で、美利河ダムを有する後志利別川の河川学習を通して、川で遊ぶことの楽しさや豊かさを知る。また、川に生息する水生生物等を知ることや川と生活環境との関わりについて学習を広める。さらに、河川で従事する専門職員の体験的な話により、地域の中を流れる河川と農業の関係などについて学習を深めることができる。
193121002	1	3121	命の大切さを学ばせる体験活動(カヌー体験やピオトープ学習等を通して)	岩見沢市立メープル小学校	校長	中島 利明	北海道	小規模校の特性を生かした継続的なカヌー体験・ピオトープ学習の内容の発展、充実を工夫し、命の大切さを中心とする豊かな心の教育を図る。
193121003	1	3121	川からの視点から見る夕張の自然と歴史を探る	北海道夕張市立千代田中学校	校長	四十九院 正清	北海道	夕張川と志幌加別川の両岸にウナギの寝床のようにつくられた夕張市の自然と歴史を、水質・生物調査や川の果たした役割を調べる等の学習を通し、自分たちの住んでいる地域を見つめ直し、新しい夕張を考える機会とする。また、本活動やその成果を保護者・地域住民に発信することを通して、地域の活性化の一助とする。

平成19年度 新規採択一覧(20/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121004	1	3121	ふるさと美深～水・川から広げよう	美深町立美深小学校	校長	北畑 憲夫	北海道	自分たちの町を流れる天塩川及びその流域について多面的な調査追求活動を通して、発見や理解したことをまとめ、表現していくと共に自分たちの生活との関わりや川を通して自分たちのふるさとを知る。また、自然や環境問題等にも目を向けていく意識を持たせる。
193121005	1	3121	漁川における体験活動を通して、自然環境の大切さを理解する活動	恵庭市立松恵小学校	教諭	野田 公一	北海道	自分たちのフィールドを流れる漁川で自然観察(水生生物や魚類の採取観察、水温や川底の様子などの継続的観察、川辺に生息する鳥類や植物の観察など)を通して、自然環境を大切にすることを育てる。また、漁川に湖上産卵するサケを観察し、サケの生態について学習する。
193121006	1	3121	天塩川における川に親しみ河川浄化を目指す活動	幌延町立幌延小学校	校長	松田 慶郎	北海道	行政機関や地域との連携を図りながら、川での体験活動を行うことによって、河川浄化を目指す環境教育に取り組む。内容としては、天塩川の水質検査や、天塩川流域に棲息する動植物の調査などを実施する。
193121007	1	3121	青森県最重要希少野生生物ヤリタナゴの分布調査と繁殖実験	青森県立五所川原農林高等学校	校長	石田 雄一	青森県	青森県レッドデータブックで最重要希少野生生物に指定されているヤリタナゴは、全国的には普通種ではあるが、青森県では激減状態にあるといわれている。主な生息域は農業用貯水池や河川であるが、外来種の影響や水質の悪化で生息環境が急激に悪化しているようである。そこで現在の分布域の把握と繁殖実験を行い、分布域の回復を試みることを目的とする。
193121008	1	3121	北上川の自然環境を大切にしようとする活動	花巻市立矢沢小学校	校長	佐々木 賢三	岩手県	地域の協力を得ながら絶滅危惧動物の生息環境の整備体験活動を通して環境教育に取り組む。内容としては「川の日」に河川の美しさ、恐ろしさを学んだり川の生物の採集などをするリバーズスクールを開催する。
193121009	1	3121	守ろう田瀬の自然を	花巻市立田瀬小学校	校長	小野 正晴	岩手県	「いこいの森」での炊飯活動、カヌー体験等田瀬湖を取り巻く自然と親しむ活動を実施する。また、田瀬湖や田瀬湖に流れる白土川での水質調査、水生生物調査、植物観察、田瀬湖畔清掃等から学んだことを発表会や広報活動を通して地域に発信していく。さらに、地域を巻き込んだ田瀬の環境保全活動に広げていく。
193121010	1	3121	1級河川・涼川における水質・水生生物調査と地域との関わり	岩手県八幡平市立寺田小学校	校長	渡邊 康明	岩手県	17年度から地域の環境調査・環境保全・省エネ意識高揚を中心に、環境・産業・歴史文化の学習活動を推進。これらを学年系統化し、総合学習や全校活動として実施。19年度も継続する。4学年では、1級河川・涼川における水質・生物調査及び地域との関わりを学習。学習成果は掲示を通して紹介、また地区民参加の発表会を開催して発信、啓発を図る。18年度末(2/18)には市民団体主催の「森と川のシンポジウム」で発表する予定である。
193121011	1	3121	「江刺北上川水辺の楽校」を活用した、川に学び川に親しむ総合的な学習	奥州市立江刺愛宕小学校	校長	河東田 康昭	岩手県	「江刺北上川水辺の楽校」を活用して、主に4年生が北上川の自然や人々との暮らしとの関わりについて総合的に学ぶ。内容は、「北上川や広瀬川の水質」「魚類などの水中の生き物」「水辺の昆虫や野鳥」「水辺の植物」「水害や舟運」などとし、その中から児童がテーマを選んで取り組む。活動の節目において、それぞれの分野の講師を招き、児童の学習が深まるように支援する。学習のまとめとして保護者等に向けた発表会を持つ。
193121012	1	3121	北上川と私たち	石巻市立飯野川第一小学校	校長	増子 裕子	宮城県	本校は、北上川下流のすぐそばに位置する。母なる川・北上川に親しむ体験活動をしたり、北上川と私たちのかわりについて考えるため、自分の課題を設定し、調べる活動を行う。

平成19年度 新規採択一覧(21/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121013	1	3121	旧北上川における、川に親しみ、川を大切に、共生していくことを目指す活動	石巻市立開北小学校	校長	岸 澄夫	宮城県	旧北上川について、各関係機関からゲストティーチャーを招聘して様々な角度から調べ、種々の体験活動(カヌー・釣り・源流探索・上流の学校との交流会等)を通して、いつまでもきれいで豊かな川とともに生きていくために自分たちができることは何かを考え、発表したり実践活動に取り組んだりする。また、同時に、川での事故防止についての知識を学び、川は危険なところという懸念を払拭し、川との共生をめざす活動に取り組む。
193121014	1	3121	「北上川博士になろう」川と暮らしのかかわりを調べ自然環境を守ろう	宮城県登米市立米谷小学校	校長	及川 守	宮城県	北上川を中心にした地域の河川(大関川、二俣川、恩田川)での川遊びや水質検査、鮭の飼育観察と放流、治水施設の見学などの体験や浄水施設の調べ学習をとおして、川と私たちの生活のかかわりに気付かせ、自然環境を守ろうとする心を育む活動を行う。全校児童、保護者・地域への発表を行うと共に、インターネットを通じて活動の様子と成果をまとめ、発信する。
193121015	1	3121	総合すみよし「北上川ウォッチング」	石巻市立住吉小学校	校長	阿部 邦英	宮城県	4学年の総合的な学習の時間に、学校の近くを流れる北上川を題材に取り上げて、水質調査、生物調査、カヌー体験などを実施する。体験したことについては、学習参観時に発表会を開催して、自分たちが学んだことを全校児童、保護者、地域の人に発信する。
193121016	1	3121	「皿貝川たんけん」(4年:総合的な学習の時間)、「北上川のうつりかわり」(4年:社会科)	石巻市立飯野川第二小学校	校長	櫻井 衆仁	宮城県	学校の脇を流れる皿貝川の水は、学区内の水田やセリの栽培のために利用されている。そこで総合的な学習の時間に、皿貝川にすむ生き物や井戸水(地下水)などを調べるとともに、源流や水源としての林の状況などを調べ、自然環境について考えさせる。また、社会科との関連で北上川の水利用や改修の歴史についても調べる。北上大堰(北上川下流河川事務所飯野川出張所)や北上川分流施設を見学するとともに、北上川(柳津～飯野川間)を開削した理由についても考えさせる。また歴史を溯り、川村孫兵衛の河川改修についても学
193121017	1	3121	新・旧北上川の調査をとおし、環境をどのように守るか考える活動	石巻市立中津山第一小学校	校長	亀掛川 孝雄	宮城県	4年生を対象に、北上川に棲息する生物などの調査や、北上川の歴史を調べる活動をとおして、ふるさとの川の自然環境を保護することの必要性を理解し、蘇らせる方法を考え、実践できるカリキュラムを開発している。今年度は、北上川と地域を関連づけられるような、調査を実践していきたい
193121018	1	3121	ふるさとの川・北上川の自然に学ぶ(体験的な活動を通して)	石巻市立鹿又小学校	校長	手代 耕司	宮城県	4年生の総合的な学習の時間で「ふるさとの川・北上川」をテーマに活動を展開する。北上川の下流の岸辺まで徒歩10分という本校の地の利を生かし1年を通じた活動を行う。川との触れ合い(カヌー、釣り、川遊び)、川に棲む生き物、川辺の動植物の観察などの体験活動を通して、ふるさとの川の豊かさ・素晴らしさに迫り、自分たちができる川を守る活動も行い、ふるさとの川への関心を高める。
193121019	1	3121	ふるさとの川・定川の自然や歴史を学ぶ	宮城県東松島市立赤井南小学校	校長	後藤 邦夫	宮城県	5年生の総合的な学習の時間で「ふるさとの川・定川ウォッチング」をテーマに活動を展開する。定川は本校の学区内を流れ児童にとっては身近な存在である。その定川の自然や歴史を体験や調査活動を通して、ふるさとの川の自然の素晴らしさや人々との関わり方に気づき、川の美しさを守る運動や、川の良さと歴史を他に知らせる活動を行う。
193121020	1	3121	「見つめよう田川の水」	宮城県加美郡加美町立賀美石小学校	校長	南部 正一郎	宮城県	平成12年度より、第4学年の総合的な学習の時間において「見つめよう田川の水」のテーマで、身近な自然「第1級河川鳴瀬川水系田川」の学習に取り組んでいる。現流体験、浄水場の見学、水質検査、堰の見学等の活動を行っている。平成17年度からは、生き物調査や下流見学、平成18年度は学校の敷地内にビオトープを整備し、活用している。器具や資料収集、講師招聘を行い、更に充実した活動にするため、助成を申請したい。
193121021	1	3121	川に親しもう	石巻市立二俣小学校	校長	高橋 晃	宮城県	本校のすぐ前を大森川が流れ、学区の東端を北上川が流れている。これらの川で遊び、釣りなどの体験活動を行い、川に親ませ、川の良さ、川の危険性とそれを回避する方法を学ぶ活動を行う。

平成19年度 新規採択一覧(22/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121022	1	3121	川と私たち(川について調べたり、観察したりしよう)	石巻市立二俣小学校	校長	高橋 晃	宮城県	本校の学区の端を北上川が流れている。また、本校のすぐ前を大森川が流れている。しかしながら川に対する関心は大人も子どももあまりない。川と私たちとの関わりに関する課題を設定し、川に親しむ体験活動や川についての調査活動をとおして、川に親しみ、川と私たちの関わりや川環境について考える活動を行う。
193121023	1	3121	ふるさとの江合川と水辺学習の楽しみ	美里町立小牛田小学校	校長	佐藤 俊晴	宮城県	総合的な学習及び生活科を中心に、北上川水系江合川牛飼水辺公園を主な学習場所として水辺に親しませ、生き物の生態や植生などに関心を持つ活動を充実させる。また、江合川漁業協同組合との連携による鮭の稚魚飼育・観察や放流、水辺の生き物の飼育・観察、美化活動や楽しい遊びなど多様な体験を与え、河川を通して人間の生活にもたらされる自然の豊かな恵みについて学習させていく
193121024	1	3121	ふるさと大川を見つめて～北上川の自然と共に～	石巻市立大川中学校	校長	上野 忠弘	宮城県	本校生徒86名を対象に、ふるさと大川を流れる北上川について、環境保全のための活動、シジミを使った料理作りや糞を素材にした制作活動などの体験的な活動を通して、北上川をはじめとするふるさとの自然の豊かさや大切さに気付かせ、進んでかかわっていかうとする思いや態度を育てる。また、学年PTAなどの機会に、体験活動の発表会を行うことで、地域や保護者の人々への啓発を行う。
193121025	1	3121	面瀬川に生息する魚を調査する活動を通して、水辺環境の在り方について考える活動	気仙沼市立面瀬小学校	校長	山崎 昭	宮城県	学校のすぐ近くを流れる面瀬川とそこに棲む魚や水棲生物を観察したり、捕獲して水槽で飼育する活動を通して、生き物にとって住みやすい環境について体験的に調査したり考える。また、他の学校との交流を通して、共通点や相違点を話し合い、より良い環境や人の環境に対する役割についての認識を深めさせていく。
193121026	1	3121	いつもそばに広瀬川～ふれてみよう・かかわろう・見つめよう～	仙台市立八本松小学校	校長	神谷 良夫	宮城県	学校のそばを広瀬川が流れている。その広瀬川をさらに身近に感じさせる活動を展開する。特に、総合的な学習では、川に入ってみる・川の生き物を見つける・水生生物調査をする・河原の植物を観察するなど、川とふれあう体験を重視している。カヌー体験・サケの稚魚の放流などの活動も継続している。今後は、活動を一層深め、記録しまとめていくことで、広瀬川の環境を見つめ直す機会を与えたいと考える。
193121027	1	3121	雄物川全校筏下り	秋田市立雄和中学校	校長	進藤 久志	秋田県	全校生徒および教職員・保護者が、6台の筏に乗り、学区内を流れる雄物川を約20km下る活動。ふるさとの自然を見つめ直し、環境保護、河川愛護の心情を養うことを目的とする。
193121028	1	3121	河川調査や親子で行う魚のつかみ取り体験活動を通して、河川を大切にしようとする意識を高める。	北秋田市立合川北小学校	校長	小松 大二郎	秋田県	本校5年生の「総合的な学習の時間」の活動として、地域を流れる阿仁川や米代川の水質・生物調査を実施して、自分たちが分かったことや考えたことをまとめ、次の学年や保護者・地域の方々へ発表する。また、全校親子レクとして児童とその保護者が一緒に地域の河川での魚のつかみ取り体験を通して、親子のふれあいを図るとともに、河川に対する理解を深め、自然環境を守ろうとする意識を高めたい。
193121029	1	3121	笹子川に親しむ活動2	由利本荘市立鳥海中学校	校長	草薨 芳哉	秋田県	笹子川の水質検査や水生生物の調査・観察や川下りなどの川に親しむ活動を通じて、河川の保護の大切さを理解するとともに河川浄化をめざす環境教育に取り組み、郷土の河川を愛する気持ちを養う。
193121030	1	3121	総合的な学習の時間における指首野川を題材にした体験活動の推進	新庄市立新庄小学校	校長	森 洋一	山形県	新庄市内の中心部を流れて、昔から、市民に親しまれてきた指首野川の環境を浄化するために、川西町から千門町までの「指首野川水辺の環境エリア」周辺の児童生徒を対象に、水質・生物調査(四季)、水辺のコンサート、ホテルの放流、カルガモを作った米作り、コスモスロード作り等の水辺の景観整備を通して、地域と連携しながら体験したことや学習したことを地域住民へ発信していく。

平成19年度 新規採択一覧(23/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121031	1	3121	小中学校における総合的な学習の時間における指首野川を題材にした体験活動の推進	新庄市立新庄中学校	校長	山川 義隆	山形県	新庄市内の中心部を流れて、昔から、市民に親しまれてきた指首野川の環境を浄化するために、川西町から千門町までの「指首野川水辺の環境エリア」周辺の生徒を対象に、水質・生物調査(四季)、水辺のコンサート、ホテルの放流、カルガモを使った米作り、コスモロード作り等の水辺の景観整備を通して、地域と連携しながら体験したことや学習したことを地域住民へ発信していく。
193121032	1	3121	豊かな感性と地域を愛する心を育てる総合的な学習	最上町立東法田小学校	校長	神谷 恒司	山形県	最上町立東法田小学校の全校児童29名が「総合的な学習の時間」に、学校の西側を流れる白川をテーマに年間を通して活動を行う。年間を通して、水質・水生生物調査を行うとともに、季節に応じて変化に富んだ活動を行っていく。また、体験したことについては、文化祭や授業参観等を利用し、発表会を開催し、自分たちの学びの成果を保護者や地域に伝えていくようにする。
193121033	1	3121	みずはの郷長井市の水環境改善の研究活動	山形県立長井工業高等学校	校長	池田 正	山形県	本校環境システム科では3年生の課題研究で「水と緑と花のまち」長井市の水環境改善の研究をはじめ今年度で5年目を迎えました。長井市内を流れる河川の水質調査を行った結果、本校前を流れる清水川が他の河川に比べ汚れていることがわかり、木炭による河川浄化を実践しました。他にも廃棄物となるカキ殻を利用した水質浄化の実験を行っています。木炭による河川浄化の実践とカキ殻の浄化効果の実験は今後も継続して取り組みます。
193121034	1	3121	わかあゆタイム(総合的な学習の時間)	戸沢村立古口小学校	校長	加藤 高志	山形県	本校のすぐそばで流れている最上川の役割、美しさ、そして自然を大切に作る心、川は身近なものであることを学ばせる。戸沢村内で実施されている河川清掃に参加したり、最上川イカダ下り体験を行ったりする。あわせて、古口小学校区内に生息する動植物調査や飼育活動を行う。
193121035	1	3121	「広瀬川にサケを戻す活動」における児童の体験活動の推進	福島県伊達市立泉原小学校	校長	三浦 彰子	福島県	本校3・4年児童を対象とした総合的な学習の時間において、広瀬川の水質・生物調査、水域の調査、サケの稚魚を育て川に戻す活動等を行う。また、摺上川ダムの見学により、ダムと自分たちの生活との関連についてもとらえさせる。そして、調査及び活動を通してのまとめを行い、その結果は学習発表会、授業参観等で地域や保護者の方に発表する。
193121036	1	3121	久慈川源流から久慈川河口までの水質	矢祭町立内川小学校	校長	原田 伸行	福島県	学校わきを流れる矢祭川も町内を流れる久慈川も、子どもたちにとっては馴染みの深い川である。これらの河川の水質調査を始めて19年度で5年目になる。昨年度は、それまでのバックテストに加えて、指標生物である水生昆虫による水質調査も行った。その結果、自分たちの住む地域を流れる川の清冽さに驚き、将来にわたって保全していこうという気持ちを膨らませている。平成19年度もこの取り組みを続け充実させたい。
193121037	1	3121	生徒が行う霞ヶ浦周辺の水質調査活動	茨城県稲敷郡美浦村立美浦中学校	校長	宮本 経之	茨城県	活動趣旨を目指すための適切な活動として、毎年継続的に取り組んでいる。生徒も意欲的に取り組み、成果を上げ、課題に残ったことを次年度も継続して取り組むことになった。生徒の実態を考慮し、次の2点を重点目的として取り上げた。①調査活動を通して、環境に関心を持ち、科学的見方・考え方ができる生徒を育てる。②霞ヶ浦の水質を変化させる要因、及び水質を悪化させる要因を取り除く方法の解明を目指す。
193121038	1	3121	五行川の自然と鮭の生態を調べる。	筑西市立下館北中学校	校長	枝川 健	茨城県	本校は、自然に恵まれた環境にある。五行川には、様々な魚等が生息している。そこで、五行川に生息している魚の種類を調べたり、毎年冬に鮭がのぼってくるので、鮭の遡上及び自然産卵の実態を調べそのデータをもとに自分の住んでいる自然を再認識させ、自然保護活動に活用したい。
193121039	1	3121	学校周辺を流れる2つの川の水質調査	坂東市立飯島小学校	校長	木村 榮孝	茨城県	総合的な学習の時間に、環境分野として、地域の環境や日本の環境問題に目を向けて調べている。学校周辺を流れる飯沼川と西仁連川の水質を調べることにより、地域の環境について考えたい。

平成19年度 新規採択一覧(24/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121040	1	3121	町田川における児童の体験活動を通して行う環境教育の推進	茨城県行方市立羽生小学校	校長	橋本 清一	茨城県	第5学年の総合的な学習の時間において、学校の近くを流れる「町田川」の水質・生物調査、観察(四季)等の体験活動を行う。また、霞ヶ浦河川事務所からの出前講座、関係機関などでの学習を通し、環境の大切さを学ばせる。学んだことについては、グループごとにまとめ、保護者や地域の方を招いての発表会において発表する。さらに、ホームページにおいて地域へも発信していく。
193121041	1	3121	源氏川物語	常陸太田市立太田小学校	校長	村田 規	茨城県	身近な地域に流れる源氏川に目を向け、川での体験活動を通して、各自がテーマを設定し、調べる・まとめる・発表することにより、問題を解決する力を育てるとともに、源氏川の環境や未来を考える態度を養う。また、これらの活動を地域の人々とのかかわりの中で行うことにより、子どもたちに地域に守られて生きる自分を認識させ、さらには地域の環境を守ることを啓発する活動にもつなげていく。
193121042	1	3121	那珂川における、川に親しみ河川浄化を目指す活動	茂木町立中川中学校	校長	古壕 秀一	栃木県	本校第2学年が、学区内を流れる那珂川及び支流の動植物等の観察や継続的な水質調査を行うとともに、全校生徒による河川敷清掃を年間2回実施することで、河川浄化を目指す環境教育に取り組む。また、廃油石けんや河川の水質汚染防止を呼びかけるチラシをつくり、地域の家庭に配布することによって、那珂川の浄化の意識を高めてもらう。
193121043	1	3121	三依小学校児童が男鹿川に学ぶ体験活動	栃木県日光市立三依小学校	校長	村上 英一	栃木県	男鹿川の支流に位置する日光市立三依小学校の児童を対象に、河川清掃活動(春)、水質、水生生物調査(夏)、川遊び体験(夏)などを実施する。学んだこと体験したことは、総合的な学習の時間の中や、保護者や地域の方々を招いて実施する「学習発表会」の際に発表する。
193121044	1	3121	渡良瀬川体験学習	群馬県邑楽郡邑楽町立高島小学校	校長	松沢 義文	群馬県	4～6年生が発達段階に応じて系統的に渡良瀬川体験学習を行う。4年生は中流域太田市で川渡り・川流れ・水生生物捕り・動植物観察など行い自然体験と季節の変遷を体験する。5年生は活動範囲を広げ上流足尾町の川と下流利根川との合流点でも活動する。さらに、6年生は上流足尾町備前楯山登山・自然復旧事業・旧松木村見学や下流渡良瀬遊水地での活動で歴史的な捉え方もする。活動をおし、川の豊かな自然と恩恵を実感する。
193121045	1	3121	小学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動(渡良瀬川を中心とした自然体験学習)	群馬県邑楽郡邑楽町立中野東小学校	校長	橋本 正男	群馬県	本校は「総合的な学習の時間」において、自然体験学習を重視し、4年から渡良瀬川を中心とした「川学習」を実施している。4年は太田市の中流域で、川渡り、川流れ、魚捕り、野鳥観察等を行う。5年は上流～下流で川の様子の違いを調べ、課題追求を中心とした活動を行う。6年は上流～下流で渡良瀬川を中心とした自然体験学習を総合的にまとめ、川と人との関わりを学習する。それらの活動から、思いやりのある豊かな心を育てる。
193121046	1	3121	総合的な学習「桐生川・黒川の環境」を通じて、川と人とのつながりを学ぶ活動	桐生市立菱小学校	校長	柴崎 隆夫	群馬県	5年生の総合的な学習「桐生川・黒川の環境」を通じて、桐生川とその支流(黒川)の自然環境と保全、ときに災害をもたらす洪水に対する備えを学び、川と人、川と地域とのつながりの大切さを、子どもたち自身が自ら感じ取り、それらに対し実際に何が出来るかを話し合い、行動することを学習のねらいとしている。そして、学習の成果を、環境学習発表会等を通じて、地域に発信する。
193121047	1	3121	大学と連携した環境教育の推進	本庄市立藤田小学校	校長	田村 純夫	埼玉県	早稲田大学と連携して、校区内を流れる元小山川(国土交通省・清流ルネサンスⅡの対象河川)の魚類・水質調査を計画的・継続的に実施し、本校の環境教育のカリキュラムを充実する。また校内に「川の水族館」を設置し、児童が採取した魚類を継続的に飼育・観察できるようにする。
193121048	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	羽生市立村君小学校	校長	関根 幸世	埼玉県	すぐ北に「利根川」を望む本校では、昨年、利根川上流河川学習連絡会中流ブロックワーキングの実践校として、総合的な学習の時間を中心に「川流れ体験」「Eポート体験」「川の安全講座」「植物・生物調査」などを実施し、学習したことを、地域に学校を開放した時発表した。その結果、本校教員はもちろんのこと保護者や地域の方々の理解が得られ、地元の川に対する関心が高まりつつある。そこで、次年度も引き続き実施したい。

平成19年度 新規採択一覧(25/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121049	1	3121	埼玉県さいたま市立馬宮東小学校	さいたま市立馬宮東小学校	校長	鈴木 薫	埼玉県	自分たちの生活にとって欠かせない水について関心を持ち、主体的に追究しようとする態度を育てることをねらいとする。そのために自己課題を解決するため、荒川べりの観察、植物の成長と水との関連、荒川の生き物調査を行い、川の役割やたくさんの方がさまざまな用途に使われていることを理解できるようにする。さらに調べたことを友達や家族、地域の方々に発達し、自分がこれから何をしたいのかを考えられるようにする。
193121050	1	3121	『みんなで自然を守り隊』(水を守ろう大作戦)	千葉県流山市立長崎小学校	校長		千葉県	本校の近くには水辺公園があり、それは坂川に続いている。坂川は、かつて日本一汚い川であった。そのため身近に川がありながら、子どもたちには「遠い川」である。その坂川を中心に総合的な学習に取り組みたい。「どんな川なのか」水質検査や水生生物調査などで調べる。坂川の歴史、川をきれいにするための人々の努力などにも学びたい。そして、川をきれいにするために、自分たちでできることも考えていきたい。
193121051	1	3121	多摩川における「川に学び、遊び、奉仕する活動」	大田区立嶺町小学校	校長	須賀 伸子	東京都	学校と隣接する多摩川及び多摩川河川敷を利用した活動は、6年目となる。子どもたちは多摩川を含めた自然に対し、自然の大切さを知り、自然をいつまでも残していきたいと思う意識が高まりつつある。さらにこの活動を続けることによって、子どもたちの環境保全に対する意識をより高め、子どもとしてできる積極的な実践力を培っていく。
193121052	1	3121	4・5年生の船上学習(荒川をフィールドとした環境教育の推進)	東京都北区立岩淵小学校	校長	長谷川 一恵	東京都	バスや電車を乗り継いで学習では荒川のポイント観察に留まってしまうが、船上学習は荒川流域を線として辿ることができるので、堤防や河川敷の変化を継続的に観察できる。さらに、隅田川ルート・荒川ルートを隔年で実施し、荒川の「川」としての自然や利用状況・流域の様子を実体験できる。環境モラルの更なる醸成が期待できる。4・5年生という大人数の移動学習において、乗り換え回数が少ないことは児童の安全確保になる。
193121053	1	3121	「ひと・もの・環境とのふれあい、そして思いやり」(荒川をフィールドとした環境教育の推進)	東京都北区立岩淵小学校	校長	長谷川 一恵	東京都	1年生～6年生の児童を対象に「ひと・もの・環境とのふれあい、そして思いやり」を研究主題とし、荒川をフィールドとする環境教育を実施。荒川知水資料館や荒川下流河川事務所との連携を図るとともに、講師を招聘して研究授業を実施、児童一人一人の環境モラル醸成を行い、自ら環境保全ができる児童を育成している。現時点では実践例があまりない環境教育(環境モラル)の評価基準を設定・検証し、研究の普遍化を図る。
193121054	1	3121	6年生・荒川の上流学習(荒川をフィールドとした環境教育の推進)	東京都北区立岩淵小学校	校長	長谷川 一恵	東京都	6年生が毎年実施する荒川上流学習は、4・5年生時の体験と重ねて荒川的全流域を体験することとなる。バス利用のメリットは、①見学ルート・場所を指定でき、効率的な学習ができる。安全性も高い。②時間短縮ができる。(岩淵の町から児童が電車と現地バスでの乗り継いで移動することは時間が読めないとともに、安全確保に問題がある。)この学習成果を近隣の学校に届け、地域をはじめとする環境保全の情報発信をする。
193121055	1	3121	サケ放流を通して、荒川への愛着心を育てる。	足立区立鹿浜西小学校	校長	古高 利男	東京都	・2年国語「サケが大きくなるまで」の発展学習として、サケを育て荒川へ放流する。そうして、サケ・川・人のつながりを深めさせ、自然愛護の心を育てる。・5年理科「流れる水のはたらき」の発展学習として、荒川河川敷の動植物の調査・美化活動をすすめ、河川愛護心を育てる。
193121056	1	3121	多摩川における「多摩川探検隊Ⅰ・Ⅱ」	大田区立中萩中小学校	校長	須賀 伸子	東京都	学校の近くを流れる多摩川及び多摩川河川敷を利用した活動は、今年で7年目となる。多摩川を題材に学習することで、子どもたちは身の回りの自然に目を向け、自然を大切にしようとする意識を高めることができている。さらにこの活動を続けることによって、子どもたちの環境を守る意識をより高め、自分たちでできることを実践していく態度を育てていくことができると考えている。
193121057	1	3121	稲城市立稲城第六小学校	稲城市立稲城第六小学校	校長	那須 弘明	東京都	本校は、身近に多摩川と大丸用水が流れている。第1学年から第3学年までは生活科や総合学習で大丸用水を学習している。第4学年の総合的な学習の時間で多摩川学習を進め、多摩川の上・中・下流域の自然観察や多摩川を利用してきた人々の姿を通して、人間と自然のあり方や歴史的な変化を知り、地域の自然や人々に親しむことを大きなねらいとして、教育課程を実施している。

平成19年度 新規採択一覧(26/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121058	1	3121	「ふるさと侍従川」となかよしになる生活科学学習の推進	横浜市立大道小学校	校長	齋藤 有紀雄	神奈川県	大道小学校の児童を対象とし「じじゅう川となかよし」をテーマに掲げ、低学年の頃から「川」に十分親しみがもてるように生活科学学習の単元化を進めている。川の清掃の他に、生き物の採集・飼育や、川辺の植物を使った楽器作りなど、川を愛する地域の人々と児童が交流をしながら自然に親しむ活動を進めることで、川や川をとりまく地域の人々が大好きな児童を育成を図っていく。
193121059	1	3121	私たちのくらしと笛吹川	山梨市立加納岩小学校	校長	小笠原 浩	山梨県	私たちの生活に密接に関わりのある笛吹川を素材として、水質や生息する生物について調べる活動を通して、身近な環境問題をとらえる。また、水の確保や浄化、さらに治水や伝承などにも目を向け、笛吹川と自分たちの生活との関わりについて総合的に考える機会とした。
193121060	1	3121	地域の河川の観察・調査を通し、環境問題や水防について考える活動	山梨市立日川小学校	校長	雨宮 正文	山梨県	総合的な学習の時間の中で、環境学習の一環として地域を流れる日川・重川の自然や環境について学び、川や水の大切さを知ると共に、美しい環境を守っていくという態度を育てる。
193121061	1	3121	大武川の自然を中心とした総合的な学習の推進	北杜市立武川小学校	校長	岡部 和子	山梨県	本校の子ども達には大変身近な大武川及びその周辺の自然(地形地質、植生、水生生物他)を教材として、現地に出かけ、実体験を通じた学習及び学習指導や方法の工夫を図ることで、より主体的、意欲的に課題に取り組む児童の育成と河川を中心とした自然保護活動を推進する総合的な学習の展開を図る。また、地域の方々に講師をお願いしたり、学校の情報発信を図ることで、より地域に開かれた、信頼される学校づくりの推進を図る。
193121062	1	3121	総合的な学習の時間「矢出沢川をホタルがたくさん飛ぶ川にしたい」河川環境学習の推進	上田市立清明小学校	校長	廣川 岩男	長野県	本校は、長野県では市街地に位置し、豊かな自然とすぐ触れる機会が少ない。かつて生活排水により矢出沢川は汚れ、自然が失われた川辺環境はいまだに蘇ってはいない。矢出沢川において、ホタルのすめる環境に視点を当てながら水質・生物調査を実施する。生物のつながりや河川改修工事の意義を学びとり、建設事務所や市役所、地域の方たちと協力して自然環境保護活動に取り組む。
193121063	1	3121	小学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	新潟県糸魚川市立大野小学校	校長	佐藤 剛	新潟県	総合的な学習の時間における河川(姫川、地域を流れる川)を題材とした学習を継続して進めている。5年生の総合学習に位置付け、姫川の源流を探る学習から川の歴史、形状、安全に暮らせる工夫、利水等々、関係機関や地域の方々に講師に学習を進めている。姫川について知り、地域の川について知り、人々の思いや願いを調べていく。そして、学んだことを地域の方々や全校児童に発信していく。
193121064	1	3121	「下条川にサケを呼ぼう」を合言葉に、サケのそ上復活を願った稚魚の飼育と放流	射水市立金山小学校	校長	矢後 雅幸	富山県	「下条川にサケを呼ぼう」と子どもたちが庄川沿岸漁業協同組合よりサケの受精卵を頂き、ふ化させて稚魚を飼育する。そして、大きくなった稚魚を近くの下条川に放流する。サケの飼育観察・放流を体験することにより、地域を取り巻く環境や自然の仕組みについて理解を深め、ふるさと金山を愛する心を育てる。また、サケの飼育活動を通じて、生命の尊さや自然と人間の関わりについて考え、命を大切にすることを育てる。
193121065	1	3121	動橋川は友だち	加賀市立東谷口小学校	校長	竹本 利夫	石川県	東谷口地区を縦断して流れている動橋川を学習材とし、地域に残っている伝統漁法や川遊びなど、川と人のつながりを知り深める体験活動や川の自然環境の変化を水生生物で調べる環境学習を通して、豊かな自然に触れ体験し、感動する心を育てる。
193121066	1	3121	総合的な学習の時間における魚を活用した河川環境調査活動	関市立武芸川中学校	校長	伊縫 正克	岐阜県	本校では今までに、河川敷等における地域奉仕清掃活動等を行ってきた。しかし、これらの活動は単独で位置づけ、生徒の環境保全に対する意識は低いのが現状である。生徒の環境保全に対する心情を今以上に育成するため、総合的な指導ができる「環境学習」を新たに位置づけ、生徒にとって身近な「魚類」を指標生物にした環境調査活動を実施しようと考えた。活動の成果は、地域清掃や環境フェアの場で啓発を行う。

平成19年度 新規採択一覧(27/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121067	1	3121	落合川の環境調査	中津川市立落合中学校	校長	河合 孝明	岐阜県	学校の隣を流れる落合川について、水質調査・水生生物調査・生活排水調査、落合川流域の清掃作業を行う。調査、体験した内容については、発表会を行い情報発信をすると共に、環境を守るための提言をまとめ、提案していく。と同時に、それらの内容を学校のホームページに掲載し、世界中にも情報発信していく。
193121068	1	3121	藁科川の自然に親しみ、そのよさに気づき、その環境を守る活動	静岡市立中藁科小学校	校長	岩崎 敏宏	静岡県	地域を流れる藁科川に関わる様々な活動(手作りいかだ体験、水質・生物調査、源流調査など)を通して、藁科川の自然に親しみ、そのよさや大切さ、現状に気づく。さらに、体験や調査したことを学校で発表会(あゆみ発表会)を開催し、自分たちが学んだことを地域に発信する。そして、ふるさとの河川の環境を守るための方策を地域と共に考え、美しいふるさとの川「藁科川」を守り、それを後輩や地域にも伝える。
193121069	1	3121	丸子川に親しみ、川のよさや大切さに気づき、ふるさとの川を守っていく活動	静岡市立長田西小学校	校長	竹内 敏速	静岡県	学区を流れる丸子川で、河口まで歩いて川が移り変わる様子を観察したり・生息する動植物について理解を深めたり・川の環境について科学的な視点からとらえたりする。また川に詳しい方を講師として招き、自分たちだけでは解決できない疑問についても追究する。こうした活動を通して、丸子川に親しみをもち、そのよさや大切さに気づく。さらに河川の現状を見つめ、自分たちができることは何かを考え、実行に移していく。
193121070	1	3121	安倍川は、私たちの遊び、学び、働く場所だ！～しずな学習「総合的な学習の時間」をとおして～	静岡市立賤機中小学校	校長	森 初枝	静岡県	全校児童を対象に、安倍川の豊かな自然環境に視点をあて、地域と地域、産業と産業、さらには自然と社会生活とのかかわりを学ぶ。また、清流とかかわるアマゴの受精・飼育・放流等の活動、自然観察会、環境美化活動等を小学生が地域住民とともに実践する。「水辺の遊び」をテーマに体験活動を通して、川について興味関心をもたせていきたい。調査したことや体験したことを地域住民に発表し、地域とともに安倍川の環境を守っていく。
193121071	1	3121	安倍川とその流域を対象とした横断的・総合的な学習	静岡市立駒形小学校	校長	丸山 栄	静岡県	安倍川とその流域の動植物の生態、安倍川とその流域の水質・水生生物の生態等の環境、安倍川とその流域の歴史・産業、地域の人々の業績を対象にした、個人や小集団の課題に沿った調査・研究活動などの横断的・総合的な学習の時間で学習を実施する。
193121072	1	3121	安倍川の砂防を考える	静岡県立静岡農業高等学校	校長	芳川 孝	静岡県	生徒が安倍川上流大谷崩で砂防体験学習(山腹工)を行う。具体的には、大谷崩の山腹に自生樹木であるヤシヤブシの苗木(2年生)を再生紙鉢を用いて植栽し(年間100本)、安倍川の土石流防止に貢献する。また、授業には静岡大学や国土交通省の職員を講師として招き、砂防工学や金山跡地について学ぶ。学校祭では、生徒が講師となり、来場者に再生紙鉢を作成する体験学習を実施し、河川の水災害防止の意義を伝える。
193121073	1	3121	佐鳴湖の環境について考えよう	浜松市立入野小学校	校長	池谷 耕治	静岡県	学区にある、日本一汚れていると言われている佐鳴湖について、総合的な学習の時間を通して、環境に対する追求学習を行う。学習では、子どもたちが、水質、ごみ、生物を中心に現状を調査したり、水質浄化への対策や施設を見学したりする。
193121074	1	3121	小学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	島田市立川根小学校	校長	鈴木 重治	静岡県	川根小学校の総合的な学習の時間において、町内を流れる大井川についての学習を展開する。学習の拠点を、川根町の大井川右岸、家山(駿遠橋から下流、家山川付近まで)と設定する。また、学習グループを1、大井川の石・砂・土調査、2、大井川の水質・流路調査、3、大井川の生き物調査の3グループに分け大井川で実地の調査学習を行う。調査結果を写真やグラフでまとめ、校内に掲示するとともに、町内行事等で紹介していく。
193121075	1	3121	降水量等の気象条件が市街地の小河川の水位に与える影響	静岡県立静岡中央高等学校	校長	深澤 秀明	静岡県	本校では今までに静岡市内を流れる安倍川や巴川を題材に調べ学習を行い、その成果を校内外に公表して来た。調べ学習を行ううち、市街地を流れる小河川の水位が降雨等の気象条件により大きく変化することに生徒達は気づいた。水害防止のためにも、降水量と水位の関係調べ、その結果を公表していくことは意義あることであると考えた。

平成19年度 新規採択一覧(28/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121076	1	3121	「逢妻川」を教材とした体験的な学習の推進＝逢妻川敷探検隊＝	刈谷市立亀城小学校	校長	塚崎 千歳	愛知県	総合的な学習の時間の教材として学校のすぐ近くを流れる逢妻川を取り上げ、子供たちの体験活動を中心とした「逢妻川調査隊」を結成する。四季を通じて自然の調査を行うとともに、逢妻川と人々の結びつきに目を向けさせ、郷土を愛する心を育てる。さらに、逢妻川の環境保全に対する意識を高め、実践への第一歩を踏み出す。
193121077	1	3121	野鳥の棲める鹿乗川づくり	岡崎市立矢作中学校	校長	尾崎 芳信	愛知県	学区を流れる鹿乗川はここ数年きれいになってきているがゴミが多い。周辺にはまだまだ田畑が多く、野鳥が多く飛来する。そこで「郷土を愛する心を育てつつ、少しでも多くの野鳥が棲めるような川にする」ために、3年ほど前から周辺の小学校や地域の方と一緒に「鹿乗川清掃活動」を実施している。また、野鳥の種類や数についても週1回調査を続けている。
193121078	1	3121	ふるさとに学び、豊かな心を育てる総合学習	豊田市立東広瀬小学校	校長	杉浦 一道	愛知県	本校では「めざせ広瀬の川博士」として、校区を流れる6本の矢作川本支流の水質調査や水生生物調査を継続して行っている。全校児童で校区の矢作川の河原や周辺の清掃活動「クリーン作戦」を行っている。また、4年生児童は、アクリルたわし、廃油ろうそくなどを作り、河川浄化を訴えるチラシとともに地区の家庭に配布したり、地区自治会の環境部会で自分たちの環境保護活動を発表したりして、積極的な啓発活動を行っている。
193121079	1	3121	アマゴのはねる巴川づくり	愛知県新城市立協和小学校	校長	杉浦 徹	愛知県	学校の南を流れる巴川に関する学習活動を全学年で展開することで、河川環境への関心を深めると共に、ふるさとの清流を守り育てようとする意欲を高めたい。特に、総合的な学習の時間等を活用したアマゴの養殖(栽培)と放流や水生生物の調査を中心的な活動とする。また、地域と一体化した河川環境保全活動を発展させたい。
193121080	1	3121	4年2組総合的な学習「自然に親しみ、自ら学ぶ子の育成～ふるさとの川の声を聞こう～」	西尾市立米津小学校	校長	鴨下 和子	愛知県	4年総合的な学習「自然に親しみ、自ら学ぶ子の育成～ふるさとの川の声を聞こう～」のテーマのもと、矢作川の環境と生き物について学習する。また、朝鮮川にも出かけ、同じふるさとの川として、水質調査なども行っていく。川ウォッチング、水質パトロール、川探検などの活動を構想し、実践する。人とのかわりとして、親子講演会を開いたり、地域の人と川クリーン作戦を行う。
193121081	1	3121	4年1組総合的な学習「ふるさとの川“朝鮮川”とかかわり、自分の思いをもって、進んで追究できる子の育成」～大好き！朝鮮川とどけぼらのメッセージ～	西尾市立米津小学校	校長	鴨下 和子	愛知県	4年総合的な学習「ふるさとの川“朝鮮川”とかかわり、自分の思いをもって、進んで追究できる子の育成」のテーマのもと、朝鮮川の環境と生き物について学習する。また、矢作川にも出かけ、同じふるさとの川として、水質調査なども行っていく。川ウォッチング、水質パトロール、川探検などの活動を構想し、実践する。人とのかわりとして、親子講演会を開いたり、地域の人と川クリーン作戦を行う。
193121082	1	3121	4年総合学習「生きる環境」～緒川のふるさとの川をきれいにしよう～	東浦町立緒川小学校	校長	宮島 年夫	愛知県	小学校4年生児童を対象に、総合学習「環境」の中で、校区の河川の水質・生物調査、水質改善の体験に取り組みに環境教育を実施する。具体的には、河川での調査活動、EM(有用微生物群)を使ったヘドロ軽減作戦やゴミ拾い、知多半島の水生生物を守ろうの活動に取り組む。体験したことは、総合の発表会を開催し、学んだことを学校全体・保護者・地域の方々に発信する。
193121083	1	3121	矢作川における、川に親しみ、川の生態系を守り、美化や地域とのふれあいを考える活動	岡崎市立大門小学校	校長	野本 欽也	愛知県	川と親しみ、生き物の自然の営みや価値にふれ、美しい川を思いやる豊かな心を育てる子供の活動から、学区住民の関心が高まり、矢作川をモデルとしたビオトープを寄贈していただき、学習に生かすことができるようになった。こうした矢作川の自然環境を生かした活動の成果をより深め、地域と一体となった人文的な環境教育に取り組む。
193121084	1	3121	「聞いて城下町の水の声」における総合学習	西尾市立西尾小学校	校長	富田 晃	愛知県	「聞いて城下町の水の声」と題し、西尾小学校のビオトープ、校区の二の沢川、みどり川の水辺の環境を調べ、よりよい水環境にしていく取り組みをする。水質・生物調査、生き物の住み家づくり、バタフライガーデンづくりなどを実施し、自分たちの調べたことを地域の人々に発信する。また虫、チョウ、植物などの生物に精通してみえる講師さんに出前授業をしてもらうことにより、活動に幅を持たせる。

平成19年度 新規採択一覧(29/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121085	1	3121	総合的な学習「みんなの豊川～流域はひとつ～」における子どもたちの川に学ぶ追究活動の推進と3校合同報告交流会における交流事業の推進	豊橋市立大村小学校	校長	尾崎 安貞	愛知県	総合的な学習「みんなの豊川～流域はひとつ～」において、牛川の渡船乗船、水生生物調査、水質調査を実施する。その結果をもとに、設楽町立清嶺小学校、新城市立舟着小学校、豊橋市立大村小学校の3校で、3校合同報告交流会を複数回開催し、調査結果や自分たちの取り組みを報告するとともに、上流から下流までのさまざまな体験活動(水生生物・水質調査、三河湾の浄化、下水処理場、森林学習)を推進する。
193121086	1	3121	八田平川を蛍の舞う川に取り戻そう	豊橋市立天伯小学校	校長	中神 正篤	愛知県	高学年を中心に「八田平川を考える会」とペア学年である2年生親子が一緒になって生き物観察会を兼ねて、「八田平川クリーン作戦」を行い、水生生物、水質指標による水質調査やバックテスト「COD」による水質検査を行う。その結果で、八田平川の汚れ状況をチェックしチラシ等で家庭や地域に発信する。EMを使用するなど共に自然の美しさを取り戻すための水質浄化活動に参加してもらい、川の自然や生物環境を守る学習を進める。
193121088	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	熊野市立飛鳥小学校	校長	田垣内 始	三重県	総合的な学習の時間を中心として、学校のすぐ側を流れる大又川(熊野川の最上流に当たる)の水質、周辺の動植物、地域の暮らし等、自然や生活について調べを進めるとともに、魚釣りや川遊びを通して大又川を中心とした環境問題に関心を持たせ、生活排水の汚染状況に気づき、汚れを少なくすることや、川遊びを通して大又川の美しさを実感し、ふるさとを大切にすることを育む。また、学習結果を地域に発信していく。
193121089	1	3121	リバーフレンド(4年生総合的な学習の時間)	大津市立藤尾小学校	校長	谷口 昌樹	滋賀県	地域を流れる「藤尾川」「四宮川」の生物や環境を、専門家のアドバイスも受けながら、一年間を通して調査し、発表をする活動をする。その中で、河川に対する見方を養い、自らの生活を見直して、河川や自然を愛し、守ろうとする心を育てる。
193121090	1	3121	総合学科での総合学習「暮らしと環境」における杣川環境学習	滋賀県立甲南高等学校	校長	雲 義明	滋賀県	総合学科への改編のなかで、「暮らしと環境」という総合学習を計画しており、その中で、地域を流れる杣川での環境調査を実施する。この中では、地域に流れる杣川について、水質だけでなく、河川環境全般に焦点を当て、植生や河岸の状況、生物の調査などを総合的に行う。そのなかで河川への関心を喚起し、そこにある環境を自分たちと繋げて考えられるようにしたい。
193121091	1	3121	八幡川および琵琶湖に関するフィールドワーク活動	滋賀県立八幡工業高等学校	校長	草野 圭司	滋賀県	八幡工業高等学校環境化学科2、3年生を対象に、八幡川および琵琶湖(長命寺港付近)のフィールドワーク学習を実施する。学校近くの河川の水質測定や観察を体験することにより、環境への知識や理解を深め、人と自然との関係やつながりを学習する。また、自分たちが得たデータを地域へ発信する。
193121092	1	3121	瀬田川における環境学習	滋賀県立瀬田工業高等学校	校長	高橋 義之	滋賀県	瀬田川近くにある瀬田工業高校化学工業科で、河川環境の保全、琵琶湖固有種生物の生育環境の確保を学ぶために、「瀬田川における環境学習」を実施する。内容としては、琵琶湖や瀬田川の固有種である、イケチョウガイやセタジミの学習、瀬田川周辺のゴミ拾い等を通して環境教育に取り組む。
193121093	1	3121	高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	滋賀県立甲南高等学校	校長	雲 義明	滋賀県	総合学科1年全員、農林技術科2、3年作物専攻生の「総合的な学習の時間」において、環境への負荷を0にする不耕起移植栽培を行う。この栽培方法では、田植え前の代かきによる濁水の河川への流出をさせない。雑草繁茂を防ぐため、冬季に湛水をし、そのままの状態ですべて1年生全員が水田に入り、田植え実習を行う。農薬・化学肥料は一切使用せず、水田が自然の濾過装置となり、きれいに濾過した水を河川に供給する。
193121094	1	3121	大同川復活大作戦「温故知新プロジェクト」	五個荘中学校科学部(東近江市立五個荘中学校)	校長	辰巳 三喜雄	滋賀県	五個荘中学校科学部では、平成17年度より「大同川復活大作戦」をテーマとして、校区を流れる大同川の調査や清掃活動を行っている。その中から「昔の大同川はどのような様子だったのだろうか?」という疑問が湧き上がった。そこで、「温故知新プロジェクト」と題して、昔の大同川の情報を地域の方から集めることとした。調査した結果は刊行物としてまとめ、河川を守り育てることの大切さを校内や地域に広く訴えたいと考えている。

平成19年度 新規採択一覧(30/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121095	1	3121	総合的な学習「水」	京都市立修学院小学校	校長	伊藤 喜昌	京都府	4年生の総合的な学習の時間に校区やその周辺を流れる河川について調べ、自然の水のすばらしさや環境問題について自らの考えをもち、学習したことを学校の内外に訴えたり、実践活動を行ったりする。
193121096	1	3121	水質に対する川の働きとダムの影響についての観察と調査	京都府立桃山高等学校	教諭		京都府	桃山高校の生徒(参加希望者)を対象に、琵琶湖から宇治川を下りながら、川の観察および河川の持つ浄化能力を調べるためのCOD調査・pH調査・清流度調査・水生生物観察を実施する。特に、宇治川における天ヶ瀬ダムの持つダムでの浄化作用に着目したい。調査結果については、学会や研究コンクールに報告していく。また、地域の、河川保護の団体とも協力しながら、河川保護にもつとめたい。
193121097	1	3121	ふるさとの川山科川をみつめて	京都市立池田小学校	校長	山崎 浩二	京都府	来年度も「ふるさとの川山科川をみつめて」というテーマで5年生を中心に総合的な学習の時間の取組を進める。山科川周辺の自然環境、ゴミの問題に着目して調査活動をし、例年11～12月に児童が主体となってクリーン集会を実施しているが、地域住民の方々にも訴え、中学校とも連携してクリーンキャンペーンにつなげている。総合的な学習の時間の活動が、地域を巻き込んだクリーンキャンペーンの活性化につながっている。
193121098	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	堺市立神石小学校	校長	永井 潔	大阪府	6年生は、他学年と協力して、校区を流れる石津川を中心とし環境教育の取組みを継続・発展させる。ヨシ原再生や環境美化活動に取組むだけでなく、大阪府土木事務所など関係機関との協力のもと、より子どもが主体の活動ができることをめざしている。6年生では、特に取組みの成果を校外に広げ大人を巻き込んだ活動へと広げる役目を果たすことを目的とする。また、メールやテレビ会議を通して他校との交流も図る。
193121099	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	堺市立神石小学校	校長	森東 勇	大阪府	5年生は、他学年と協力して、校区を流れる石津川を中心とし環境教育の取組みを継続・発展させる。単に環境美化活動に取組むだけでなく、水質調査・水生生物の観察・ヨシ原再生等の活動を大阪府土木事務所など関係機関との協力のもと推進する。5年生では、子ども主導の活動を進め、取組みの成果を校内に広げる役目を果たすことを目的とする。また、学習発表会等を通して保護者にも啓発していく。
193121100	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	堺市立神石小学校	校長	森東 勇	大阪府	4年生は、他学年と協力して、校区を流れる石津川を中心とし環境教育の取組みを継続・発展させる。単に環境美化活動に取組むだけでなく、水質調査・水生生物の観察・ヨシ原再生等の活動を大阪府土木事務所など関係機関との協力のもと推進する。4年生では、特に「環境への理解を深める」「環境を大切にすることを育成する」「主体的に行動する態度を育成する」ことを目的とし、これらの活動を行う。
193121101	1	3121	古川と水郷、農業生活文化の記録	門真市立第七中学校	校長	麻谷 清光	大阪府	淀川の派流である古川は、古事記等に記録がある河川で、流域に広大な水郷耕作地を有していました。現在は本校の周辺にその面影を残すだけとなりました。しかし、幹線道路建設や宅地化で農地は減少し水郷文化は急速に消えようとしています。総合的な学習とクラブ活動をとおして古川の水質や水郷生活の様子を地域の聞き取りを中心に映像等で残す環境学習を試みます。
193121102	1	3121	加古川何でも探検隊	小野市立市場小学校	校長	増山 裕	兵庫県	校区を流れる加古川について、本校5年生が学習を進めている。上流の水源付近での湧水取りから学習をはじめ、川を下るにつれが汚れていく原因を水質検査や浮遊ゴミ等の調査で明らかにしたい。また、2004年には、校区の河川の堤防が壊れ、浸水被害も経験している。水害を防ぐ工夫も調査し、関係機関と連携を取り、河川環境を水質、生物、防災等の多面的角度から捉えさせたい。そして、地域にも河川環境保全の啓発を行う。
193121103	1	3121	山田川自然愛護プロジェクト	小野市立市場小学校	校長	増山 裕	兵庫県	市場小学校の横を流れる山田川で生物観察や魚取り、水遊び、水質検査・生物調査等を実施する。また、地域住民や関係諸団体と連携し、クリーン活動(年2～3回)やデイキャンプ(夏休み)、山田川沿いでふれあいマラソン大会(冬)実施するとともに広報紙や公民館等で活動の様子を発表し、地域住民の環境保全への啓発も行う。

平成19年度 新規採択一覧(31/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121104	1	3121	「川は我々をどう育てるか?～生物調査編～」	奈良県立御所工業高等学校(平成19年度より奈良県立御所実業高等学校)	校長	加藤 佳行	奈良県	奈良県は海に面していないため、川は生活と非常に密着している。川という存在はどのようなものなのか?川から何を学ぶことができるのか?を学校や保護者、地域の人たちから知っていただき、環境保全も含めて発信できればと考えている。そのためにも、水辺に住む生物のことを調査することから始めたい。そして考察や工夫を加え、「美しい川にするために」を合言葉に、実践へと発展できればと考えている。
193121105	1	3121	熊野川の不思議発見(水質調査と自然体験)	新宮市立王子小学校	校長	田中 信秀	和歌山県	私たちの学校は、熊野灘に面した熊野川の最も下流に位置する学校です。子ども達に環境教育として熊野川上流と下流の水質検査を体験させたり、また、地域在住の専門家の方に来ていただき、水生昆虫などの説明を聞かせてあげたいと考えています。同時に川の楽しさを味わわせるための川遊び(魚とり・カヌーなど)を体験させ、自然環境を大切に、自然と共存する心を、子ども達に学ばせたいと思います。
193121106	1	3121	熊野川(高田川)と触れ合い学ぶ～体験・環境学習活動～	新宮市立高田小学校	校長	南 武	和歌山県	自分達の身近な高田川で総合的な学習の時間等で水生昆虫の調査・魚類調査・水質調査や保護者と共に川遊び・魚釣り大会を、また、本流の熊野川の川下り体験、さらに、川の利用(利水・水運・漁労等)や水害など川と人々の暮らしについての学習会などを実施する。下流の小学校との交流学習も実施する。これらの活動を通じて体験し学んだことは、学習発表会を開催し、保護者や地域の方々にも発信する。
193121107	1	3121	地域学習から環境学習『もっと知りたい、見つけたい、わたしたちの川(三栖川)』	田辺市立三栖小学校	校長	田嶋 義則	和歌山県	本校では、総合的な学習の時間(4学年)とクラブ活動(「理科」)において、環境教育に取り組んでいます。ここでの研究の中心は、地域河川の野外研究です。その特徴は、異校種間の連携による合同水質調査プロジェクト、水生昆虫の生息調査ならびにホテルの生態調査です。地域の環境から地球規模の環境学習へ、子どもたちの視野を広げることが目標です。
193121108	1	3121	日高川と人々の関わりを学ぶことから、学習への意欲・関心を高め、地域環境の理解を深める	和歌山県田辺市立中山路小学校3・4年生	校長	寒川 清	和歌山県	本校の位置する日高川上流域龍神村柳瀬地区は、近くに関西電力柳瀬取水ダム・同発電所、昭和初期までの筏流しの難所であった「捨皮の滝」を有し、子どもたちにとって絶好の学習の場である。本字業は、「川と人々」をテーマに5・6年生が、時代とともに変遷してきた日高川の歴史や、人々との関わりを学習し、成果を地域に発信することにより、学習への意欲・関心ならびに地域環境への課題意識を高めることを目的に実施する。
193121109	1	3121	日高川のすばらしさを体験することから環境美化への意欲を高める。	和歌山県田辺市立中山路小学校5・6年生	校長	寒川 清	和歌山県	本校3・4年生の児童を対象に、「私たちの日高川」をテーマに川で遊び、川を学ぶことから、自然のすばらしさ、楽しさを体験する。また川への愛護活動(日高川漁業協同組合と連携しての稚魚放流活動等)や、美化活動(河川清掃活動、環境美化啓発活動等)を通して、川づくりや環境美化に積極的に参加する意欲を育てるとともに、自然との共生の大切さに気付く目を養う。
193121110	1	3121	砂田川や周辺河川に親しみ砂田川や川のおよさを広める活動	鳥取市立津ノ井小学校	校長	田中 精夫	鳥取県	平成18年度に引き続き、4年生の総合的な学習の時間に砂田川の流速や水質調査、水性生物調査を行い、砂田川の特徴を把握すると共に、砂田川や周辺の河川について関心を持ち、環境を大切にしようとする実践的態度を養う。具体的な活動としては、砂田川の清掃活動や定期的な水質検査、水生生物調査を行う。また、調査の成果や感想をまとめて、砂田川や川のおよさとして広く保護者や地域に知らせ環境保全についての意識を拡大する。
193121111	1	3121	大池・洞ノ川流域における米作り学習を通して川の役割を学ぶ	鳥取市立津ノ井小学校	校長	田中 精夫	鳥取県	5年生の総合的な学習の時間に大池・洞ノ川流域の米作りについて体験的に調べる。実際に水田を借りて、米作りをしながら米作りと水との関係を総合的に把握する。水の取り入れ方法、水の管理方法、清掃の様子など水の管理について調べ、苗植え、田植え、草取り、稲刈り、ハゼかけ、脱穀などの体験を通じて、人々と水との関係を理解する。さらに、水田耕作者から美味しい米作りの工夫や努力、米の歴史や文化を聞き人と川との関係を学ぶ
193121112	1	3121	津ノ井の「津」と「井」を探求し、河川の働きと人々の暮らしとの関わりを調べる活動	鳥取市立津ノ井小学校	校長	田中 精夫	鳥取県	4・5・6年生のクラブ活動の時間に津ノ井の名前にある「津」と「井」の意味を調べる。この学習活動は、河川と人々の暮らしに密接な関係があることを理解するものである。津ノ井地区を含む鳥取平野は、長年月にわたる千代川の堆積作用により形成された。津ノ井や鳥取平野における港や水場に因む「津」の地名の分布状況を現地でも調べたり、井戸の分布状況を調べたりして、津ノ井や鳥取平野の形成を調べ津ノ井の環境のよさを啓発する

平成19年度 新規採択一覧(32/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121113	1	3121	成実の自然を守ろうー成実加茂川探検隊ー(第4学年総合的な学習)	米子市立成実小学校	校長	達磨 晋	鳥取県	本校の4年生の児童を対象に、「成実の自然を守ろうー成実加茂川探検隊ー」をテーマとして、総合的な学習の時間に、川についてのお話(ゲストティーチャーによる講演)、加茂川の水について(水質調査)、加茂川の生き物について(水生生物調査)、川のつながりについて(源流調査)などを実施する。その後、学んだことを、ホームページに掲示し、地域の方々に発信する。
193121114	1	3121	「岸本小学校」における総合的な学習の時間、理科、生活科における河川を題材とした活動の推進	伯耆町立岸本小学校	校長	中尾 慶治郎	鳥取県	岸本小学校の児童を対象に、近くを流れる日野川を題材とし、「総合的な学習の時間」「理科」「生活科」を中心とし、日野川や周辺の動植物の調査学習、日野川の水質調査、全体的な環境調査学習、川辺でできる水遊びの体験学習等を実施し、日野川の素晴らしさ、自然環境を守ることの大切さを学ばせる。
193121115	1	3121	カジカちゃんの家・猪目川を守ろう	出雲市立鱒淵小学校猪目分校	校長	角 美幸	島根県	昭和62年以来、カジカガエルの観察、オタマジャクシの飼育、子ガエルの放流、カジカガエルを題材にした研究活動など継続して行っており、平成19年度で21年目を迎える。児童数はわずかだが、ふるさと猪目の環境を守ろうと皆で真剣に取り組んできた。今年度は、永年の取り組みをまとめた研究冊子やホームページ等で、活動の様子や子どもたちの思いを発信していきたいと考えている。
193121116	1	3121	唐川川流域周辺環境保全活動	出雲市立鱒淵小学校	校長	角 美幸	島根県	サケが帰る川の環境を考え、清掃活動や水質検査をしたり、サケの遡上の観察やサケの人工授精・飼育・観察・放流活動に取り組んでいる。平成19年度もこれらの活動をいっそう充実させ、川から川を取り巻く環境に目を向けた活動に発展させていきたいと考えている。また、これまでと同様に活動で得たことを地域に発信したり地域とともに活動したりすることにより、地域を巻き込んだ唐川川流域周辺環境保全活動に取り組んでいきたい。
193121117	1	3121	江の川探検活動No. 3	江津市立桜江小学校	校長	服部 哲郎	島根県	総合的な学習の時間に身近な川(江の川・八戸川)を題材とした活動をする。内容としては、川に親しむ、下流から上流までの生き物を知る、きれいな川にする取り組みを考える、川漁師さんなど川とともに生きておられる人々の生活を知る、などが考えられる。調べたことをまとめ校内や地域に発表し川のことを知らせるとともに、全校で江の川について知る。
193121118	1	3121	馬木っ子ふるさと環境探偵団	島根県仁多郡奥出雲町立馬木小学校	校長	福田 充雄	島根県	エコクラブ「馬木っ子ふるさと環境探偵団」は、平成16年に結成し、地域の河川・森林を活動拠点とし、ホタル生息調査・ホタル観察活動・飼育ホタル活動・樹木観察会・年間河川水質調査・雪遊び活動等、地域の自然を味わい楽しむ活動を実施してきている。学校教育と課外における学習との連携を図ることで、児童が地域の豊かな水や緑の自然環境に触れる機会の充実に寄与できるよう活動を展開している。
193121119	1	3121	大馬木川・砂田川を楽しみたい！Ⅱ	島根県仁多郡奥出雲町立馬木小学校	校長	福田 充雄	島根県	低・中学年の環境学習の場である大馬木川や砂田川等における川に入って遊ぶ活動や、児童が課題を見つけ追究する学習を中心に活動を展開する。また、コギ(イワナ)の飼育を継続したり、季節ごとの河川の自然の変化について五感を通して学んだりしながら、児童の環境保全意識を高め、高学年に向けた河川浄化運動への意欲づけとしたい。また、活動結果を地域へ情報発信し、地域住民の河川環境に対する意識を高める契機とする。
193121120	1	3121	発見！探検！高津川2007	島根県益田市立吉田小学校5年生	校長	村上 伸悟	島根県	本校校区に高津川の河口がある。この高津川はダム無しの1級河川として知られており、高津川の恵みを流域住民が古くから受けている。本校児童5年生を対象に、水質・生物調査、川遊び、流域調査、水源探検、植林活動などを実施する。ホームページ、益田圏域の発表会等で体験したことや調査したことの発信を行い、ふるさとに流れる高津川や環境を守ることの大切さを広げる。
193121121	1	3121	新田川わくわく水辺公園での自然体験学習及び環境学習	出雲市立上津小学校	校長	菅原 純子	島根県	平成18年度、児童が地域の川、新田川で様々な活動を展開し、地域の川に親しむようにとといった願いをこめて、「新田川わくわく水辺公園」が学校の前に造られた。この公園及び地域を流れている本流の1級河川斐伊川を有効に活用し、自然のすばらしさや、環境保全の大切さを学んでいく活動や学習を展開していく。また、地域の人々と共に活動していくことで、児童と地域のつながりを深めていく。

平成19年度 新規採択一覧(33/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121122	1	3121	総合的な学習の時間「久野川について調べよう」	雲南市立久野小学校	校長	松林 晴二	島根県	身近な地域の久野川や水辺の楽校について生き物や水質を調べることを通して親しみ、現状を理解し、大切に維持していこうとする意欲や態度を育てる。また、久野川の源流や支流をたどることにより、他地域との交流も経験させることができる。
193121123	1	3121	「川を知り、川を考え、川を守る軽部っ子の育成」～砂川・吉井川流域における「子ども川博士」の育成～	赤磐市立軽部小学校	校長	長島 孝子	岡山県	昨年度、助成金をいただき、高学年の総合的な学習の中心テーマとして、「川」を取り上げ、水質や水生動物の調査・川遊びやいかだやスノーケルやネイチャーゲームなどの自然体験活動を行い、川に対する意識が変わり、初めてのクリーン作戦の実施など川を守るという意識が育ってきた。今年度も引き続き、「川」を中心とした活動を行い、昨年の成果に加え、川の恵みとそれを活用してきた先人の知恵なども学習させたい。
193121124	1	3121	オオサンショウウオの生息する志路原川を中心とした環境保全活動	広島県山県郡北広島町立豊平東小学校	校長	高杉 千賀子	広島県	NHK総合テレビ「地球ふしぎ大自然」～巨体になって生き残り～という番組(平成17年5月2日放送)で、1年かけて取材された志路原川のオオサンショウウオのようすが放送されました。また、平成18年には、イギリスのBBC放送の取材もありました。この国の特別天然記念物「オオサンショウウオ」の生息する志路原川やその支流河川における環境を守るための環境教育を実施する。(水質・生物調査、環境保全のための啓発等)
193121125	1	3121	水内川流域の自然調べ1学年	広島市立湯来中学校	校長	宇根 正一	広島県	本校では、総合的な学習の時間のテーマとして「自然界の循環型社会形成」のしくみを調べる学習を進めている。水内川流域の自然調べを中心に、水内川の水質検査と大気の検査(定点観測4年目)や水内川の生き物調査(写真で記録)や水内川の水を顕微鏡で見る(食物プランクトンを探す)。そして、水内川のアユが何故おいしいのか等、小論文としてまとめデータを蓄積し10月に地域へ発表を行う。
193121126	1	3121	水内川流域の自然調べ2学年	広島市立湯来中学校	校長	宇根 正一	広島県	本校では、総合的な学習の時間のテーマとして「自然界の循環型社会形成」のしくみを調べる学習を進めている。水内川流域の自然調べを中心に、水内川の水質検査と大気の検査(定点観測4年目)や水性昆虫の種類と数は前年と比較(写真で記録)や水内川の食物連鎖を徹底調査。そして、水内川のアユが何故おいしいのか等、小論文としてまとめデータを蓄積し10月に地域へ発表を行う。
193121127	1	3121	水内川流域の自然調べ3学年	広島市立湯来中学校	校長	宇根 正一	広島県	本校では、総合的な学習の時間のテーマとして「自然界の循環型社会形成」のしくみを調べる学習を進めている。水内川流域の自然調べを中心に、水内川の水質検査と大気の検査(定点観測4年目)や水内川の自然浄化作用研究や水内川の生物化学的酸素要求量をAからAAIに格上げする方法研究。そして、水内川のアユが何故おいしいのか等、小論文としてまとめデータを蓄積し10月に地域へ発表を行う。
193121128	1	3121	美波羅川における総合的な学習を中心とした児童の体験学習の推進	三次市立田幸小学校	校長	田村 富夫	広島県	美波羅川及びその周辺の支流を対象に、水質、及び生物調査、とりわけホテルの生息に関する調査を行い、地域ボランティアの方々と、竹炭による水質浄化活動を行う。また、校区に在住の舟大工と川漁師のご指導による川舟乗船体験や伝統川漁体験を行う。そして、体験の中から学んだことをまとめて発表し、地域の方々に発信する。
193121129	1	3121	総合的な学習の時間における可愛川を題材にした体験活動	安芸高田市立可愛小学校	校長		広島県	本校4年生は川を題材にした総合的な学習に取り組んでいる。鮎の放流やカヌーの川くだりなどを通して川と親しむとともに、課題を持って水生生物調査や調べ活動・川での探検活動を行う。調べたことやわかったことを地域や保護者に伝え、地元へ流れる川をみんなで守っていこうと啓発していく活動を通して、川への愛着を深めていく。その活動の中で総合的な学習で身につけたい力を育てていくことをねらいとしている。
193121130	1	3121	中学校の総合的な時間における河川を題材とした活動	福山市立城西中学校	校長	久保 義和	広島県	本校は福山市に流れる芦田川沿いに立地している中学校である。例年1年生の総合的な学習の時間において、地域調べを行っている。数年芦田川について調べ、まとめ発表している。そこで、本年度はさらに具体化し、芦田川の歴史・地形・水質・生物を調べるとともに、芦田川の現状調査も取り入れ、学んだことを校内や地域へ発信する。

平成19年度 新規採択一覧(34/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121131	1	3121	小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	府中市立国府小学校	校長	和田 純子	広島県	本校は芦田川やその支流である砂川に隣接しており、地域では枕崎台風の洪水被害が語り継がれている。児童は地域の人から聞き取りをして、水害の恐ろしさを知ると共に、そこから立ち上がり、現在のように町を発展させてきた人々の努力と工夫を学習している。また、公民館では砂川クリーンクラブが組織され、水生生物の調査、清掃活動などが展開されている。19年度は、地域、公民館活動との連携をさらに深めた環境学習を実施する。
193121132	1	3121	清流「錦川」の豊かな自然環境を生かし、体験活動を通じて本校の校訓「創造・不撓・和敬」の深化を図る学習活動	山口県立広瀬高等学校	校長	光田 伸幸	山口県	1年生を対象に、本校の正門前を流れる清流錦川を活用して、「川をきれいに(清掃活動と下水処理場見学7月)」、「カヌー体験(9月)」を実施する。体験を通じ、清流を守る地域の人たちの熱い思いを感じ取り、豊かな清流を満喫する。それぞれの体験を連携させ、本校の校訓「創造・不撓・和敬」の深化を図り、「清流の郷」に学ぶ若者の姿を地域に向けて発信したい。
193121133	1	3121	「吉野川子ども水辺」における子ども達の川に学ぶ体験活動の推進	三好市立井川中学校	校長	浦土井 哲文	徳島県	井川中学校1年生を対象に、吉野川から、川の水質や川に住む生き物、川の流れる速さや川の怖さ、また川の四季折々の姿を学び、体験させることにより、川の自然や生物・環境を守る気持ちを育てる。
193121134	1	3121	「祖谷川水辺の楽校」を中心とした川に学ぶ体験活動	三好市立柘之瀬小学校	校長	吉岡 弘恵	徳島県	「祖谷川水辺の楽校」を中心とした祖谷川・谷道川を対象として、川流れ体験、川の横断体験、溪流釣り体験、などの身近な川に学び、楽しさを感じる体験講座、地域の洪水・治水などの河川学習、水質・水生生物調査、クリーン作戦などの環境学習などを実施する。自分たちが体験したことを柘之瀬小学校の文化祭で報告し、学んだことやこれからの生活に生かすことなどを地域の方々に発信をする。
193121135	1	3121	生活科、総合的な学習の時間における桑野川流域の自然と人に学ぶ体験活動	阿南市立山口小学校	校長	今川 進	徳島県	低学年では、地域における「ホタルの里作り事業」について調べ、カワナナの飼育をしたり、水辺での体験活動を繰り返し、自然の素晴らしさを体感させたりする。中学年では、桑野川流域アドプト活動のサポート組織の活動を調べたり、交流を深めたりして学んだことを地域に発信させる。高学年では、桑野川でのカヌー体験をさせる。
193121136	1	3121	地域の川に親しみ、川に学び、川の未来を考えるー金倉川・西汐入川とともにー	丸亀市立城坤小学校	校長	香川 隆博	香川県	校区を流れる金倉川と西汐入川について、そこにすむ指標生物やCODテスト等による水質調査を行い、川の汚れについて関心を深める。また、昔の川の様子を地域のお年寄りからお聞きし、川の汚れの原因を探る中で、現代の生活排水やごみの遺棄の問題について考えていきたい。そして現在の川の汚れについての調査結果や、未来に向けて美しい川を残すための方策について、全校生や家庭、地域に向けて発信していきたいと考える。
193121137	1	3121	わたしたちの美しい土器川を守り隊！(総合的な学習「垂水学習4年生」)	丸亀市立垂水小学校	校長	安藤 好春	香川県	4年生の総合的な学習の時間において、香川県唯一の一級河川「土器川」及びその流域の自然や文化、人々のくらしと水との関係を調べることを通して、郷土の自然や産業に対する関心を高め、美しい環境を守ろうとする心や態度を養う。また、上流域の人々から学んだり、河川敷公園の環境美化活動を共に行うなど、家庭・地域と一体となった環境教育を実践すると共に、流域の学校と交流して、環境美化の意識を高める。
193121138	1	3121	土器川における、川に親しみ、環境問題を考える活動V	丸亀市立城辰小学校エコクラブ	校長	安藤 好春	香川県	4年生の子エコクラブ88名が、土器川の調査や、川や水に関する施設の見学、有識者からの聞き取り調査等の体験活動を通して、土器川の自然や環境、今と昔の違いなどの実態を知り、なぜ川が汚染されていくのか考える。そして、私たちの町の川の環境改善のために自分たちにできることを考えていく。さらに、分かったことをまとも、全校にクリーン活動を呼びかけたり、全校や地域に発信する方法を考えたりして広めていく。
193121139	1	3121	川となかよくなろう	松山市立さくら小学校	校長	西山 コズエ	愛媛県	環境に視点を当てた総合的な学習を進める中で、重信川の水生生物調査や水質検査などの体験的な活動を行う。その際に、松山河川国道事務所やゲストティーチャーの助言・協力を得ながら、上流と下流の両方を調査して、結果を比較・検証することで、身近な環境問題への関心を高める。

平成19年度 新規採択一覧(35/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121140	1	3121	「頓田川」における環境学習活動と河川愛護活動の推進	愛媛県立今治東中等教育学校	校長	坂井 良至	愛媛県	中等2年生159名を対象に、本校近くに流れる「頓田川」において、川の水質や水生生物の調査(年4回、春・夏・秋・冬)、地域の有識者による環境についての学習会(春・秋)、清掃奉仕活動(夏)を実施する。また、活動したことについては、参観日や文化祭等(秋)で報告し、全校生徒や地域の方々に発信する。
193121141	1	3121	地域の川「中筋川」から学ぶ	四万十市立中筋小学校	校長	池田 昇一	高知県	本校は「中筋川」「横瀬川」「山田川」という3つの河川に隣接している。過去には、河川が氾濫し、水との戦いを繰り返したという歴史がある。この河川について、環境教育や地域の人々の願い、河川改良等について、総合学習で学習し、児童の河川に対する意識を高めたい。また、学習内容については学校ホームページを通して公開啓発したい。
193121142	1	3121	「四万十探検隊」川の水質、生き物調べ、また、川からの贈り物(産業)について体験活動を通し水の循環について考える。	高知県四万十市立下田小学校	校長	田邊 誠郎	高知県	学校のすぐ近くに四万十川河口があり、この川の環境学習に取り組む。校区内に川に関わる仕事をしている方もおり、地域と関わりながら一年間学習に取り組んでいきたい。水質、生物調査、川漁師の仕事青のりの養殖と収穫、河川敷の清掃等体験活動を通し水の循環について考えていきたい。学習のまとめは、地域の方にも案内を出し発表の場を設定し、広く情報発信していきたい。
193121143	1	3121	新荘川清流を守る事業	須崎市立上分小中学校	校長	鍋島 智	高知県	校区の清流新荘川の清掃活動を小中学校の児童生徒が縦割り班を作り、異学年集団で地域・保護者と一緒に活動するとともに、水生昆虫の観察や水遊び・水泳などの水に親しむ活動を実施。また、当日清流を守るためのスローガンやシュプレヒコールを実施したり、文化祭や総合学習などの発表の場を通じて、環境保全の大切さを子どもたちから広く地域住民に向けて発信する。
193121144	1	3121	母なる川「四万十川」から学ぶ	四万十市立具同小学校	校長	川島 出也	高知県	本校に隣接している「四万十川」は、最後の清流として全国的に脚光を浴びているが、過去には「暴れ川」と異名をとるなど、地域の人々の生活に様々な影響を与えてきた歴史がある。そこで、この河川を地域文化と捉え、人々の暮らしや自然、環境、河川改修等について総合的な学習の時間の中で学習や体験を深め、児童の河川に対する意識を高めたい。また、学習内容については、学校のホームページを通じて公開し、啓発にも努めたい。
193121145	1	3121	大切にしよう物部川	香美市立楠目小学校	校長	原 豊之	高知県	物部川とその流域、および高知県内の他の河川での体験活動を通して、川や流域の自然に親しむとともに、環境を守るために自分たちができることを考え実践する。保護者や地域の方々との連携を大切にし、学年PTA行事等を行うことで、川と子ども・保護者を近づけたい。学習したことを発表する機会を作り、協力していただいた方や保護者・地域の方にも参加いただき学習したことを報告し、川から学んだことを伝えていきたい。
193121146	1	3121	四万十川源流にすむ魚類と水生昆虫の生活を知らう	高知県高岡郡津野町立中央小学校	校長	吉岡 健一	高知県	四万十川源流域の森と川のあるべきすがたを流域の子どもたちに伝えていくために、魚類や水生昆虫、水辺の植物などの観察を行うとともに、それらの生息・生育環境の復元作業(ウグイスの産卵床づくりなど)を通して、川の時空間的な多様性とそのダイナミックな動きとそれに対応した生き物の暮らしぶりを学ぶ、特に川の生物の立場にたつて自然を見ることができるよう一年間を通した環境学習プログラムを作成して実施していく。
193121147	1	3121	「奥田川かがやきの水辺」における児童による稀少植物及び水生生物の保護と観察等の体験活動の推進	いの町立伊野南小学校	校長	岡 則明	高知県	校区を流れる奥田川には、絶滅が危惧されている2種類の稀少生物や様々な水生生物が生息している。河川改修に伴い、児童が水生生物や植物に親しむ環境「かがやきの水辺」を造る計画が進んでおり、第3学年の総合的な学習の時間の取り組みとして、講師を招聘して奥田川の水生生物を調査したり、学校施設内のビオトープを整備し、稀少生物や水生生物を移して保護と観察等の学習に取り組む。
193121148	1	3121	中元寺川の水質検査と成育するプランクトンに関する研究	福岡県立西田川高等学校	校長	亀田 俊隆	福岡県	中元寺川の水質検査を定期的実施して、家庭排水の河川の流水に及ぼす影響を調査する。加えて、越流堰に成育するプランクトンについて調査研究を行い、環境教育を推進する。

平成19年度 新規採択一覧(36/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121149	1	3121	「須恵川」の河川公園を題材とした「環境」に関する学習の推進ー第1学年選択理科の時間を通してー	福岡市立箱崎清松中学校	校長	横山 雅志	福岡県	本校、第1学年の生徒を対象に、「多々良川」及び「須恵川」の水質・生物等を調べる活動を実施する。身近な河川の調査を通して、都市における河川の役割を知り、地域の環境や本校横に整備された河川公園の活用について考える学習活動を展開する。学習のまとめとして環境調査パンフレットづくりを行い、そのパンフレットをもとに地域で開催される発表会に参加し、学習の成果を地域に発信する。
193121150	1	3121	「未来に残そう美しい雷山川」における子どもたちの川に学ぶ体験活動の推進	前原市立雷山小学校	校長	吉岡 高巳	福岡県	校区内を流れる雷山川について、楽しく遊んだことを想起し、雷山川の上流・中流・下流を見学させる。雷山川見学で興味・関心を持った水のきれいさと生き物や植物について、必要な情報を収集したり、「雷山川を守る会」や「泉ハマボウの会」の方に会わせたりする。活動の中で環境が悪化していることに気付かせ、自分たちの生活や環境を守るために、自分たちが出来ることを考えると共に、地域に広げ実践する力を育成する。
193121151	1	3121	水田と水質の関係を視点とした、地域に根ざした科学クラブの活動の展開	宮若市立若宮中学校	教諭	北崎 洋子	福岡県	遠賀川水系犬鳴川の水質と生活環境の関連について、主として科学クラブの活動として調査等を実施する。その際、農政部である地域性を考慮し、水田の水利利用と水質に与える影響を視点として、水環境と生活とのかわりに迫る。そのことで、科学クラブの活動が地域密着型で展開できる活動例を示す。
193121152	1	3121	プロジェクトWETを用いた水環境教育の展開	宮若市立若宮中学校	教諭	北崎 洋子	福岡県	犬鳴川上流域に位置する若宮中学校の生徒達を対象に、自然環境と生活との関わりを、水を切り口とした環境教育によって意識させることを目的としている。小学校時代に経験した生物学的水質調査をベースに、化学的指標による水質調査を行い定量的な把握をさせる。その上で、プロジェクトWETのアクティビティを活用することで、総合的に水環境に関する理解を促す。
193121153	1	3121	「キックオフ！ぼくら、水の調査隊」における子ども達の川に学ぶ体験活動の推進	佐賀市立若楠小学校	校長	松尾 雅則	佐賀県	「キックオフ！ぼくら、水の調査隊」総合学習の時間を中心に水質調査、生物調査、河川経路調査、水道局見学、学校周辺河川清掃などを実施する。学習参観やフリー参観デーなどを多くの方が来校される機会をとらえ、調査活動については気づきや身につけた知識を発表し、活動については感じたことや身につけた技能を披露する。これらの活動を通し、身近な河川の環境保全について情報を発信し啓発を行う。
193121154	1	3121	大野川水系の河川環境調査とともに推進する玉来川の河川浄化活動	産山村立山鹿小学校	校長	佐藤 増夫	熊本県	本校は来年度4月から、隣接する小学校と統合し新校舎に移転、産山小学校として新たなスタートを切る。これまで本校で実践してきた大野川水系を利用した河川環境調査は、調査を行い上流に住む者として何が大切かを考え、村民に広く河川環境保全を呼びかけていく活動が中心であった。しかし産山小学校では河川環境調査をもとに、川掃除など自分たちでできる具体的な河川浄化活動を考え、地域と一体となり取り組む活動である。
193121155	1	3121	岩原川における、川に親しみ、河川浄化をめざす活動	山鹿市立米野岳小学校	校長	田中 豊志	熊本県	校区内を流れる岩原川(菊池川の支流)の上・中・下流域ごとに河川調査(水質調査や水生生物調査等)を行う。そして、調査結果をまとめていく中で、岩原川流域に住むものとして何が大切かを考え、実際に河川浄化の活動を実践する。また、その活動内容を学習発表会で、他学年や保護者、地域の方々に向け、プレゼンや劇化を通して報告していく。その他に、広報誌等に掲載し、校区民、市民に広く河川の環境保全を呼びかけていく。
193121156	1	3121	私たちの水辺・岩野川の自然を守り育てる児童の育成活動	山鹿市立岳間小学校	校長	富田 幸誠	熊本県	校区を流れる岩野川は、私たちの水辺です。春にはわんぱく田と不耕起田に水を取り入れ、稲作栽培が始まります。夏には、水性生物の調査、と自然のプールとしての活用、秋には水質調査、冬には用水路の探検を行いながら私たちが育ててくれている川の様子を水を通して調べていきます。今後は、岩野川の自然を取り戻す為の浄化活動とそこに住む昆虫などの生き物調査もこれまでの活動と合わせて行いたいと思います。
193121157	1	3121	本庄川において川と親しみ「水」に対する関心を高める活動	国富町立森永小学校	校長	押川 幸博	宮崎県	身近な水や川に目を向けさせ、つりや河原で遊ぶ活動や、浄水場などの施設を見学したり自分たちで調べたりする活動を通して、生物にとっての「水」について知り、環境への興味・関心を高めさせることを平成18年度に取り組んだ。学習した児童は「水」の有り難さを実感し、望ましい変容が見られた。平成19年度もその活動を支える資金を助成して頂きたい。

平成19年度 新規採択一覧(37/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121158	1	3121	川内川における川に親しみ、河川浄化を目指す活動	えびの市立飯野小学校	校長	萩原 和範	宮崎県	えびの市の川内川の汚染状況を調べたり、水生生物について調べたりする活動を通して自然を大切に、ふるさとを愛する心を育成したいと考えている。また、川内川フェスタという名称で、発表の場を設定し、保護者や地域の方々に啓発していきたいと考えている。そういった活動のために助成金を活用したい。
193121159	1	3121	郡田川護岸の環境整備活動	霧島市立国分中央高等学校	校長	田中 一郎	鹿児島県	本校園芸工学科の3クラスの生徒で郡田川護岸の環境整備を行う。その過程で環境整備や景観の維持の大切さを理解させ、自然と人間、河川と農業のつながりを教科学習の一環として学習していく。また、地域住民の散歩道ともなっており、生徒が地域に貢献する意義をつかみ取るよう促す。また、季節の花々を植栽することによって命の大切さや命を育む態度を身につける。
193121160	1	3121	串良川源流探検隊	垂水市立垂水小学校	校長	田邊 三郎	鹿児島県	5年生児童3クラス約90名及びその保護者約10名と教師が、高隅山系を流れる串良川源流の沢の中を約3時間掛けて溯り、沢に住む生き物や環境を観察・探検したりしながら、串良川の源流について学ぶ学習活動である。総合的学習の時間で、オリエンテーション、課題作り、上記の体験活動、課題について調べる学習、発表会等で構成する。川の源流を知ることにより、環境教育をさらに深めていく。
193121161	1	3121	身近な環境(天願川)から学ぶ、自然環境の大切さ	うるま市立天願小学校	校長	大石 英助	沖縄県	天願川との触れ合いや調査を通して、水質やそこに住む生物について知る事により、地元の自然への愛着を深める。また、地域の人材を活用し、昔と現在の天願川の変化について知り、河川を含む自然環境が私たちの生活に与える効果を理解するとともに、豊かな生活のために自然環境を守っていく態度を育成する。
193121162	1	3121	第6学年総合学習「命あふれる西通川にしたい」	遊佐町立西遊佐小学校	校長	佐藤 光子	山形県	学校の近くを流れる西通川で川遊びをしたり、生き物の調査をしたり、地域の人たちと一緒に泥上げ作業をしたりする中で自ら課題を見つけ、その解決に向けて取り組み、その成果や課題を地域に発信していく活動に取り組む。例年「西通川で、もつとくさんの生き物が育てほしい」という、先輩たちからつながる子供たちの願いの実現に取り組んでいる。
193121163	1	3121	『吹戸川を守ろう』を合い言葉にした環境学習と地域との連携	刈谷市立東刈谷小学校	校長	井野 宏和	愛知県	吹戸川を守るを合い言葉に、4年生の総合的な学習を中心に、地域を流れる河川との触れ合い体験、水質・生物調査、清掃活動やEM菌の散布などを行う。また、EM菌づくりや保護活動などでは地域の環境保護団体や市にも協力をお願いし、子供たちと地域とで環境保全活動を行う。さらに、活動の発表会や児童の活動を示す掲示を行い、保護者や地域全体に吹戸川の環境保全の大切さを発信をする。
193121164	1	3121	校区の川を通して、環境美化や環境保全にかかわり、自然を守ろうとする態度を育てる。	堺市立上野芝小学校	校長	谷和 廣明	大阪府	本校は17・18年度環境教育実践モデル事業校(文科省)として、自分たちの身近な自然環境である校区を流れる「百済川」を通して環境教育に取り組んできた。「百済川」の環境保全や環境美化について関心をもつようになった。地域への発信もするなかで、保護者・地域の人たちも、子どもたちがやっているのだからという意識もでてきた。そのため、本事業を継続させ、さらに発展させていきたい。
193121165	1	3121	水源の森林学習～吉井川下流域の小学校との交流学習～	岡山県立勝間田高等学校グリーン環境科	校長	真木 茂	岡山県	岡山県立勝間田高等学校グリーン環境科演習林は岡山県津山市加茂町倉見に位置する。標高は600mから1197mで、黒木ダムの上流に位置し、中国山地の分水嶺であり吉井川の水源地である。平成18年度には下流の和気町立山田小学校の児童が学校の前を流れる吉井川の源流について学習するために訪れ、高校生と交流学習を行っている。この交流学習をさらに充実させるため本事業を活用したい。
193121166	1	3121	学級チャレンジ「天竜川を中心とした学びの発展」	箕輪町立箕輪中学校	校長	北原 秀樹	長野県	総合的な学習の時間において、天竜川を学習の中心に据え、自然環境・産業・歴史などの分野で、天竜川と箕輪町や上伊那地域との関わり、またそこに携わる人々とふれあい、調査体験活動とおして自分の価値観や視野を広げるとともに、河川の役割や今後の河川のあり方について理解を深めていく。

平成19年度 新規採択一覧(38/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193121167	1	3121	標津町薫別川の川探検	標津町立薫別小中学校	校長	須郷 聡	北海道	総合的な学習の時間を用いて、薫別小中学校の児童・生徒を対象として、鮭の受精卵の孵化、稚魚の育成、放流、あるいは薫別川の水質や生物の調査等を実施する。また、これら研究内容を標津町教育委員会主催の研究発表大会で発表し環境保護について訴え、学校祭で地域に向けても発信する。
193121168	1	3121	多目的遊水池(総合治水対策事業)周辺からの環境(自然・エネルギー)教育に取り組む学校	さいたま市立春野小学校	校長	野口 一夫	埼玉県	本校の地域には、多目的遊水池事業制度が全国で最初に採択された「総合治水対策事業」としての「深作遊水池」がある。ここにはカワセミ等の野鳥、昆虫や魚類、低湿地の植物が安住できるビオトープが存在する。しかし近年釣り人が増え、またゴミの投棄により環境問題がクローズアップされた。野鳥観察会、河川・池の水質、小動物の生息調査とともに、様々な環境問題を総合的に考え、その成果を全国に向けて発信・啓発していく。
193121087	1	3121	「総合的な学習の時間」における「アマゴ」に関する総合的な研究—人工授精から放流に至る活動を通しての総合的な環境教育—	静岡市立大河内中学校	校長	市川 重男	静岡県	本校では、2002年度より「総合的な学習の時間」を開始するに当たり、従来より伝統として行ってきた勤労生産活動(茶の栽培、山葵の栽培、アマゴの育成)を授業の一貫として位置付け、本格的な研究として取り組んできた。特にアマゴの育成は、人工授精から放流までを一つのサイクルとして行っているが、その活動を通して川と人々とのかかわりを関係者とする格好の材料となっている。しかし、年々生徒数が減少する中で活動の維持は
193131001	1	3131	天竜川流域における青少年防災・安全ボランティア推進活動	泰阜村自然体験活動推進協議会	会長	松島 貞治	長野県	天竜川流域の住民、特に子ども、高校生、大学生などの青年を対象に、防災意識の意識啓発を目的に河川防災に関する各種ボランティア講習会を開く。また、河川防災・安全教育及び河川環境教育イベントに高校生がボランティア参加するための交通費を補助し、ボランティアに参加しやすい環境を整備する。
193141001	1	3141	水害に対する弱点を発見し住民の備えを向上するための「地域防災力診断シート」の開発	特定非営利活動法人レスキューストックヤード	代表理事	栗田 暢之	愛知県	地域において水害に対する備えを講じるためには、適切な専門家が知識を提供すると共に、生活する住民自らが地域において水害に対し脆弱な箇所や災害時に生じる障害がどこにあるかといった弱点を事前に「診断」し、双方の知識を統合することが有効である。そのため本活動では、ワークショップ等を通じた診断結果の共有までを想定したアンケート調査である水害版の「地域防災力診断シート」を開発、実践しながら質の向上を図る。
193141002	1	3141	防災教育チャレンジプラン	防災教育チャレンジプラン実行委員会	委員長	林 春男	京都府	水害をはじめとした災害に立ち向かうには、国民一人一人の防災意識や地域コミュニティの防災力を高め、生命、身体、財産を守るための具体的な行動を社会全体で実践する「国民運動」を展開することが重要である。そこで、全国各地の防災教育に意欲を持つ団体が実践した防災教育プランをもとにして、教材の開発・作成、情報ネットワーク等の連携体制の構築など、より充実した防災教育の取り組みを進め、防災・減災教育の普及を図る。
193141003	1	3141	平成18年鹿児島県北部豪雨災害における川内川流域(薩摩川内市住民)の避難実態調査と防災意識啓発活動の推進	特定非営利活動法人NPO九州エコグリーンヘルパー	理事長	箱川 政己	鹿児島県	鹿児島県北部豪雨災害を機に、川内川流域最大の都市薩摩川内市住民を対象に地区コミュニティと連携し県北部豪雨災害時の避難実態アンケート調査・回収・分析を実施する。さらに、環境専門家や防災専門家による研修会を地区コミュニティを中心に開催する。アンケート調査結果は、住民に公表し行政と協働で検証を行い防災対策の充実を図る。又、研修会を通して住民が、災害時に安全に避難出来るように、防災意識の啓発を推進する。
193151001	1	3151	第7回水資源に関するシンポジウム	水資源に関するシンポジウム委員会	委員長	青山 俊樹	埼玉県	水資源に関しては、近年の気候変動に伴う安定性の低下や異常渇水及び大規模震災等への危機対策、また環境面における機能や役割、さらには世界の水問題という側面についても考えていかなければならない。本事業はこのような背景の下、平成19年8月3～4日、都内(東京都大会議場)において、今後の水問題を考える、をテーマに「第7回水資源に関するシンポジウム」を開催し、水に関する普及啓発活動を行うものである。
193151002	1	3151	水力発電所に係わるデータベースの構築と情報の啓発	社団法人電力土木技術協会	会長	高木 宏明	東京都	水力発電は、河川水を利用するわが国にとって貴重な国産のエネルギーであり、エネルギーセキュリティの上からも有効に利用する必要がある。今回、全国の水力発電所の施設、河川利用状況、環境保全等に関するデータ、資料を悉皆的に収集して「水力発電データベース」を作成し、これを関係者に広く開示して、貴重な河川水の有効利用、密接に係る河川管理、周辺環境保全等に資するとともに、国民一般への啓発を図るものである。

平成19年度 新規採択一覧(39/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193151003	1	3151	河川等の水環境保全のための指標・目標に関するシンポジウム	社団法人産業と環境の会	会長	関澤 秀哲	東京都	閉鎖性海域では、河川からの流入汚濁負荷量の低減と環境基準達成率の間に乖離が生じていること等から、水環境全般を評価できる指標等の必要性が強く提唱されています。そのため、水環境保全との係わりの深い方々を招へいするとともに、水利用の合理化等の産業界における取り組みへの理解の促進を図るため、シンポジウムを開催し、健全な水循環の確保に向けた河川等の指標・目標のあり方について意見交換、情報発信を行います。
193151004	1	3151	水とのふれあいフォトコンテスト	水の週間実行委員会	会長	青山 俊樹	東京都	「水とのふれあい」を基本としたテーマの写真作品を対象とし、水の週間行事の一環として実施するフォトコンテストである。また、入賞作品は「水の展示会」会場で展示し、併せて入賞作品を集めて作成した写真集を配布する。
193151005	1	3151	河川環境と調和した小水力発電推進のための普及啓発事業	全国小水力利用推進協議会	会長	愛知 和男	東京都	地球温暖化防止やエネルギーセキュリティ確保に役立つ小水力発電について、河川流量の維持など河川環境とも調和を図りながら普及を進めるため、一般的な理解を高めるとともに、事業化に向けた普及啓発を進める。とくに農業用水を利用した発電は全国的にポテンシャルが高いので事例紹介や現地見学などに重点をおく。具体的事業としては、シンポジウム・見学会等(東京・地方)の開催と、パンフレット等の作成配布を行う。
193151006	1	3151	アジア・太平洋水サミットにおけるシンポジウム	社団法人日本下水道協会	理事長	安中 徳二	東京都	河川利用の合理化、高度化、水と産業との係わりを一層促進するためには、これに適う河川水質の確保が重要である。本年12月にアジア・太平洋水サミットが開催されるがこの場で、アジア・太平洋諸国のメガシティに対し、下水道整備により河川の水質向上をもたらした日本及び先進国の経験を伝えることにより、河川、下水道が相俟って水質源の確保と統合的水質源管理を行うことの重要性を国内外にアピールする。
193151007	1	3151	アジア・太平洋水サミットに連動した造水シンポジウムの開催およびサミットへの参加	財団法人造水促進センター	理事長	藤村 宏幸	東京都	今回開催するシンポジウムを2007年12月に開催されるアジア・太平洋水サミットの関連イベントとして登録し、学識経験者等からなる委員会を設置して、シンポジウムの内容、講演者、テーマ等の検討を行い、海外からの専門家を講師として招聘し、2007年11月下旬にシンポジウムを開催する。その結果を2007年12月に開催されるアジア・太平洋水サミットの分科会およびサミットに反映させる
193151008	1	3151	記録集「工業用水50年の歩み」の編纂	社団法人日本工業用水協会	会長	神田 真秋	東京都	工業用水道事業法が平成20年に制定50周年を経過することから、この間、産業発展・地域振興に貢献してきた工業用水の歴史を整理し、その成果を検証した記録集「工業用水50年の歩み」を編纂し、水関係者に配布することによって、河川水を主な水源とする工業用水が我が国の産業の発展等に果たしている役割を、広く国民に啓蒙・普及する。
193151009	1	3151	河川(湖沼・港湾等も含む)における治水、治水施設等に関する見学会	学術団体日本河川開発調査会	会長	宮村 忠	東京都	河川における治水・利水施設が、藩政時代前後よりどのようにして人間生活と関わりを持ってきたかについて、歴史的に検証するとともに、河川及び流域の現状、社会的背景、地理的要因などを実際に現場へ向かい、治水・利水施設がどのように機能し、利活用されてきたかについて、具体的に解析すると共に現場での検証を行う。主な見学河川は、利根川(下流部)、相模川流域、大阪・淀川の3河川で実施する。
193151010	1	3151	木曾三川、揖斐川流域における治水の歴史と川と生活との関わりへの関心を喚起するための写真集の制作	木曾三川フォーラム	会長	可児 幸彦	岐阜県	揖斐川の歴史的写真資料を活用した写真集を制作する。この写真集は、今後の活動をつうじて配布され、治水の重要性と、川と人の生活のかかわりに関心をもってもらうために活用される。この写真集では、揖斐川流域多芸輪中(養老町船附)地域における伊勢湾台風による水害の貴重な記録写真と、その写真とまったく同じ場所の、現在の姿を見比べることが出来る。
193151011	1	3151	京都見聞録「京都の水と景観(ハイビジョン映像作品)」制作事業	京都府	知事	山田 啓二	京都府	京都は千年以上の長きにわたり水とうまく関わることで日本の政治・経済・文化の中心地として栄えた。今回、京都の水と景観をテーマに、空撮を取り入れ、水や川と生活文化の歴史を検証し、水や川に対する理解を深め、新たな水との関わりを考えるための10分程度のハイビジョン映像作品を制作し、広報する。啓発手段としては、府や府教委のホームページで発信したり、DVDを駅・博物館等で上映するほか希望者に貸し出す。

平成19年度 新規採択一覧(40/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193151012	1	3151	第1回アジア・太平洋水サミットでの「日本の水技術展」	日本の水技術展大分実行委員会	実行委員長	長野 健	大分県	「第1回アジア・太平洋水サミット」の併催イベントとして、日本の最新の水技術、伝統的な水技術をサミット参加者と来場者に紹介し、水分野における日本の技術を世界にアピールするとともに、日本人来場者に対しては、河川、ダムなどの身近な水環境愛護の重要性を啓発する。サミットに参加する各国首脳に対しては、日本の水技術のアジア・太平洋諸国への移転促進も目的とする。
193161001	1	3161	北海道「子どもの水辺」全道交流会開催事業	北海道“子どもの水辺”全道交流会実行委員会	実行委員長	辻 勲	北海道	現在、北海道地域には33ヶ所の「子どもの水辺」があるが、十分には連携が取れていない現状がある。北海道地域の各「子どもの水辺」は活動の有無に関わらず様々な課題を抱えており、その中には連携強化による情報交換・意見交換等で解消できるものも少なくない。そこで、全道規模のアンケート調査による活動実態の把握、交流会開催による情報交換・意見交換を行い、北海道地域の「子どもの水辺」の活動の更なる活性化を行う。
193161002	1	3161	河川由来の散乱ゴミの発生抑制に関する流域間交流研修会等の開催	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス	理事長	西村 修	山形県	海岸漂着ごみの6～8割が河川由来の生活系ごみであると推察されている。有効な対策として、回収活動及び河川流域における発生抑制の促進を挙げられるが、山形県最上川流域をモデルに発生抑制を促進させていくため、流出状況等を把握すると共に行政、民間企業等の関係者を交えた研修会等を行う。
193161003	1	3161	まちづくりの視点による流域ネットワークを活用した釜川をテーマとする地域啓発活動	栃木県立宇都宮工業高等学校	校長	岡村 悦夫	栃木県	釜川は宇都宮市の顔である。都市部では洪水防護の観点から人工2層河川で、上部部の河川の悪臭や汚れが市民から指摘され、多くの機関や団体が清掃活動などを独自に行っている。この活動では、釜川で活動している団体等のネットワークを構築し、釜川浄化活動の協同実施や市民が親しめるような環境作りを通し、よりよい河川環境の創造を目指す。さらに、釜川をテーマとするまちづくりの視点を踏まえた地域環境啓発活動を展開する。
193161004	1	3161	「水」を通しての上流水源地と下流受益地との交流事業の実施	千葉県上下流交流事業実行委員会	会長	石渡 哲彦	千葉県	千葉県の水源として将来重要な施設となる八ツ場・湯西川ダムの水源地域である長野原町及び日光市と「水」を通じた各種交流を行う。具体的には本県内とダム水没地域関連の小学生同士の交流会、本県における水源地域のPR、シクラメン・温泉贈呈等を実施する。地元では、関連ダムの本体関連工事着手、特に八ツ場ダムにおいては、代替地の整備・分譲という新たな展開を迎えることとなり、水源地域対策の一つとしての役割は大きい。
193161005	1	3161	「第3回川の日ワークショップ関東大会」とブックレット「荒川両岸まち歩き3ー平井・船堀・葛西ー」の出版	特定非営利活動法人あらかわ学会	理事長	鈴木 誠	東京都	荒川をはじめ関東の各河川で活動している個人・団体に呼びかけ、それぞれの活動の取り組みや成果を自慢(3分間の発表)をして、よりよい川づくりに対する情報や思いを共有する。また、ブックレットのシリーズ3として「荒川両岸まち歩きー平井・船堀・葛西ー」を出版・頒布し、歴史民俗・自然環境・美術・写真・IT広報委員会を擁するあらかわ学会ならではの荒川紹介・荒川の楽しみ方を紹介する。
193161006	1	3161	みんなで考える“いい川”“いい川づくり”公開選考会・2007年「川の日」ワークショップの開催	「川の日」ワークショップ実行委員会	実行委員長	宮口 ? 廸	東京都	「川の日」ワークショップは、日本の“いい川”とは何かをテーマに、国内外の河川や流域の様々な水辺の活動を住民や行政等に呼びかけ、公開選考会方式のワークショップを開催してきた。今回は第10回記念大会として、“いい川”や“多自然川づくり”をテーマにシンポジウムを行うとともに、これまでの優良事例にも呼びかけ、レビューワークショップや通常の公募による公開選考会を行い、“多自然川づくり”の推進に寄与したい。
193161007	1	3161	日本全国打ち水大会議の開催	打ち水大作戦本部	作戦本部長	尾田 栄章	東京都	生活の中での水を再利用(水資源を有効に活用)し、ヒートアイランド現象及び地球温暖化防止に取り組む「打ち水大作戦」は、2007年に5年目という節目を迎える。打ち水を通じた環境・まちづくり活動に取り組む各地の打ち水人のアイデア・経験をそれぞれが直接共有し、水循環の視点から水の大切さを楽しく、わかりやすく発信することで、打ち水大作戦がより広がり、生活に根付いていくことを目指して、本事業を実施する。
193161008	1	3161	「川の駅」連携設営による流域交流・連携のしくみづくりと実践	特定非営利活動法人地域交流センター	代表理事	田中 栄治	東京都	木曾川流域では、平成12年に飛騨・木曾川・伊勢湾首長交流会が発足し、当会の呼びかけで流域のEポート交流会が定例化され、平成18年度には、1000人規模の大会に育ってきた。この交流会等の成果によって、流域市町村の親睦は深まり、流域の交流と連携を定着させるための「川の駅」についての理解が深まり、木曾川流域の数市町村で連続的にネットワークする案が浮上ってきており、その実現のための調査実験活動を行う。

平成19年度 新規採択一覧(41/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193161009	1	3161	よこはまかわのフォーラム2007	よこはま川のフォーラム実行委員会	代表世話人	清水 靖枝	神奈川県	8水系の河川の流域で活動する市民団体等が、市民と行政及び市民団体間が連携し、水辺の魅力のアピールと水辺の活動を多くの市民が体験できる機会の提供を目的に「地域で行われる活動を公開型として流域単位で連携させたイベント」と各地域、流域で行われた活動の「報告会・フォーラム」を開催します。このイベントを各流域の小中学校と連携して開催することにより、総合的な学習への支援を同時に広範囲で行います。
193161010	1	3161	自然共生シンポジウムの開催	岐阜県自然共生工法研究会	会長	河村 三郎	岐阜県	本研究会発足より5年が経過し、各種勉強会・河川環境メッセなどの行事を行ってきた。自然共生工法は認知度は上がっているものの、地域環境・知識・実績・経費等の問題により実際の施工は少数にとどまる。今回の事業は、そのことに対し立場(産・学・民・官)を超えた議論により、多自然川づくりのあり方や、手法について学び、今後の方向性を探るとともに業務や市民活動に活用できる行事をシンポジウム形式で行いたい。
193161011	1	3161	第12回水シンポジウム	第12回水シンポジウム実行委員会	委員長	山田 正	愛知県	水が自然や人間に与える様々な恩恵と河川を中心とした水の諸問題について住民、学会、行政、民間が幅広い討議と意見交換を行い、それぞれの役割を明確にし、かつ連携を深めることにより、『水と人との好ましい関係』を全国に発信することを目的として、土木学会水工学委員会、国土交通省中部地方整備局、愛知県、名古屋市、市民団体等により実行委員会を組織し、シンポジウムを開催するため申請するもの。
193161012	1	3161	『サクラマスの駅伝』体験に学ぶ流域交流と河川景観の探訪	日野川流域交流会	代表幹事	渡邊 光一	福井県	岐阜県境付近の水源から日本海に注ぐ日野川は、県北部の南越前町から福井市の市街地を流れ、農工業において極めて住民生活に密着した川である。また、魚類・鳥類・植物など多様な生態系を見ることができる生き物の宝庫でもある。この恵まれたフィールドでポートやカヌーを使ったリレー形式の活動を行い、知識と経験を共有し、流域住民が一体となって河川景観の保全に向けた事業を行う。
193161013	1	3161	琵琶湖・淀川流域圏・私たちの水辺を探す旅	琵琶湖・淀川流域圏連携交流会	代表幹事	石山 郁恵	大阪府	琵琶湖・淀川流域圏は、幾つもの都が栄え政や精神において日本の中心であるとともに、人・物・情報が集まる中で独自の水文化を創造・発信してきた。流域住民がこの暮らしと共にある水辺を訪れ、物語の一つひとつを紐解くことで「琵琶湖・淀川流域圏」の特性が見えてくるのではないだろうか。本事業では、本交流会の幹事が、地域の視点で水辺の魅力を伝える企画を行い、その魅力をまとめ、広く発信することで流域再生の一歩とする
193161014	1	3161	「私の水辺」大発表会(近畿府県間交流)	「私の水辺」大発表会(近畿府県間交流)実行委員会準備会	会長	美濃原 弥恵	滋賀県	NPO、市民団体、行政、学校、子どもなど多様な人材がパートナーシップを築き、良好な水辺空間の再生・創造を行う契機として、近畿府県からの子どもたちに、水辺活動の先進的な事例を発表いただき、次世代の担い手である子どもたちの水辺体験・学習活動の発展・広がりを目指すとともに、水辺への関心・愛着の向上、上下流・府県間など、水辺に関わる団体間の交流を目指すもの。
193161015	1	3161	猪名川流域連携に向けた調査活動と、「水辺まつり&水辺フォーラム」の開催	水辺フォーラム実行委員会(発起人・事務局:自然と文化の森協会)	実行委員長	内田 大造	兵庫県	猪名川流域のネットワークづくりに向けた調査研究会を行う。研究内容は、漁業組合協力による魚類の調査と大阪大学の各研究室協力による重金属の生物濃縮について、他、生物調査・水質調査など。また流域住民の河川への理解を深めるため「水辺まつり&水辺フォーラム」を開催し、カヌーやEポート・魚の手づかみなどの水辺体験や調査研究の発表、河川での様々な主体による取り組みの情報を発信する。
193161016	1	3161	太田川流域子ども交流事業	太田川流域振興交流会議	会長	毛利 隆美	広島県	太田川流域振興交流会議・環境ボランティア団体・子ども会の三者が協働し、「太田川を学び親しむ」「太田川の自然を守り育てる」ことを目的として、太田川水系の清流と恵みを伝えるプログラムを子ども達に提供することにより自然環境保全の啓発を図るとともに、環境ボランティアに対し指導を行いつつ活動の機会を提供することにより企画立案・経費積算・管理運営等のスキルアップを図り、もって自然環境の保全と創造に資する。
193161017	1	3161	筑紫次郎・筑後川と四国三郎・吉野川との相互交流の推進と共同カレンダーの作成	特定非営利活動法人筑後川流域連携倶楽部	理事長	駄田井 正	福岡県	筑紫次郎・筑後川と四国三郎・吉野川で活動するNPO団体の流域を超えた兄弟縁組の交流を進める。その具体的な活動として、両川の魅力伝える2008年版カレンダーを協同して作成する。7月の吉野川フェスティバル、8月の筑後川フェスティバルで相互訪問し、このカレンダーを流域の人々に紹介し双方の流域内に広げながら、兄弟縁組交流を進めていく。カレンダーづくりはテーマを変えて次年以降も継続していく予定である。

平成19年度 新規採択一覧(42/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193161018	1	3161	第21回筑後川フェスティバルin日田	特定非営利活動法人ひた水環境ネットワークセンター	理事長	諫本 憲司	大分県	筑後川を豊かできれいな川にしようとする流域の人々が集まり、連携して始めた「筑後川フェスティバル」を今年は日田市で開催する。特に、これまでに水環境の改善を目指して議論を重ねてきた「ゆたかきよら筑後川宣言」をこの大会で実践に向けて前進を図る。また、「筑後川子ども環境サミット」も併せて開催する。このことを通じて流域の連携を深めるための各種イベントも行いながら河川浄化や環境啓発活動を更に強化する。
193161019	1	3161	第8回全国源流シンポジウム・五ヶ瀬川源流大会の開催	第8回全国源流シンポジウム実行委員会	実行委員長	秋本 治	宮崎県	第8回源流シンポジウムは、宮崎県の五ヶ瀬川源流、五ヶ瀬町にて開催します。源流地域は過疎化、高齢化、産業の喪失が著しく、地域を管理する人の維持さえ難しくなっています。第8回源流シンポジウムを九州山地の中央・五ヶ瀬町で開催するに当たって、山村を守るために培われた、山村の生活、技術、文化等山村資源の宝庫でもあるこの地から、新たな源流再成の提言を示し、その提言が具体的な活動に繋がるよう全国に発信します。
193171001	1	3171	ダム役割を考える国際セミナー	財団法人ダム技術センター	理事長	濱口 達男	東京都	ダムの果たしている役割と影響について、国民に両者のバランスのとれた理解を促進することを目的として、我が国及び海外のダムが果たしている役割と効果・影響等に関する論点整理資料を整備した上で、その内容を十分に踏まえた内外の専門家等による国際セミナーを開催し、その成果を広く発信する。
193171002	1	3171	第1回アジア・太平洋水サミット	特定非営利活動法人日本水フォーラム	事務局長	竹村 公太郎	東京都	第4回世界水フォーラムの準備活動の過程で、アジア・太平洋地域の水問題の解決を目指したネットワーク「アジア・太平洋水フォーラム」構想が提案され、設立された。この地域の水問題に対する具体的な行動を実行していくために、各国の政策に直接携わる首脳、各分野のリーダー、国際機関のトップによる「第1回アジア・太平洋水サミット」を大分県において開催する。本サミットは、アジア・太平洋水フォーラムの最も重要な活動の一つ。
193171003	1	3171	応用生態工学会シンポジウム「生命の水を人と生物はいかに分ちあうか(仮称)」実施事業	応用生態工学会	会長	山岸 哲	東京都	河川法における「環境」の内部目的化、これに伴う多自然型川づくり、河川生態学術研究、自然再生等の取組みの中で、望ましい河川の管理目標の樹立に向けて研究や各種事業が進められている。学会設立10年を経た今、「人類と自然にとって水の管理をいかにすべきか」という課題に関する国際的な権威者を招聘し、日本の水に対する技術の現状及び海外への協力のあり方をテーマにしたシンポジウムを開催し、意見交換を図る
193181001	1	3181	シンポジウム「美しい国づくりー川と人ー」	特定非営利活動法人美しい国づくり協会	理事長	進士 五十八	東京都	美しい国づくりを実現するためには、民・官・学の連携と、土木・建築・造園等の専門家の交流が不可欠である。このため、景観の向上に携わる関係者が一同に会し、情報と意見の交換を行う場を継続的に提供するため、定期的にシンポジウムを開催、概要をホームページに公開し、全国の現場で景観づくりに携わっている方々を支援する。
193181002	1	3181	小河内ダム竣工50周年記念シンポジウム及びダム展	東京都水道局	局長	東岡 創示	東京都	小河内ダムは、戦後の復興期から現在まで都民生活と都市活動を支える貴重な水がめとしての役割を果たしてきた。本年竣工50周年を迎えることを契機にダムの重要な役割を次世代へ継承し、多くの方々に引き続き愛されていく施設とするため、シンポジウム及びダム展を開催する。都市とダムとの関わりや環境との共生などの視点からの意見交換や展示等を通じ、親しまれるダムをPRするとともに、ダムの必要性への理解を深める。
193181003	1	3181	河川伝統工法による良好な河川環境の保全と復元を促進するための普及活動	特定非営利活動法人新河相学堂	理事長	田村 喜子	東京都	良好な河川環境保全・復元など「河川伝統工法の現代的意義」を河川管理者、施工業者、土木コンサルタント及びNPO法人や市民を対象に、①講習会とシンポジウム、②河川伝統工法技術研修会、③現場観察会を実施する。これによって、上記対象者が河川環境のあり方を共通認識するとともに、「多自然川づくり」など生態系や景観を重視した河川事業の方法として「河川伝統工法」の普及とこれを指導できる人材の育成とする。
193181004	1	3181	関川に存在する縄文埋没林の成因解明と報告会等の開催	特定非営利活動法人関川水辺クラブ	理事長	小林 正夫	新潟県	「関川水辺の楽校」登録地内の河床にて発見した縄文中期の埋没林について、18年に実施した調査の結果、上下流4kmの広範囲に渡って約170本が分布することを確認した。(年代分析は外注中) 本年は、周辺の地質調査等を行って埋没林の成因並びに高田平野の成り立ちを探り、その結果をもって一般市民を対象とした現地報告会の開催や学習素材として紹介するとともに、埋没林を活用した周辺整備について関係機関に提案する。

平成19年度 新規採択一覧(43/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193181005	1	3181	水と森の環境保全に関する講演会等の開催	水源地の水の一滴塾	発起人	菅原 文太	東京都	半世紀を要し完成した徳山ダムは日本一の水との森を持つダムとなる。一方、地球温暖化により、将来、大干ばつや大洪水等が懸念される。日本一の水と森の出現を契機に、一滴塾は、文化、芸能、研究等各界のオピニオンリーダーから構成し、水と森をテーマとする講演会等を実施し、水資源の大切さや環境保全の重要性等について、広く一般の認識・理解を深める活動を行うものである。
193181006	1	3181	河川文化講演会等の開催および、新聞広告等の掲載による広報活動事業	社団法人中部経済連合会	会長	川口 文夫	愛知県	21世紀の中部の持続的発展のため、河川行政や水資源環境の改善に向けた様々な活動に対する一般市民の理解を深めることを目的に、講演会の開催、新聞広告等により幅広い啓発活動を行う。また、講演会については抄録を作成・配布し、啓発活動の一助とする。新聞広告は水の日(8月1日)に、地元主要紙において河川・水資源行政に係わる意見広告を掲載する。
193181007	1	3181	日本型ダム湖陸水学の構築プロジェクト	ダム湖陸水研究会	代表	谷田 一三	大阪府	日本列島(おもに主島)の風土と景観に根ざしたダム湖陸水学を構築するために、ダム湖の富栄養化やダム下流河川の水質生態などに関するワークショップ、そしてデータベースの横断的・統合的構築を行う。収集した知見や情報を一般社会及び河川管理者などのステークホルダーに普及・還元するために、公開講演会を開催する。これらの事業を基にして、将来は「ダム湖陸水学」の教育用テキストなどの公開を目指す。
193181008	1	3181	地下水地盤環境に関するシンポジウム2007―流域圏の水循環再生と地下水利用―	地下水地盤環境に関する研究協議会	座長	村岡 浩爾	大阪府	流域圏の水循環健全性が求められる中、地下水を循環系の一員として治水、利水、環境の施策に寄与する手法・技術等を論じ合うシンポジウムを開催する。大阪平野地下水流動の広域、部分域涵養モデルの活用とその実証的研究、河川と周辺地下水の涵養関係、環境保全のための地下水・地下熱利用、地盤沈下・地下水障害を視野に入れた新たな地下水管理などを話題にする。
193181009	1	3181	全国なぎさシンポジウムin徳島	全国なぎさシンポジウムin徳島実行委員会	会長(徳島県知事)	飯泉 嘉門	徳島県	平成19年11月8～9日に、徳島市を主会場に「全国なぎさシンポジウムin徳島」を開催する。当シンポジウムは、各海岸行政担当者、海岸美化活動に参加する小中学生やNPO法人、海岸部の環境や生態系の研究に關係する各種団体及び一般の方々等、県内外からの参加者が、人と海の接点である「なぎさ」を通じて、その役割と大切さを再認識し、豊かで美しい「なぎさ」を守り再生する方策について意見交換を行うものである。
193181010	1	3181	愛媛ボウサイッコ育成プロジェクト	愛媛大学	学長	柳沢 康信	愛媛県	愛媛大学と四国地方整備局松山河川国道事務所ならびに新居浜市教育委員会が主体となって、新居浜市の小中学校30校の生徒を対象に防災教育を行う。新居浜市は平成16年に台風で連続して3回の洪水災害を受けており、防災意識が高い。小中学生に防災講演と総合学習の時間を活用した防災講義を通して防災まちづくりを行う。それを通して、ダムや河川整備などの必要性を保護者共々認識してもらう。
193191001	1	3191	埼玉県内の川と祭り	彩の川研究会	会長	小林 寿朗	埼玉県	古来より祭りは川との関わりが深く、河川への感謝・畏敬・尊敬を込めた行事や儀式が多く見られる。平成18年度は県内の川と祭りについて資料の収集整理及び現地調査を行った。その結果、地形や地域によって祭りや神社の分布に特徴や性格の違いのある事が明らかになった。平成19年度は、特徴を持った祭りについて直接参加するなど更に調査研究を行い、川と地域の緊密な関係を明らかにし、人々の川への関心を高めるものとする。
193191002	1	3191	流域経営の視点から見たWeb-GISによる情報共有プラットフォームの運用―荒川流域、川にかかわる伝承、技能、文化等の記録と次世代へ継承するコンテンツ制作―	特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク	代表理事	恵 小百合	埼玉県	Web-GIS用市民環境活動情報共有システムを構築したので、各地域団体の活動コンテンツ等を制作し共有する。コンテンツ制作にあたり具体的な地域事例を取材呈示し、各団体自身がWebコンテンツを制作・アップ・更新・修正できるよう講習する。同時に荒川流域、川にかかわる伝承、技能、文化等の記録と次世代へ継承するコンテンツを制作する。
193191003	1	3191	「ダムなんでも相談室―水循環―」	ダム工学会	会長	阪田 憲次	東京都	平成19年7月、科学技術館(東京)において「水の展示会」が開催され、1日に2000人の来場者が予想される。同期間(5日間)に「ダムなんでも相談会」を開き、模型展示やダムクイズなどに夏休みの親子を呼び込む。約2000人(平成18年度実績)プラス500名の参加者を見込んでおり、ダム技術者がダムの役割や水循環について語りかけ、ダムに関するさまざまな疑問に答える。

平成19年度 新規採択一覧(44/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193191004	1	3191	河川行政に関するオーラルヒストリー	河川行政に関するオーラルヒストリー実行委員会	委員長	御厨 貴	東京都	戦後河川行政史上の重要課題に対する政策決定の経緯について、それに深く関わった人に語ってもらい、オーラルヒストリーとして整理する。
193191005	1	3191	海洋ごみ問題改善に向けたフォーラムの開催と広報啓発ツールの作成	クリーンアップ全国事務局	代表	小島 あずさ	東京都	きれいな海辺を取り戻すため、海岸漂着ごみ問題に関わる関係者(行政、関係機関、業界団体、国内外NGO、研究者ら)が現地状況の確認の上、関連情報の共有に務め、解決に向け連携した対応を進めるためのフォーラムを佐渡市(新潟県)で開催する。また、本フォーラム関係者の協力を得てごみの発生抑制を目的とした広報啓発ツールを作成、発行、配布を進め、特に陸域起因(河川由来)のごみの減量、環境負荷の低減に寄与する。
193191006	1	3191	川や水の活動団体調査	社団法人日本河川協会	会長	近藤 徹	東京都	全国の川で活動している団体の活動内容を調査し、ホームページにおいて公表して、団体相互の情報交換、団体と行政、企業、大学、研究機関の連携に役立てるとともに市民参加の促進を図る。
193191007	1	3191	日本水大賞	日本水大賞委員会	委員長	山岸 哲	東京都	全国における水循環の健全化に寄与する活動を応募し、表彰するための「日本水大賞」制度を継続することにより、広く国民に水環境の重要性を訴えたとともに啓発を行う。優秀な研究活動を行っている諸団体、個人、学校、企業、行政に発表の機会をあたえ、全国にその事例を発信する。水環境問題に取り組むに対する奮起を促すことにより、我が国の国土の保全と国民福祉の向上を図る。
193191008	1	3191	平成19年度「森と湖に親しむ旬間」全国行事業	「森と湖に親しむ旬間」全国行実行委員会	会長	齊藤 弘	東京都	河川・ダム、水源地等の水資源の重要性に対する国民一般の関心と理解を高め、水資源の円滑な開発に資するため、全国対象公募事業を実施、また全国的な広報活動を展開する。
193191009	1	3191	「共生・協働のダムづくり」事業	NPO法人共生のエートス	理事長	秋本 貞光	山口県	3月(予定)本川(真締川)側の堤体完成を以って本体工事が完成する。完成を祝い、4月に「本体工事完成記念植樹祭」を開催、と共に両堤体周辺の管理開始、更にその平面地をハープ圖とする(エートス)。本年3月より貯水を開始、秋口には県が竣工式を予定、同時に国内初の官民協働の地として石碑の建立を計画(エートス)。7月に第3回官民協働シンポジウム開催。12月5種の桜125本ダム周辺に植樹。来年4月第6回植樹祭。
193201001	5	3201	国民的啓発運動部門の継続的助成	豊平峡・定山溪ダム水源地域ビジョン推進会議	代表	上野 昌男	北海道	豊平峡・定山溪ダム水源地域ビジョン推進会議は、平成18年6月に設立した団体であり、その活動内容は、同ビジョンで提案した自然環境、体験学習、歴史・文化、交流・連携の4つの基本方針に基づき、ビジョンで提言した行動計画の実現に向けて活動を開始している。具体的には水源地域での自然観察会、環境学習、フットパスの計画、市内の小中学校100校に対して環境学習に関するアンケート調査等を実施している。
193201002	5	3201	白神山地の水質体験調査	特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校	代表理事	永井 雄人	青森県	白神自然学校一ツ森校は、白神山地の山・川・海の自然を創造的に活用した自然体験の活動を実施し、ゆとり教育・環境教育のリーダーを養成し、地元地域経済の振興のために森林整備・農村振興・自然公園の整備など幅広い森林保全作業や河川環境から環境教育を学ぶことに力を入れた授業を通じ、全国から白神山地を訪れる方々に、自然との共生を取り入れた授業を展開し、持続可能な社会への貢献活動を実施しています。
193201003	5	3201	継続的助成	特定非営利活動法人グラウンドワークいわて	代表理事・常務理事	川村 勝見	岩手県	花巻市の一級河川後川の環境再生に取り組む住民組織「後川に清流をとりもどす会」の自立と住民の啓発を促す為主に以下の事業を継続的に実施する。①継続的河川清掃、②アドプト流量管理による水質変化の調査及びシミュレーション研究、③後川の歴史・文化を踏まえた流域散策地図の作成による啓発事業、④流域の水害自主防災の研究による啓発事業、⑤地元小学校での会員による継続的な総合的学習の支援、⑥上下流住民の交流連携事業

平成19年度 新規採択一覧(45/45)

助成番号	助成期間	現在のテーマ番号	申請事業名	所属機関名(団体名)	申請者職名	申請者名	府都県道	申請概要
193201004	3	3201	継続的助成「最上川リバーツーリズム・ネットワーク」の組織運営パワーアップ	最上川リバーツーリズム・ネットワーク	代表理事	佐藤 五郎	山形県	本会は、平成16年度に国土交通省の観光交流空間モデル事業(平成17年度から観光地域づくり実践プラン)に選定された、最上川流域観光交流推進協議会に参画する市民団体のネットワークとして、これまで同協議会と協働で自然豊かな最上川と沿川の地域資源とを結びつけた歩き主体の観光促進(セミナー、HP、案内看板調査等)を実践してきた。この動きを継続的で安定的にするために、今春NPO法人化により組織運営の強化を図る
193201005	5	3201	国指定天然記念物「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」における河川域樹木伐採範囲の植物刈り取り作業を中心とした啓発活動	十三崖チョウゲンボウ応援団	会長	武田 典一	長野県	国指定天然記念物「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」では、夜間瀬川沿いの崖の巣穴と河川敷の餌場が樹林化のため減少し、営巣数が激減した。行政機関は営巣数回復を目指し樹木を伐採したが、その状態の維持のため生育する植物を刈り取る予定はない。そこで本会が植物の刈り取り(春～秋)と、観察会(春)、勉強会(冬)、調査(四季)、自然解説講習会(春夏)を行い、会員と市内外の人々に河川生態系とその再生について啓発する。
193201006	5	3201	子どもたちが教えてくれる流域特性～川あるきワークショップ～	特定非営利活動法人子どもと川とまちのフォーラム	理事長	井手 慎司	京都府	河川はそれぞれの川相とも言える特性を有している。この川相の一つひとつについて、子どもたちの素直な目を通して調査するとともに、調査結果を整理することで、京都を中心とした淀川流域の特性を明らかにする。具体的には、子どもたちによる川探検、探検マップの作成、周辺住民への聞き取り、その結果を踏まえた、大人を交えたワークショップを10河川で行い、その結果を様々なメディアを通じて発信していく。
193201007	5	3201	守屋池周辺の小中学校生徒・地域住民に対する学習会の実施、及び水質浄化・環境保全活動の推進事業	NPO法人 ONEWORLDforchildren	代表理事	松本 一美	大阪府	市内守屋池において周辺の小中学生を対象に、水質・生物調査・池に生息する葦等を使っての水質浄化実験の実施、また生息する葦を使っての葦舟作り、水辺遊び等の体験学習、地域の池にまつわる歴史学習会の実施、これらの活動の発表会を地域で毎年度開催し、複数年度の活動の記録、結果を小冊子にまとめる。また地域住民対象の水辺空間に対する理解を深めるための学習会を開催する。
193201008	5	3201	川沿いの歴史景観の再生と環境・歴史教育のコミュニティ拠点づくり	特定非営利活動法人ARTNPOTACO (TOSAARTSCONFERENCE)	理事長	信田 英司	高知県	高知の市街地を貫流する江ノ口川沿いに立つ、かつて水運の拠点としても使われた歴史ある蔵を再生し、ここを拠点に川をテーマとする展覧会や川辺や町並みを歩きながらの写真撮影ワークショップ、地域の歴史・文化と川との関わりについて学ぶ講演会などを展開し、川と街との関わりを見つめ直すきっかけを創出する。